

Worldwide
Olympic Partner



Worldwide
Paralympic Partner



パナソニックグローバルキャラクター

ネイマールJr. 選手

サッカーブラジル代表
FC Barcelona 所属

Panasonic

Wonders!
by Panasonic

パナソニックの企業市民活動はこちら panasonic.com/jp/corporate/sustainability/citizenship.html

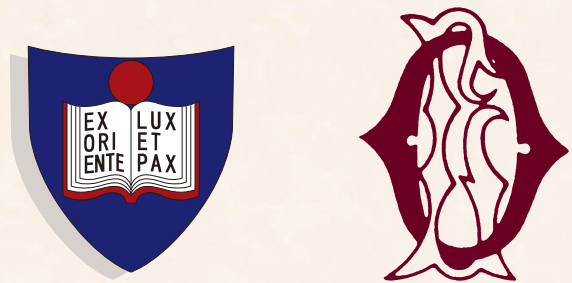
咲耶

〔表紙のことは〕5年後(2021年)、箕面キャンパスが箕面・船場地区に移転することになった。大阪外国語大学が、にぎやかな大阪の下町から、ウグイスが鳴き野生の猿も目撃される箕面の山の中に移転したのは1979年夏。古い「外大」生にとってはついこの間のようでも、すでに38年が過ぎ、「懐かしのキャンパス=箕面」という学生が、外語の歴史の4割を占めることになる。船場に移転する2021年は、奇しくも「大阪外国語学校」創立100周年に当たる。「外大」「外語」という言葉から思い浮かべるものがそれぞれ異なる100年間、そしてこれからの卒業生をつなぐ「同窓会」とは何か。今号から4号にわたり表紙で歴代のキャンパスを振り返り、残していきたい歴史や諸先輩の足跡をたどって「同窓」の意味を問い直していきたい。

大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会

会報「咲耶」
2016 No. 27

咲耶会の収支を、一日も早く“Primary Balance”化するため 皆さまのさらなるご協力を！



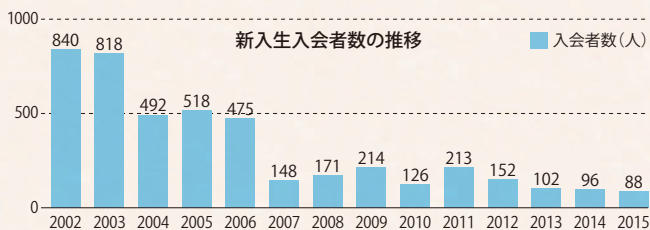
目次	
1	会員の皆さまへ（会長 少徳敬雄）
2	ご挨拶（大阪大学総長 西尾章治郎） （大阪大学外国語学部長 東 明彦）
3-4	平成 28年度 大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会 「いま語る司馬遼太郎」
5-7	【特集】 司馬遼太郎没後 20年
8	菜の花「10周遅れの愛読者」
9-12	【特集】 留学体験記
13-14	私のキャリアレポート
15-19	CAMPUS NEWS
20	懐かしの恩師は今
21-22	部活動の広場
23-26	咲耶会ニュース 平成27年度 決算報告・平成28年度 予算案
27-29	つどい
30-36	支部だより
37-39	短信
40	物故者
41	追悼文
42-44	年会費支払者・賛助金寄付者一覧
45	咲耶会（同窓会）本部・支部一覧表
46	平成28年度 咲耶会役員名簿 個人情報の取扱いについて 編集後記



会長
少徳敬雄

昨年中に咲耶会会員、教職員の皆さまから賜りましたご協力、ご支援に感謝申し上げます。

咲耶会は前年に引き続き新入生への入会勧誘活動に励みましたが、大変厳しい結果に終わりました。今年は、従前の合格時・入学時・卒業時の直接の呼びかけや新入生歓迎会に加えて、入学式に同行された保護者の方々に向けての入会説明会を行うなど、新入生に的を絞った諸活動を実施してきましたが、新入生約600名中、入会者は100名未満と、会員数増に結びついていないのが現状です。



年会費および会報『咲耶』への賛助金は低レベルながら増加傾向です。ただ、単純合計で、約2,000名、会報発送数
の1割程度にとどまっています。新入生の入会勧誘とともに、既存会員・未入会のOBOGの同窓意識、咲耶会への関心を高めることにも努力していきます。

その一環として、支部の創設、活性化を図り、東北支部創設について北海道支部も再建され、今年6月に第3回支部総会が開催されたことは誠に喜ばしく思っております。今年中には「石川支部」が発足する予定で、これら、支部の新設・再建、また、他地域での既存支部の活性化が咲耶会へのサポートの強化・充実につながることを祈念しております。

支出の削減につきましても、外国語学部への拠出を峻別し、本来学部側で予算化されるべきものは学部に負担をお願いし、本会としては、大阪大学未来基金の「咲耶研究教育事業」への寄附集めに注力することにいたします。また、年3回の幹事会を2回にし、うち1回をインターネットを利用したテレビ会議として、地方から参加される役員の交通費を削減します。また、各支部への会長・副会長の出席は、周年総会等の特別な場合以外控えさせていただきます。会議等の会場もできる限り学内の施設を使い、さらに、長期にわたる年会費未納の方には会報『咲耶』の送付を中止するなど、幅広く経費削減を図って、収支バランスの改善に努め、本平成28年度は、先輩の遺産を借用させていただく額も300万円まで減少しております。早期にプライマリーバランスを確保し、“持続可能”な姿にするため、役員・事務局員とも一層の努力を続けますので、会員の皆さまにはご支援をよろしくお願い申し上げます。



大阪大学総長
西尾章治郎

『咲耶』27号発行にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本号は、司馬遼太郎さん没後20年の特集号とのこと。巨星が逝ってから20年の歳月がたちました。私は、司馬さんとの直接の面識はありませんが、飛騨地方で幼少時代を過ごした私にとって、「山国で、高冷で、生産性がひくかったればこそ、文化が沈殿し、いい酒のように熟成されたのである。いま飛騨はかえって新鮮なのではあるまいか。」という、司馬さんが街道をゆくシリーズの「飛騨紀行」に書かれたこの文章が、懐かしさや故郷への誇りとともに私と司馬さんを強く結びつけてくれています。

司馬さんは、日本の光が当たっていなかった土地や人と真摯に向き合い、「日本文化とは」、「日本人とは」を発信してこられました。今、再びそれに触れたとき、私たちは日本文化の中に生きることの意義を再認識できるのではないのでしょうか。我が国の大学を取り巻く環境が大きく変容する中、大阪大学では、「OU(Osaka University)ビジョン2021」を掲げ、大阪大学創立90周年、大阪外国語大学創立100周年を迎える2021年を見据え自己変革を進めています。

「人間にとって、人間ほど刺激的なものはない。人間は、民族によってさまざまな文化を衣類とし、あるいは思考法とし、また生きるよすがとし、さらにはそれをamusementsとしている。それらのむれと、現実には、もしくは観念の上でつきあう方法と思想と實際を教える大学は、日本でこしかなない。」司馬さんが大阪外国語大学のために書き下ろされたこの文章は、自己変革を進める際に大阪大学の構成員が大切にすべき大学観そのものです。

司馬さんの信念が、私たちの中にあり続けること、これは本学にとって、とても大きな宝であると確信しています。



大阪大学外国語学部長
東 明彦

—外国語学部近況報告—

平素は外国語学部にご高配を賜り、ありがとうございます。

外国語学部は本年3月には、592名の卒業生を送り出し、4月には、620名の入学者を迎えました。入学者の約65%は女性です。

統合により大阪大学外国語学部が誕生してからすでに9年が経過し、今年は、大阪大学生として入学した学生(25専攻語、募集定員580名)の第5期生が卒業しました。

この間、外国語学部では、社会のニーズに対応した教育環境の整備に努め、特に、学生の海外留学・研修に力を入れてきました。大学間、部局間の交流協定に基づいた交換留学のほか、海外の大学と連携し、中国やタイ、ミャンマー、ロシア、イタリアで外国語学部生用の研修プログラムなども開設しました。

また諸言語でのスピーチコンテスト等への参加も重視しています。学内でコンテストを実施するとともに、学外で開催されるコンテストへの参加も奨励しています。この4年間で、学外の大会で優秀な成績を収めた10名以上の学生に学部長賞を授与しました。

外国語学部のミッションは、伝統的に「グローバル人材の育成」です。そのような観点から、学部の専門教育に尽力するとともに、総合大学の中での外国語学部として、全学的、部局横断的な教育にも種々取り組んでいます。一例を挙げると、2013年度から開始した理系の学生やアジア諸国の学生と共同で実施する海外インターンシッププログラムも4年目を迎え、実施国数はのべ9カ国に達しています。

5年後の2021年には大阪外国語学校創立100周年を迎えます。咲耶会の会員の皆様には、学部の教育・運営について引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

学 士 会 をご存じですか？

学士会は旧七帝大（北大・東北大・東大・名大・京大・阪大・九大）の卒業生・教員・学生からなる、七大学総合同窓団体です。咲耶会の皆さまのご入会をお待ちしております！

学士会会員特典

- 『學士會会報』が届きます。
- 講演会・イベントへ参加できます。
- 「学士会館」会員優待があります。

他にも様々な活動が可能です。詳細は学士会公式サイトをご覧ください。
<http://www.gakushikai.or.jp/>

学士会は、2016年7月、創立130周年を迎えました

一般社団法人 学士会

〒101-8459 東京都千代田区神田錦町 3-28
 03-3292-5933（平日 9 時～ 17 時）





主 催：大阪大学
共 催：産経新聞社
後 援：司馬遼太郎記念財団
協 賛：咲耶会(大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会)

テーマ：「いま語る司馬遼太郎」

【第1部】

解説「映像で見る司馬遼太郎 ― テレビの現場から」

NHK 大型企画開発センター チーフ・プロデューサー
谷口雅一

講演「司馬遼太郎と関西 ― 国民的作家の視点」

国際日本文化研究センター教授
井上章一

ビデオ・メッセージ

「懐かしい人 ― 司馬さんと語り合ったこと」

コロンビア大学名誉教授・日本文学研究者
ドナルド・キーン

【第2部】

対談 井上章一・ノンフィクション作家 後藤正治

司会：産経新聞大阪本社 編集委員 石野伸子
総合司会：NHK 金沢放送局キャスター 小川真由

平成28年6月18日、大阪梅田のサンケイホールブリーゼにて、恒例の司馬遼太郎記念学術講演会が開催された。今年は司馬の没後20年に当たる。



第一部では、まずNHK大型企画開発センターのチーフ・プロデューサー谷口雅一氏が「映像で見る司馬遼太郎―テレビの現場から」と題する講演を行った。平成28年2月に放映されたドキュメンタリー番組『司馬遼太郎思索紀行―この国のかたち』を手がけた谷口氏は、過去に収録された司馬のテレビ映像を改めて見直すなかで、そのコメンテーターとしての類稀な資質を再発見したという。テレビの中の司馬は、学者であれば退屈な専門的知見を羅列しかねない歴史の些細な事象に関しても、俯瞰的な視点から大きな把握をしたうえで、関わった人物の本質をずばりと言い当てる巧みな話法を駆使している。また『シルクロード』の一篇で実際にロケに同行した際の映像などを見ると、書物による徹底した事前調査を行っていた司馬が現地取材をいかに大切にしていたかもわかる。異郷の路傍でも身ぶり手振りで外国人

を魅了した司馬は、実は座談の名手として知られ、そういう意味ではまさに天性の語り手、テレビにうってつけの人材であったと言えよう。いっぽう、司馬の没後に制作されたドキュメンタリー番組『街道をゆく』では、同題のエッセイの朗読を交えた番組構成という新手法が成功し、同時代の目線を意識しつつ司馬作品を朗読という形で受容する形式が定番化していくことになる。さらに近年は「映像化は不可能」と司馬本人が指摘していた小説『坂の上の雲』までもが最新のVFX画像の助けもあってドラマ化されるなど、司馬作品と映像との関係は徐々に進化して現在に至っている。谷口氏自身、2月に手がけた番組では出演者による対話という新たな手法を取り入れるなど、司馬作品とテレビとの関係は今後も進化の余地がありそうだ。

次に、国際日本文化研究センター教授で、とりわけ関西では近著『京都ざらい』がベストセラーになっていることでも知られる井上章一氏が登壇し、「司馬遼太郎と関西―国民的作家の視点」と題する講演を行なった。司馬は、戦国時代や明治など動乱期を小説の舞台として好み、平安や鎌倉を創作の舞台にすることはあまりなかったが、明治以降の日本近代の礎となったマインドを形成した遠い祖先として、鎌倉武士の存在を再三特筆している。その根拠として司馬は、京の貴族や僧侶が所有してその上がりを吸い上げていた各地の土地を、鎌倉時代に武士たちが自らの所有地として実力で管理しだした、すなわち鎌倉武士たちこそが中国的中央管理システムである律令制やその後継制度たる荘園制を脱してヨ



井上章一氏

ーロッパ的な封建制を初めて日本に敷いた、それが後の日本近代の根となっているという説を持ち出すのだが、実はそのような歴史観は明治末期以降に東大系の歴史学者が中心となって形成した「特殊な新しい歴史観」であり、20世紀の歴史学界でも京都大学系の歴史学者を中心として異論が提示されてきた。異論に従えば、鎌倉武士を称揚する歴史観は、日露戦争勝利後の明治末期にナショナリズムの勃興とあいまって高まったヨーロッパとの競争意識が11～12世紀に投影されたものに過ぎず、また近畿を中心として展開していた従来の関西中心の歴史観を、明治以降の近代政治の中心となった東京中心に変造させる、いわば捏造された関東史観とでもいうべき代物である。実際には、平安期の荘園制が実質的に作り上げた経済体制に鎌倉武士もタダで乗ったというに過ぎず、日本の経済発展における転機を敢えて挙げるのであれば、それは、平安期以降に蓄積さ

れた物流の土台が商品経済システムとして定着する応仁の乱前後に当たると考えるのが妥当である。

皮肉なことに、大阪出身である司馬が関東史観を信じ込んでいた。それが顕在化するの京都大の歴史学者、林屋辰三郎との対談においてである(『歴史の夜咄』参照)。鎌倉で日本はいわゆる《脱東アジア》を果たし武士が牽引するヨーロッパ的封建体制となったと主張する司馬に対し、林屋は、鎌倉から封建体制が始まったわけではなく、そんなものは奈良時代からあったと反論する。同じことは網野善彦との対談でも繰り返され、律令国家をめぐる歴史観で二人は見解の差を見せているのだ。



ドナルド・キーン氏

第一部終了後、日本文学研究者のドナルド・キーン氏が司馬遼太郎との思い出を語るビデオメッセージが流され、近年ようやく出現した司馬文学の翻訳など、興味深いエピソードが披露された。

第二部では井上氏とノンフィクション作家

の後藤正治氏による対談が行われた。後藤氏は最初に読んだ司馬作品『梟の城』などを例に出し、司馬作品の人物がときおり見せるユーモア、おかしみが好きだと述べた。戦国期を好んで描いている司馬であるが、実際には権力にこだわる武将等の大人物より、その周囲で(まるで名もないサラリーマンのように)地道に活躍した仕事を丁寧に描いている。小説『関が原』で石田三成を前面に出すような司馬の人間観に大いに共感すると。いっぽう、産経新聞で大阪に関するコラムを連載中の井上氏は、司馬の大阪観を後藤氏に問うた。これに対し後藤氏は、司馬は全般に品性のない人間を嫌った、なにも大阪人特有の損得勘定を嫌ったのではなく、商売人でも教養のない趣味の悪い人間を嫌がったのだと答えた。実際司馬は、今以上に商都としての性格が強かった江戸期の大阪にあって、ビジネスの世界だけに留まらず、いわば大阪的な独自の学問を重視した山片蟠桃のような商人をたいへん高く評価していたのだと。

今回の講演会は、テレビと司馬という非常に斬新な視点からの話も刺激的であったし、また従来の礼賛調とは異なる井上氏のいわば「司馬批判」も新鮮であった。井上氏のユーモアたっぷりの話しぶりは決して嫌味ではなく、愛ゆえの(京都人ゆえの?)いわば《合いの手》のようなものとして理解し得る。近年ややマンネリ化しつつあった本講演会に新たな可能性が見えたような印象すらあり、聴衆も全般に大いに満足した(そして楽しまれた)ことと思われる。

(文責：松本健二) (写真提供：大阪大学広報・社会学連携オフィス広報課)

特集
司馬遼太郎
没後 20 年



司馬遼太郎さん略歴
作家。本名：福田定一。1923(大正12)年大阪市生まれ。1942(昭和17)年、大阪外国語学校・蒙古語部入学。太平洋戦争激化に伴い、1944(昭和19)年9月、大阪外事専門学校・蒙古科(1944年4月校名変更)を繰り上げ卒業。戦後、産経新聞社に入社。在職中から小説を書き始め、1960(昭和35)年、『梟の城』で直木賞を受賞。以降、歴史小説・エッセイ・対談など、さまざまなジャンルで多数の著書・作品を発表し続け、数々の文学・文化関係賞を受賞。「国民的作家」と呼ばれた。1991年文化功労者、1993年文化勲章受章。1996(平成8)年逝去。行年72歳。従三位を追叙される。2001年、自宅の隣接地に「司馬遼太郎記念館」が開館、約2万冊の蔵書や書斎など、その思考と制作の過程を垣間見ることができる。

記念館と外大精神の凝縮

上町台地に大阪外大のキャンパスがあったころ、新聞記者として初めて校門をくぐった。大学担当という学会や大学の動静を取材し記事にするのが仕事で、このときは、入試の合格発表の光景をカメラマンの写真とともにとらえるためだった。
帰宅してキャンパスの印象を「中学校みたい」と司馬遼太郎に話すと、「そうか」と笑顔を見せた。

その笑顔は学生時代への回想につながったのか、外大を選び、モンゴル語を学ぼうと思ったこと、昭和18年、学徒出陣で旧満州の戦車学校に行ったことなどを、茶の間で雄弁に語ってくれた。

中学校のような校舎、この印象は今も強く残っていて、この校舎にこそ外大の精神が凝縮されているのではないか。その中で司馬遼太郎も学び、友人の作家、陳舜臣さん、俳人の赤尾兜子さんらがいた、ことをときおり連想する。

私が新聞記者になったころだから、昭和40年代のはじめ、神戸のたこ焼きの店で3人の雑談の場に同席したことがある。3人はすっかり学生気分にもどったかのように、互いに笑顔をみせ、時には厳しい表情で語り合っていた。話の内容は忘れたが、ただ、その場にいただけで知的なエンターテインメントを味わうような気分になった。

中学校の校舎を思い出すとき、3人がカウンターに並んだ光景がだぶる。大阪外大の精神の凝縮の一端を感じたからかも知れない。

司馬遼太郎が亡くなって20年、記念館が開館してこの11月で15年になる。東大阪市の司馬遼太郎の自宅と隣接する敷地で建設するための地鎮祭を行ったとき、陳舜臣さん



司馬遼太郎記念館

住所/〒 577-0803 大阪府東大阪市下小阪3丁目11番18号 ▶電話番号/06-6726-3860 ▶開館時間/10:00 ～ 17:00(入館受付は 16:30まで) ▶休館日/月曜日(祝日、振替休日の場合はその翌日) 年末年始(12/28 ～ 1/4) 特別資料整理期間(9/1 ～ 9/10) ▶入館料/大人・大学生 500円、高・中学生 300円、小学生 200円、20名以上の団体は、入館料が2割引です。 ▶アクセス/近鉄奈良線「八戸ノ里(やえのさと)駅」下車 徒歩約8分「河内小阪(かわちこさか)駅」下車 徒歩約12分

が「花園の寮から大学に通う近鉄電車の窓からこの方向をよく見ていました」とおっしゃった。これから記念館の建設が始まるのだ、というちょっと力みのあった私の気分がなんとなく和んだことを思い出す。

記念館は司馬遼太郎をいかに伝えていくか、より、記念館から何かを感じ取ってもらいたい、という「感じる記念館」をめざしている。

安藤忠雄さんが設計された約 2万点の本が収まる「大書架」は、高さ11mの吹き抜け空間にある。正門を入れば四季の変化を見せる雑木林のような庭が続き、その小径から司馬作品が生まれた書斎を窓越しに眺めることができる。この3つの空間から来館者が司馬遼太郎を想いつつご自由に何かを感じ取ってほしい。感じることは考えることにつながる。ささいなことでも考えれば小さな落ち着きを得るものだ。私は小さな落ち着きこそ文化の根つこの部分だと思っている。

記念館で得られた小さな落ち着きが広がっていけば、そこに文化の輪ができる、と信じている。咲耶会にも同じ想いを持っている。箕面キャンパス、さらに大阪大学へと場所、形態がかわっても「凝縮された外大精神」を継承していく橋渡しの役割をこれからも続けてほしい、と願っている。名称の由来である治世の繁栄を願った古歌に託して――。

司馬遼太郎記念館館長

上村洋行
うえむらようこう



司馬さんの思いを受け継ぐために

暗い舞台の袖。分刻みの進行を記した台本を握りしめて開始のベルを待つ。司会の小川アナが、司馬さんの遺影がほほ笑む舞台に進み、司馬作品の朗読が始まる。1年の準備が実を結ぶ瞬間だ。司馬遼太郎記念学術講演会は、今年で19回を迎えた。本当に沢山のの人に支えられてここまでやってきた。

講演会は、偶然の歯車がかみ合った結果、生まれた。きっかけは、豊中市の公民館から、共催で司馬さんを記念する講演会を開催しないか、という申し出だった。池田学長にお話ししたところ、ぜひやろう、と即決され、民博の梅棹忠男先生のところにご依頼に伺った。梅棹先生も快諾され、講演会が開催された。当初は一回限りの予定だった。ところが取材にこられた産経新聞の方から、大学と共催でぜひ続けたい、という申し出があり、2回目からは産経新聞との共催になった。そして大阪外大と産経新聞の催しなら、ということで司馬遼太郎記念財団からも後援をしていただくことになり、さらに咲耶会からも協賛をいただけることになった。一見偶然の連鎖にもみえる。だが司馬さんを愛するさまざまな方の思いが背後で歯車を動かしていたに違いない。

大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会講師一覧（敬称略）

開催年		講師		会場
平成 8 年	第 0 回※1	市村真一、伊地智善継、法橋和彦、尾上新太郎、田中準造		千里ライフサイエンスセンター
平成 10 年	第 1 回※2	池田 修、田中順造、梅棹忠夫	豊中千里公民館共催	よみうり文化センターホール
平成 11 年	第 2 回	上田正昭、森 浩一、篠田正浩	産経新聞社共催	大阪国際交流センター
平成 12 年	第 3 回	丸谷才一、サイデンステッカー、桂 米朝	同上	サンケイホール（旧）
平成 13 年	第 4 回	陳 舜臣、荻野アンナ、ドナルド・キーン	同上	大阪国際交流センター
平成 14 年	第 5 回	山折哲雄、五木寛之	同上	サンケイホール（旧）
平成 15 年	第 6 回	河合隼雄、柳田邦男	同上	大阪国際交流センター
平成 16 年	第 7 回	大岡 信、山崎正和	同上	サンケイホール（旧）
平成 17 年	第 8 回	中西 進、永 六輔	同上	サンケイホール（旧）
平成 18 年	第 9 回	安藤忠雄、蛭川幸雄	同上	大阪国際交流センター
平成 19 年	第 10 回	養老孟司、半藤一利	同上	大阪国際交流センター
平成 20 年	第 11 回	辻井 喬、安野光雅	同上	大阪国際交流センター
平成 21 年	第 12 回	松本健一、山田太一	同上	サンケイホールブリーゼ
平成 22 年	第 13 回	山内昌之、天野祐吉	同上	サンケイホールブリーゼ
平成 23 年	第 14 回	山折哲雄、柳田敏雄	同上	サンケイホールブリーゼ
平成 24 年	第 15 回	関川夏央、大竹文雄	同上	サンケイホールブリーゼ
平成 25 年	第 16 回	小松和彦、三浦雅士	同上	サンケイホールブリーゼ
平成 26 年	第 17 回	樺山紘一、木村重信	同上	サンケイホールブリーゼ
平成 27 年	第 18 回	ハルメン・ボイケルス、山内昌之、田中優子	同上	サンケイホールブリーゼ
平成 28 年	第 19 回	井上章一、谷口雅一、後藤正治	同上	サンケイホールブリーゼ

※ 1：名称は「大阪外国語大学公開シンポジウム」、主催は「大阪外大公開シンポジウム企画委員会」

※ 2：名称は「司馬遼太郎記念文芸講演会」

講演会はその後、産経新聞との二人三脚で時代を駆けてきた。外大時代は、赤木学長、是永学長の後押しのもとで成長を続け、大阪大学との統合に際しては、そのシンボリックな事業として位置づけられた。統合後は、鷲田総長、平野総長、西尾総長の下、社会学連携担当の副学長が責任者となって開催され現在に至る。しかしなにより長年産経側の担当をしていただいた谷口編集委員と荻原編集委員のお力がなければ、講演会は座礁していたに違いない。大学と新聞社という異業種コンビの絶妙なフットワークが成功の秘訣だったと思う。

これからは司馬さんの思いを次の世代に引き継ぐ企画に挑戦してゆきたいと思っている。
それこそが、講演会の最大の使命のはずだからだ。引き続き皆様のご支援をお願いしたい。

大阪大学言語文化研究科
教授 岡田 新
おかだ しん



特集

司馬遼太郎
没後20年

「司馬遼太郎記念学術講演会」の役割

司馬さんが亡くなられた1996年2月ころは、学生部長として外大改革に取り組んでいた真最中であった。とりわけ、大学院に独立した博士課程を設置し、外大を一人前の大学にすることに全エネルギーを傾注していたといってもよい。その前年、司馬さんとお話する機会があったのだが、たしか「大学院改革」のことも話題になった。独自のユニークな構想を描いて欲しいというのが司馬さんの要望であり、「言語を基礎に置く＋世界的視野に立つ＋日本を観る」といった要素の重要性を話し合ったと記憶している。その時は気が付かなかったが、そのあと大学院構想を熟考し具体的にまとめていく段階で、私はそれこそが「外大精神」であり、他の大学にはない個性であると考えに至った。だから、1997年4月から発足した言語社会研究科には「外大精神」が色濃く反映されているはずである。それは、まさに外大がそれまでの教育と研究の中で築いてきた伝統に他ならなかった。

訃報に触れた私は、司馬さんを記念する何がしかのことを大学として行わねばならないとすぐに考えた。作家司馬遼太郎こそがまさに「外大精神」の具現者の一人であると考えていたからである。池田学長をはじめ関係者に相談し、

大阪外国語大学公開シンポジウム「司馬文学にみる日本と世界」を企画し、ほぼ100日忌に相当する5月19日に大阪千里ライフサイエンスセンターで開催したのであった。このシンポが現在の「司馬遼太郎記念学術講演会」の母体となったことは、うれしい限りである。

私は、司馬さんの随筆「二十一世紀に生きる君たちへ」が好きで時々読み返す。推敲に推敲を重ねて書き下ろされたと聞いているが、そのやさしくてわかりやすい文章に言葉大切に作る姿勢を強く感じ、大きな視野に立つ人間社会への洞察に深く頷く。そして、この小学生に向けて書かれたとする随筆にこそ「外大精神」が満ち満ちていると、私は勝手に考えている。

「司馬遼太郎記念学術講演会」には、「外大精神」を啓蒙していく役割があると言えよう。

元学長 赤木 攻
あ か ぎ お さ む

坂の上の雲ミュージアム

館長 松原正毅
国立民族学博物館名誉教授
まつばら まさたけ

坂の上の雲ミュージアムは、2007年4月28日に開館した。ミュージアムは、松山城の東南麓に位置している。このミュージアムは、作家司馬遼太郎さんの代表作のひとつである小説『坂の上の雲』を基盤につくられた。『坂の上の雲』の三人の主人公である秋山好古、秋山真之、正岡子規が、いずれも松山出身の士族の子どもたちであったからだ。

『坂の上の雲』は、三人の主人公をふくむ千数百人の登場人物たちの人生を克明に描くことを通じて、明治日本における近代国家制度の形成過程をわかりやすく活写した作品である。この作品が誕生する原点について、司馬さん自身が「二十二歳の自分への手紙」という短い文章をのこしている。昭和20年8月7日に22歳の誕生日をむかえた司馬さんが抱いた「大正や明治の人々はこんなおろかだったろうか、あるいはそれ以前の人々は、という疑問」にたいして、昭和40年前後から22歳の自分へむけて手紙をかきはじめたとい

う内容だ。昭和43年4月から同47年8月まで『産経新聞』夕刊に連載された『坂の上の雲』は、あきらかに22歳の司馬さん自身にあてた長い手紙であったといえる。

ミュージアムでは、『坂の上の雲』の内容に沿いながら毎年新しいテーマのもとに企画展示を開催している。これまで、日露戦争と明治のジャーナリズム、明治の教育などをテーマにした展示をおこなってきた。この小説の全容を展示するためには、さらに数十年の年月が必要であろう。



坂の上の雲ミュージアム施設概要

【開館時間】午前 9時～午後 6時30分(入館は午後 6時まで) 【休館日】月曜日(休日の場合は開館) 【観覧料】一般400円、高齢者(65歳以上)200円、高校生200円、中学生以下 無料 【アクセス】■ JR松山駅から(所要時間10分)市内電車(道後温泉行)→大街道下車→徒歩2分 ■道後温泉から(所要時間10分)市内電車全線→大街道下車→徒歩2分 ■松山空港から(所要時間30分)リムジンバス(道後温泉行)→一番町下車→徒歩2分 ■松山観光港から(所要時間30分)リムジンバス(道後温泉行)→一番町下車→徒歩2分 ■松山自動車道松山インターから(所要時間20分)



「10周遅れの愛読者」



石野伸子 (大D22)

産経新聞大阪本社編集局編集委員。
1974(昭和49)年産経新聞大阪本社入社。2000年文化部長。編集局次長をへて 2005年から東京本社編集局編集委員。2008年から現職。著書に「女50歳からの東京ぐらし」。共著に「九転び十起き! 広岡浅子の生涯」(いずれも産経新聞出版)。

司馬遼太郎さんとは一度もお会いしたことがない。いや大学時代、学園祭だったかに講演で来られたとき確かに聞きに行ったので、遠目にながめたことは一度だけある。昭和40年代後半のことで、すでに司馬さんは大作家だった。母校出身の有名人を見ようという野次馬気分だったと思うが、後輩たちを前に何の話をしたのか、全く覚えていない。ただ、大御所なのに照れた話ぶりだなあ、と思った記憶だけが残っている。

産経新聞に入社してから也會う機会は一度もなかった。かつて司馬さんも在籍していた文化部に所属したので、司馬さんと机を並べていたという人や、みどり夫人とのラブロマンスを目撃したという人もいて、司馬さんの気配はあちこちに残っていた。しかし、文化部記者といっても書籍を扱う学芸面担当ではなく生活面担当だったので仕事上の縁はできなかった。入社してまもない昭和54年には「菜の花の沖」の連載が始まっている。産経新聞紙上では過去に「竜馬がゆく」や「坂の上の雲」など名作が生まれており、ひとときわ張り切って仕事にあたる同僚たちを、横目にながめる日々、だった。

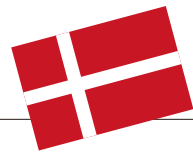
司馬さんにご縁ができたのは、亡くなられた後になる。

没後、みどり夫人に執筆いただくという話が起きた。夫人はかつて産経新聞の文化部記者を10年余りつとめており、名文家としても知られていた。多忙な流行作家となった夫を支えるために退社してからは書いていないが、司馬さんの思い出話を含めて再び筆をとるならば、ぜひ古巣というのが新聞社のくどき文句だった。希望は平成14年にスタートした「司馬さんは夢の中」(全3巻中公文庫)に結実することになるが、そのころたまたま文化部長という立場にあり、司馬家をお訪ねしたり、連載の前段となる対談の司会をしたりした。対談はかつての同僚、俵萌子さんとのもので、「今度はあなたが書く番よ」とみどり夫人の背中を押す俵さんの言葉が強く印象に残っている。

司馬さんは昭和35年1月から4月まで産経新聞文化部長をつとめた。同年1月に「梟の城」で直木賞を受賞し、翌年出版局次長という肩書きを最後に退社している。いつだったか部内の歴史を調べる必要があり、第3代文化部長「福田定一(司馬さんの本名)」のずっと後方に17代として自分の名前が連なっているのを確認し、密かなる自慢とした。

そんなわけで、時折、司馬さんがらみの仕事が舞い込んできく。「司馬遼太郎記念学術講演会」の対談の進行役も何度かつとめた。歴史、文学、宗教、政治、科学、絵画、どんなジャンルの論客も、司馬さんの世界と必ず通じる道があり、司馬ワールドを語って尽きない。長年横目で見erkせがついていたせいで、これまで熱心な読者とはいえなかった。いまさら付け焼き刃で読んでみても、とうてい見渡せない世界なので、学術講演会ではいつもドキドキだ。しかし、終わった後は必ず、司馬作品を読みたくなる。山田太一さんが脚色した「俄」、美術記者時代を追想した「微光のなかの宇宙」、辺境に心を寄せた「南蛮のみち」や「愛蘭土紀行」など。何周も後れてきた愛読者だが、いつからどこから始めても面白い。そこがうれしい。

デンマーク・ロスキレに 長期滞在をして



私は2006年8月～2009年6月までデンマークのロスキレ大学へ留学しました。最初の1年間は語学学校とロスキレ大学、そしてホームステイ先をひたすら往復する日々。語学学校では、「デンマーク語試験」という目標を共有するだけでなく、外国人としてデンマークで生活するという立場も同じ仲間ととても有意義な時間を過ごしました。2年目以降は大学を中心に自分の論文のために多くの時間を使うようになりました。「デンマーク語学」という日本ではマイナーな分野を選択した私にとって、大学で出会った「デンマーク語を専門にする」仲間の存在はデンマーク滞在中そしてその後も大きな心の支えとなっています。



語学学校の仲間そして先生たちと。全員語学試験に合格し、ホッと一息

私はロスキレでの滞在の最初の1年半をホームステイという形で過ごすという幸運に恵まれました。そのきっかけは、私がノルウェーの旅行中、ユースホステルで偶然出会ったデンマーク人夫妻がロスキレに暮らしていて、その後ロスキレ大学へ留学することになった私に、「ロスキレに来るのだから、うちに住んではどう？」と提案してくださったことでした。



学業以外にも週末を皆で過ごすなど充実した時間を過ごしました



大辺理恵（院前中北欧 7）

大阪大学・関西外国語大学非常勤講師。学部3年次に約1年間コペンハーゲン大学へ、また博士後期課程において約3年間ロスキレ大学へ留学。2013年、ロスキレ大学からph.d.(デンマーク語学)取得。

そのおかげで私は多くのデンマーク文化に触れることができました。復活祭、夏至祭、クリスマス(ユール)などの季節のイベント以外にも、誕生日や結婚式、洗礼式や堅信礼などの家族のイベントも経験させてもらいました。ただ私が今とても懐かしく思い出すのは、そのような大きなイベントよりは、ご夫妻と過ごした普通の日々のことです。日々の生活を通して私はデンマークの食文化や家族関係のこと、政治のことやデンマーク人の考え方など、様々なことを自分の目や耳で知ることができました。特にホストファーザーは、デンマーク人特有のユーモアと皮肉がとても上手く、私をいつも笑わせてくれました。デンマーク語での冗談を理解し、お互いのことをデンマーク語でからかえるようにもなりました。デンマークデザインにもとても造詣が深かったご夫妻は、デザイン関係の事柄に疎かった私に、多くのデザイン家具を見せて下さいました。またご夫妻のおかげで、ロスキレの夏の風物詩ロスキレ・フェスティバル(野外音楽祭)にもビールの売店で働くというボランティアの仕事で参加することが叶いました。

昨年末にホストファーザーが亡くなったという悲しい知らせが届きました。ロスキレに行けばいつでもすぐに会えると思っていたので、とても悲しかったです。現在私は2つの大学でデンマーク語を教えています。語学の授業では文化についても多くのことを話します。私が現在こうしてデンマーク語の授業をしていられるのは、ご夫妻や仲間たちと過ごした日々があったからこそだと思っています。本当にかけがえのない日々を過ごすことができ、とても幸運でした。そして今後も彼らとの日々で学んだことをなんらかの形で活かしていくことができればと思っています。



ホームステイ先のご夫妻には誕生日会も開いてもらいました

ヨーロッパ最西端の国 ポルトガル留学記



大路明子（中南米大 PB56）

2008年ポルトガル語科卒業。ポルトガル語弁論大会に参加し、そこで留学権及び奨学金を得て2005年夏から約1年間リスボン大学に留学。現在外資系金融機関に勤務。



ポルトガルの風景

私はポルトガル語科に在学中、スピーチコンテストに出場した事をきっかけに、一年弱ポルトガルのリスボン大学に留学しました。

昔、海外に住んでいた事もあり、海外旅行や英語での日常生活に困った事はあまりなく、その感覚でポルトガルに向かったのですが、リスボン空港に着くなり、言葉がほぼ聞き取れない事に愕然とした事を今でも鮮明に覚えています。着いて早々やらなければならなかった事が市役所や大学での手続きです。聞き取りがままならない中、ラテンの国でのんびりしている手続きの大変さが、外大生の皆様なら容易に想像できることと思います。

ポルトガル生活で言葉の壁以外に驚いた事は、地域によって、住環境の差がかなりある事です。私は留学中、四軒の家に住んだのですが、古い家や治安があまりよくない地域だと、床が傾き、窓から隙間風や雨が吹き込むような部屋もありました。また、ポルトガルでは非常にモダンできれいな家でも、台所のガスをつける時には、まだマッチを使っていた事には驚きました。ガスを出し、そこにマッチで火をつけます。初めはかなり驚きましたが、留学が終わる頃には当たり前のように毎日マッチを使い、今流行りの簡単なDIYもできるようになり、いい経験だったと思います。



リスボンの夜

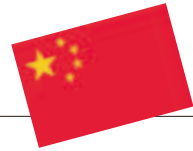
大学には様々な国の方が学びにきていて、ラテン語圏の人や旧植民地のマカオの学生は非常に習得が早く、授業についていくのが必死の日々でしたが、そんな中、ホッとできる時が、授業の合間にあるカフェ(コーヒー)の時間ででした。ポルトガルではコーヒーの文化があり、結構な頻度で先生が「さー、ではお茶にしましょう!」と授業の合間に休憩をいれ、非常に甘いお菓子とエスプレッソの組合せを楽しみます。ポルトガルには至る所にカフェがあり、のんびりとした時間の流れの中、コーヒーと会話を楽しむ生活は、今思えば非常に贅沢な時間でした。また、大学外で現地の知り合いを作ろうと思い、活用したのもカフェです。アジア人はあまりいないので、毎日同じ時間に同じ場所に座るようにしていると、オーナーが覚えてくれ、ある日声をかけてくれました。日本とポルトガルは大航海時代等歴史的にもご縁があり、私が日本人だとわかったと、非常によくしてくれました。



マカオの友人と

ポルトガルのゆったりとした時間を楽しんでいると、あっという間に留学生活は終わったのですが、この留学を通して、語学を学ぶ事以上に海外で外国人として住むという経験を、外国人が多くない国でできた事が自分にとって非常に大きな学びとなりました。この留学をきっかけに、私にとって海外に住む事ではなく、様々な世界を知り、経験を持つ多種多様なバックグラウンドの人がいる環境で将来働きたいと強く思い、今勤務している外資系の企業を受ける事にも繋がりました。元々予定していなかった留学でしたが、外大にいる事で、自分の価値観や将来を考える上で非常に貴重な「留学」という経験ができました。

私の留学体験記



1976年9月から1978年8月までの二年間、北京に出張した。留学ではない、二年間の海外出張である。とは言え1976年の4月に奉職し、まだ学生気分も抜けきらぬまま、特定の任務も課せられない出張であったので、気分は学部生の海外留学に近かった。

しかし、送り出した中国語専攻からすれば、決して特定の任務を課さない出張ではなかった。中国語専攻の教員に相応しい現地体験を積み、相応しい中国語運用能力を獲得して帰ってくることで、それが至上命令であった。

私は1970年4月に旧大阪外国語大学中国語学科に入学し、1976年3月に大学院修士課程を修了すると同時に助手(今の助教)として大学に残った。学校以外のことは何も知らず、中国語の運用能力も求められるレベルには遠かった。先生方からすれば、本当に何も知らない頼りない教員であった。当時の先生方は、中国における長い生活経験がまずあり、それから教員生活に入るケースが多かったのである。

1976年9月9日、毛沢東が逝った。私の留学生活はその直後から始まり、11月末まで北京語言学院(現北京語言大学)で過ごし、12月から北京大学中文系に移った。その間、10月には“打倒‘四人帮’”(「四人組」逮捕)に遭遇し、11月には7月に発生した唐山地震の余震がおさまらず、運動場にテントを張って凍えながら暮らした。この年は異常気象で、11月に入った北京は本当に寒かった。

11月の口頭試験にパスし、12月に北京大学に移ったが、“打倒‘四人帮’”の影響で休講が多かった。入寮案内では「部屋のものをなくさないよう、戸締りをしっかり」が「我が国にはまだ階級闘争が存在する、戸締りをしっかり」と表現された。しかし、少ない授業のお蔭で、日本では読めなかった



北京・故宮にて



杉村博文 (院 C6)

1951年生まれ、徳島県出身。1970年旧大阪外国語大学中国語学科入学。1976年同研究科東アジア語学専攻修了。同外国語学部教授を経て現在、大阪大学大学院言語文化研究科教授。

中国語学の関係資料を体系的に読み、『三国志演義』や『水滸伝』をはじめとする旧白話小説をまとめて読む時間が取れた。また、二年目には、学生時代から私淑していた中国語学の泰斗、朱徳熙教授の講義が復活し、直接講義を聞くことができた。

海外留学とはどういうことか。旧大阪外国語大学時代、大学からアドミッションポリシーを考えるように求められた。自分なりに頑張って作ったつもりであるが、通らなかった。今それを、不採用のものなのだという非礼も顧みず、海外留学に飛び立とうとする若い諸君へのエールとしたい。

* * * * *

地球儀を回してみよう。そして想像してみよう、君の指先にある土地とそこに暮らす人々のことを…。

彼らはどういう人々で、どういう風土と歴史の中に生き、どういう人情、風俗、社会、家庭を作り上げているのだろう。彼らは、毎日、何を喜び、何を怒り、何を哀しみ、何を楽しんでいるのだろう。彼らは自らを取り巻く世界とどう関わってき、どう関わっていかうとしているのだろう…。

我々は自らが生まれ育った世界に対して五感に根ざす豊穡な知識をもっている。雨の音も、風の薫りも、星の輝きも、肌の温もりも、すべて生々しい体感としてあり、それを言葉に変え仲間と共有する。

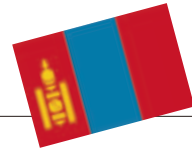
しかし、彼らが生まれ育った世界に一步足を踏み入れれば、そのすべてが違っている。すべてあるのに、すべてが違う。彼の地の雨に打たれ、彼の地の風に吹かれ、彼の地の星の輝きに心打たれ、彼らの肌の温もりを知り、感じたものを彼らの言葉に変えてみよう。そこからすべてが始まる。そうしなければ何も始まらない。



桂林・漓江下り

私のモンゴル渡航・滞在記

― 今は昔 ―



モンゴル政庁前、スヘバートル広場にて(大晦日に)

私が初めてモンゴルを訪れたのは40年前のこと、既に母校の教員になっていた。1976年8月モンゴル人民共和国(現モンゴル国)の首都ウランバートルで開催の第3回国際モンゴル学者会議出席のためであった。当時モンゴルは社会主義国であり入国するにはビザが必要で、また内陸国でもありソ連が中国を経由しなければならなかった(現在は成田空港から～夏季は関西空港も～ウランバートルまで直行便あり)。モンゴルとソ連のビザを取得し往路は新潟から8月20日午後アエロフロートに乗りソ連のハバロフスク空港に夕方降りそこから乗り継ぎでバイカル湖近くのイルクーツク空港に真夜中に着いた。イルクーツク市内のアンガラホテルに泊まりさらに2泊して空路で23日遂にウランバートルにたどり着く。この学会への参加は我が恩師、精松源一先生とご一緒した。学会の折、多くの海外の研究者と知り合い自分の研究発表も無事終えた。帰路は予定を変更しウランバートル駅よりモスクワから来た国際列車に9月7日昼前に乗りゴビ砂漠を縦断し車中2泊、内モンゴルを経由し約40時間を経て9日朝方、やっと北京駅に着いた。この年7月には中国で唐山大地震があった。偶然にも北京に着いたのが毛沢東の死去の日(9月9日)であった。当日、北京の街は平穏であったが、それが分かったのはその日、大阪空港到着の直後であった。大変印象深く心に残っている。



日本語学科(視聴覚教室)の授業風景



橋本 勝 (大 M13)

1978年～1979年、1984年～1985年、1990年～1991年モンゴル国立大学客員教授。2005年～2007年大阪外国語大学附属図書館長。2008年～2016年(5月) 日本モンゴル学会会長。モンゴル国より北極星勲章受章(2011年)。現在、大阪外国語大学名誉教授。

長期滞在は1978年10月～翌年10月、1984年10月～翌年10月、1990年10月～翌年9月、通算3年ウランバートルのモンゴル国立大学文学部に客員教授として日本語教授とモンゴル語研究のため赴任した。1975年に日本語講座が開設され1990年に正式に日本語学科となった。日本語クラス(副専攻)の学生はモンゴル語文学科に所属し各学年5～6名で第3学年より週20時間、年間30週の日本語授業を3年間受け、前期は9月～翌年1月、後期は2月～6月。最終学年の5年生は6月に国家試験があり7月1日卒業となる(現在、大学は4年制)。1990～1991年は民主化運動が起こり政治・社会制度の改革が実施され市場経済へと移行する過渡期にあった。物価は急に上昇し物不足の状況が続き食料品店の棚にはほとんど品物がなく長期にわたり市民生活は不安定な状態に陥った。

社会主義時代、治安は良かった。モンゴルの冬は長い。市内の交通機関は主にバスであるが、大学へは徒歩で毎朝一時間目からの出勤、冬季はまだ薄暗く外は零下30度、毛皮のオーバーと耳あて付きの毛皮帽子を身に着けて市の中心、スヘバートル広場(モンゴル政庁前)を横切りその北東方向にある文学部の学舎まで通う。宿舎はバヤンゴルホテルのそばのアパートであったが、市の中心街に位置し郵便局や書店なども近くにあり比較的便利なところにあった。



当時、長期在留邦人は、日本大使館員を除けば日本人教員1人、国費留学生2人程度であった。物資は豊かではないが、日本では忘れられたかに見える「ものを大切にし互いに助けあって生きてゆく」という人間社会の在り方を身をもって学んだように思う。あの時代のことを懐かしく思い出す。

モンゴル国立大学 本館前にて(メーデーの日、日本語クラスの学生たちと)

好きな道を前向きに進む

中島裕司 (大 DM24)

絵が好きで、5歳くらいから油絵を描いていた。性格的に好きなことは徹底的にやり、嫌いなものは、ごく適当にしかしない。このあたりは、おそらく外語スピリットであろうと勝手に思っている。

高校時代は、英語が極めて好きで、高校一年で、ほぼ高校三年生の内容を済ませて、勝手にドイツ語もやっていた。自分が暑がりなのと、自然の美とメルヘンに憧れてデンマーク語を専攻。後先考え

ない気楽な性格で、適当にデンマーク語をやり、読書三昧、外国旅行等好き放題していた。家族は心配もしていたけれど、僕自身、『なんでもなるようになるし、好きなことを集中してやれば、他人に迷惑かけないなら、きっと道は開かれる』と信じ過ぎていた。もちろん、若者特有の不安とか、悩みとかはあったけれども、嫌いなことを無理にして、不満をためて生きるほうが他人にも迷惑かけるだろう、と考えていた。その頃から、僕は、「自分は天才である」と言うようにしていた。天才のはずがない、ただ、そう思い込むと楽しい。いい歳になった今でも「天才画家である」と言うことにしている。みんなが面白がるから、これがまた楽しい。こういう思いが、きっと道を開くことになると思う。

その後、大阪市大で法学を勉強し、卒業した。卒業後、年齢的にちょっと焦りもあって、何かの役に立つだろうと英検一級や通訳案内士等資格をまとめて取った。とりあえず、僕は、子供が好きなのと、それなりに英語も出来たので、高校や支援学校の教員になった。仕事しながら絵はずっと描いていて、多くの受賞や入選もして絵の団体の会員にもなっていた。教員の仕事も真剣、絵画も真剣の二刀流。芸術に対して本格的に取り組もうと、休職して、大阪芸術大学・大学院で研究生活に入った。朝から晩まで、正月も夏休みもなくて、制作、研究に没頭。天才は熱中する。それで、大阪芸術大学で、洋画での第一号の博士号を取得した。テンペラ画の博士は稀有な存在である。デンマーク語も稀有であり、稀有は楽しい。



縁があって、堺市の耳原総合病院の大壁画を制作した。泉佐野市にある有形登録文化財の蟻通神社の本殿にも板絵を描いた。台湾・国立国父纪念馆で国家級の画家と二人展も出来た。何事も縁であるし、チャレンジである。遠慮は不要。やることは臆することなくする。今は、画家であり教員でもある。結局絵の原点に返った感じはするが、今までの人生航路は決して無駄になっていない。アートは人生の

トータルであり、単なる技術でないからである。

今は、新聞にコラムや絵画紀行連載も続けていて、次は「天才随筆家」でいこうと思う。

他人に迷惑かけない限り、何事も前向きにとらえて好きなことに邁進すれば、きっと道は開かれる。教員が主流であるが、人間相手の仕事上、いろいろなことを経験したほうが、懐も深く、大局的に、また複眼的に人間の付き合いができる。

この年齢で、画家の世界ではヒヨコ以前である。ニワトリになる頃は100歳を超えていると思う。



略歴
1976年大阪外国語大学・デンマーク語学科卒
1980年大阪市立大学・法学部卒
2007年大阪芸術大学・大学院後期博士課程修了
博士(芸術)・日本美術家連盟会員／国際美術家連盟会員 各コンクール受賞・入選多数、海外・日本での個展多数 専門: 油彩画、テンペラ画、美術教育、障がい者美術教育等アートセラピーにも取り組んでいる。
大阪芸術大学・朝日カルチャーセンター・近鉄文化サロン講師／ホルペイン・アドバイザー



あの時 あの言葉

小林正受 (大 E16)



1989年、メタ博士(左端)と

今振り返ってみるに、子供の頃から「将来は海外に雄飛したい」との想いが強く、学生時代も、卒業後は当然総合商社に、とその進路を勝手に決め込んでいました。ところがある日、恩師の羽田先生から「関西ペイントという会社が海外事業強化のパイオニアとしての人材を求めているが興味はないか？」とのお声掛けが。一寸思案はしたものの、先人が築いた道を歩むより、未踏の地を自ら切り拓く。これ男冥利に尽きるではないか、と得心。かくして羽田先生のお言葉と御推薦により、1968年関西ペイントに入社しました。

最初に配属されたのが輸出課。ところが、その最大の輸出先が沖縄という笑い話のような実態に絶句。しかし、何はともあれ入社後10年間ぐらい(1970年代)は、若さにモノをいわせて新規市場開拓へ猪突猛進。この間、それなりの成果を実感しながらも、為替変動リスクに翻弄される輸出という手法には限界ありと悟り、現地生産への構造転換が必須と確信するに至りました。

1980年代に入り主要ユーザーの海外進出が本格化し始める中、当社としてもグローバルな供給ネットワークの構築が喫緊の経営課題に。その一環として、まずインド市場での橋頭堡作りに乗り出した私は、何とか現地の塗料メーカー(現当社子会社)との間で技術ライセンス契約を通じての提携に漕ぎつきました。しかしながら、当時のインドは社会主義という政治体制下にあって、外貨は既に底をつき、あるのは規制のみという状態。それに加えて、彼我の文化ギャップから想定外の問題が続々と噴出。その火消しに現地への出張を繰り返すも所詮はモグラ叩き。疲労困憊で身も心も折れそうに。

そんな時に知遇を得たのがメタ博士でした。話題の豊かさ、知見の深さ、論理構成の見事さ。勢いだけで走っていた私のような若輩にとって、博士の発する言葉の全てが新鮮で、自らの浅学非才を恥じるとともに、「知の巨人」とはこういう人のことなのだ！との感動が全身を貫きました。因みにメタ博士は、著名な経済学者であると同時にその専門分野は数学、建築、歴史と多岐にわたり、インディラ・ガンジー首相(当時)の政策ブレインの一人でもありました。あるときその博士が、「ミスター小林。インドは早晚必ず自由主義経済体制に移行しますから」と。

博士のこの一言は私のマインドを超プラス思考へと一転させ、結果的には早々の資本投下を決断させる最大の引き金にもなりました。もっとも、当時はカントリーリスク世界ナンバーワンと悪名高い国への投資でしたから、社内外から、「あまりにも無謀」とのそしりを一身に浴びましたが。しかしそのインド事業は、投資後5年を経て徐々に実施され始めた緩やかな経済自由化への国策転換にも支えられ順調に伸長。今や株式市場では「関西ペイントといえばインド関連銘柄」と評されるまでになりました。



1986年、メタ博士夫妻と

あの時、あの言葉。
このフレーズの重みと深み。それをしみじみ実感する今日この頃です。



略歴
1968年大阪外国語大学英語学科卒業、関西ペイント入社。以来国際畑で約30年。
取締役経営企画室長、常務取締役、代表取締役専務などを経て2004年代表取締役社長、2010年代表取締役会長。2011年退任。
2015年旭日中授章を受章。

タイ語専攻の今

村上忠良

大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻 准教授
外国語学部 タイ語専攻代表

現在のタイ語専攻のスタッフは、専任教員が宮本マラシー、村上忠良、兼任教員が河森正人、特任教員がマリワン・ブーラナパタナーの4名です。毎年17～18名の1年生が入学し、ここ数年の男女比は1対3くらいです。最近は、幼少期にタイに住んでいた、タイを旅行したことがある、タイ人の知人・友人がいるなど、入学以前にタイと何らかの関わりがあって、タイ語専攻を選択する学生が増えています。

現在のタイ語専攻の特徴として二点を紹介します。

一つは1・2年生希望者が参加する約1週間の夏季短期研修です。2年生がリーダーとなり、1年生を引率して、シンラパコーン大学でのタイ語・タイ文化研修を受けます。大学での授業に加え、実際の生活の中で「生きた」タイ語に触れることで、その後の勉学のモチベーションが高められます。

もう一つは交換留学です。毎年3・4年生のうち10名前後がタイの大学へ、半期もしくは1年間の留学をします。主な留学先はチュラー、タマサート、カセサート、シンラパコーン、チェンマイ、コーンケンです。タイの学生と同じ授業で勉強するので、最初は大変苦労しますが、留学を終えるころにはタイ語の実力がかなり付いています。多い年だと3年生のほとんどが留学に出ることもあります。留学でたくましくなって戻ってくる姿を見るのが楽しみです。

タイ語専攻は1949年に創設され、今年3月の卒業生が64期となります。1980年に入学した卒業生(32期)が箕面キャンパス 1期生ですので、大阪外国語大学から数えて、ちょうど上八と箕面の卒業生が半分半分になりました。キャンパスは違えどもタイ語・タイ文化を4年間(人によってはもう少し多く)勉強する経験は同じです。毎年11月末～12月初旬に大阪で開催されるタイ語同窓会「白象会」の集いには、現役学生も参加しますので、その際に後輩とお話をしていただけると幸いです。



夏季タイ語研修
(ナコーンパトナムの大仏塔見学)

フランス語専攻の今

高階早苗

大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻 教授
外国語学部 フランス語専攻代表

現在、フランス語学科は1学年約27名、4学年で約110名の学生と、教員5名(言語学2名、文学1名、歴史1名、外国人教員)の体制となっています。夜間もあり全学年で200名以上、教員も10名いた頃をご存じの卒業生の方々から見れば、随分こじんまりした印象をお受けになるかもしれません。

それでも学生達は皆元気です！3つの阪大キャンパスを行き来し、様々な部活動やサークル活動を楽しむと同時に、専攻内でも語劇などでは学年を超えて仲良く活動しています。

授業では特に3・4年生向け講義・演習での分野の多様化を目指し、政治や経済、哲学に加え、アフリカ人の先生を招き、フランコフォニーという広い視野を身に付ける演習も設けています。また、外大時代の協定校に加え、大阪大学がもともと提携していたフランスやベルギーの大学との交換留学も盛んで、毎年12～3名が海外で学んでいます。私費留学を合わせればクラスの半分以上を越える学生が留学するというのは驚くべき数と言えるでしょう。数年前からはテロの脅威に怯えつつも、彼らの学習熱はそれを凌駕し、皆希望を胸に旅立って行き、à la françaiseを身に付け、自己主張するたくましさ、本来の礼儀正しさの両方を備えて帰って来ます。

旧外大、そして阪大外国語学部の特徴でもある進路の独自性は今も変わらず、今年の卒業パーティーではパティシエとなる卒業生からトリコロールのケーキがプレゼントされる嬉しい展開となりました。非常勤を含めフランス人の先生方も来られていたため、フランス語を交えたスピーチでは笑い声が上がり、おおいに盛り上がりました。そんな彼らの学び舎、そしてこの記事を読んで下さっている卒業生の方々の思い出の場所「守る」というのはおこがましいので、せめて「温めて」いければと願っています。



「大阪大学カード」をぜひお持ちください

大阪大学・大阪外国語大学の卒業生、教職員、元教職員のための特別なクレジットカード「大阪大学カード」のご案内です。大阪大学が三井住友カード(株)と提携し発行する本カードは、学章などのシンボルマークをかたどった上品なデザイン、お得なオリジナル特典が魅力です。

また、本カードをご利用いただくと、その金額に応じた提携手数料が三井住友カード(株)から大阪大学に還元され、教育、研究、学生支援などに活用されます。皆様のご入会をお待ちしています。

【カードの詳細・お申し込み方法】

大阪大学カード特設ページ

<http://www.osaka-u.ac.jp/sp/oucard/>

◎入会申込は、便利なホームページからのオンライン申込がお薦めです。

【新規入会に関するお問い合わせ先】

三井住友カード 入会案内デスク

電話：0120-816437(通話料無料)／06-6445-3503

平日9:00～19:00、土・日・祝9:00～17:00(12/30～1/3を除く)

学生の手による、大阪大学夏まつり

市吉隆浩

大阪大学外国語学部 トルコ語専攻3年
大阪大学夏まつり実行委員会第37代実行委員長

私たち大阪大学夏まつり実行委員会は、毎年7月初旬に開催される、「大阪大学夏まつり」に向けて活動しているサークルです。このお祭りは、旧大阪外国語大学時代から続く、伝統あるお祭り、今年で37回目を迎えました。総勢300人ものメンバーが、祭りを一から作り上げます。

今年のスローガンは、「夏だ！まつりだ！voyageだ！帆船なつ丸、いざ出航！」でした。夏まつりに関わる全ての人を一つの船になぞらえて、旅に出よう、というスローガンです。夏まつり当日は、国際色豊かな模擬店、民族衣装コレクション、留学生カラオケNo.1などの各種ステージ企画、そしてフィナーレを飾る盆踊りといったおなじみの企画だけでなく、男装・女装コンテストやバルーンアート体験といった新しい企画も用意しました。今年度は約5,100人の方にご来場いただきました。時折雨が強く降ったりしましたが、無事にフィナーレを迎えることができました。

夏まつりは、実行委員が主体となって作り上げますが、その過程において地域の皆さまや、箕面市の職員の方々、そして大阪大学の様々な部署の方々にご協力をいただき成り立っております。この場を借りて御礼申し上げます。

実行委員は、夏まつりに向けて準備していく中で、気の合う友達や、先輩と出会い、楽しい経験だけではなく、辛い作業も経て、本番を迎えます。来年度も、また熱い夏まつりを作り上げてまいります。今後とも、どうぞ大阪大学夏まつり実行委員会をよろしく願いいたします。

「先人から今へ、変わらぬ歩み」

赤澤佑真

大阪大学外国語学部 ポルトガル語2年
2016年度語劇祭実行委員長

大阪外国語大学時代からの伝統行事であるこの語劇祭ですが、咲耶会の皆さま方のご支援により、今年度も開催の運びとなりました。外国語学部生を代表いたしまして、心より感謝申し上げます。今年は例年より少し遅く、11月26日(土)、27日(日)の2日間にわたり、大阪大学箕面キャンパスにて開催となります。既に18の専攻語が名乗りを上げており、脚本作成から演出まで、それぞれに個性の光る劇を一から創り上げてくれています。

かつては上本町にあったキャンパスが箕面の地へと移り、大学の名前も以前とは異なるものとなっていますが、時は

流れど、学び舎は変われど、皆さまが歩んだ同じ道を、いま私たちも歩こうとしています。自らが学ぶ言語を、そしてその言語に息づく文化を、劇という形で演じ、伝えることの難しさは、皆さまもよくご存じのことと存じます。今年度委員長として各専攻語を見渡す中で、本番に向けて日々練習に励む学生の姿に先人の影を重ね、ここまで受け継がれてきたもの、そして次代に受け継ぐべきものについて思いを馳せています。

語劇というものを創り上げるためには、単なる言語以上のもの、すなわちそれを母国語として話す人々の感性や価値観、所作を学ぶ必要があります。このような学びの機会は“言語を究めて世界へ羽ばたく”を教育理念とする外国語学部の学生にとって、非常に有意なものとなるでしょう。自分たちが世界へと羽ばたくための第一歩となり、ご覧くださる方々にもその世界の一端をお見せできるような、そんな価値ある語劇祭を創るため、実行委員長である私をはじめ、委員一同尽力いたします。

語劇祭当日には、各専攻語の熱意と魅力にあふれた演技をお見せできることと思います。精一杯取り組む後輩たちの姿を見に、皆さまお誘いあわせの上、ぜひ会場まで足をお運びいただきますようお願い申し上げます。箕面の学び舎でお会いできること、心より楽しみにしております。

大阪大学の集い(東京)のご案内

師走の恒例行事「大阪大学の集い」を今年も東京・学士会館で開催します。

関東方面在住の卒業生・元教職員の皆さま、学生・教職員の皆さん、楽しい集いで一年を締めくくりましょう。

みなさまお誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください！

【日時】12月3日(土)

【会場】学士会館(東京都千代田区神田錦町3-28)

【参加者】大阪大学・大阪外国語大学の卒業生、元教職員、在学生、現教職員など
(要申込、同伴者との参加可能、臨時託児室あり)

【プログラム(予定)】セレモニー・講演会 15:00～

懇談会 16:50～

【会費(予定)】3,000円

◎詳細は追って大阪大学ホームページでお知らせいたします。

<http://www.osaka-u.ac.jp/>

【お問い合わせ先】

大阪大学 卒業生室 電話：06-6879-7196

Email: alumni-info@ml.office.osaka-u.ac.jp

前回(2015年12月5日)の様子、過去最多の約550名が参加

大阪大学公式マスコットキャラクター「ワニ博士」



「OUMail」生涯メールアドレスと メールマガジン「OUMail News」のご案内

■「OUMail」生涯メールアドレス

大阪大学・大阪外国語大学の卒業生の皆さまに、生涯ご利用いただけるWebメール「OUMail」のアドレスをご提供します。マイクロソフト社の正式ライセンスに基づいて発行される安心安全のアカウントで、ウェブ環境でどこからでも無料で利用できます(便利な自動転送機能つき)。

ビジネスに、プライベートに、末永くご活用ください。

【お申し込み・ご利用方法】

大阪大学ホームページをご覧ください(「OUMail」で検索)か、卒業生室までお問い合わせください。

※平成26年3月以降の卒業生の皆さまは、既にご利用可能です(申込不要)。卒業の翌月初めに、在学生用メールアドレスのドメインが自動で切り替わり、パスワード・メールデータ・転送設定も引き継がれます。

(例) u123456a@ecs.osaka-u.ac.jp ⇒ u123456a@alumni.osaka-u.ac.jp

■卒業生メールマガジン「OUMail News」

大阪大学の旬な話題や各種イベント案内、お得情報などを月2回お届けします。配信ご希望の場合は、①お名前 ②ご連絡先(住所・電話) ③メールアドレス ④大学との関係(卒学部・卒年月など)をお書き添えの上、メールで下記アドレスまでお申し込みください。

※上記「OUMail」生涯メールアドレスには、自動的に配信いたします。

最新号・バックナンバーは特設ページをご覧ください

OUMail Newsで検索

【お申し込み・お問い合わせ先】大阪大学 卒業生室 メールマガジン担当

Email: alumni-info@ml.office.osaka-u.ac.jp

電話: 06-6879-7196

告知板

平成27年度退職教員

三原健一

言語文化研究科 教授(旧大阪外国語大学 国際文化学科 日本語)

ギュルベヤズ アブドゥルラッハマン

言語文化研究科 特任准教授(トルコ語)

キン マサヨシ

言語文化研究科 特任准教授(中国語)

ナム ミヘ

南 美恵

特任准教授(朝鮮語)

ティーカーチュンハティエン ルンアルン

言語文化研究科 特任准教授(タイ語)

カザケーヴィッチ マルガリータ

言語文化研究科 特任准教授(ロシア語)

オドワイヤー ファーガス ジェームズ

言語文化研究科 特任講師(英語)

アキチ デゼン ロジェリオ

言語文化研究科 特任講師(ポルトガル語)

横江好一

広域アジアものづくり技術・人材高度化研究センター 特任教授

世界に通用するモディストを目指して

藤原咲子(阪大 D5)

はじめまして。平成27年度外国語学部ドイツ語専攻卒の藤原咲子です。現在は、大阪大学箕面事務室で事務職員として勤めております。今回このような素敵な機会を設けてくださった咲耶会の皆さまにお礼申し上げます。

私は、昨年7月、仏コサッドにて開催された世界的帽子コンテスト、第23回コサッド・セッフォン帽子フェスティバル・インターナショナル帽子コンクールで、「サン・キャトリーヌ部門」優秀賞をいただきました。サン・キャトリーヌとは、仏ファッション業界の女性のためのお祭りで、黄色と緑がテーマとなっています。

私が制作したのは「Tinker Bell」という作品です。クラウン(帽子の山の部分)のフォルム、天然草シナマイの羽根、和洋布地の造花でTinker Bellを可愛らしくドラマチックに表現しました。帽子デザインを学び始めて1年での挑戦で訳も分からずとても苦労しましたが、現地に赴かれた平野先生からの一報に朝から大喜びし、自分の作品が評価されることで自信が生まれました。

大学3回生の夏頃から京都のSTUDIO HIRANO KYOTO JAPONという帽子デザインスタジオにて世界的帽子デザイナー平野徳太郎氏に師事し、大学を卒業した今も帽子デザインを学んでいます。今までとは全く違う道ではありますが、毎日が勉強でとても充実しています。今冬には同国リヨンにて開催された国際帽子コンクールに出品し帽子ショーに選出され、今夏は昨年受賞したコンクールの一般部門に出品し、好評を得



2016年5月仏リヨンの国際帽子コンテスト会場にて。右端が藤原さん

※モディスト(Modiste)…帽子を作って売る人。帽子デザイナー。

ました。今後は、国際コンクールに挑戦しながらも、普段使いの帽子デザインをしっかりと学び、モディストとして独立したいと考えています。

私の学生生活におけるモットー

白神美紗(阪大 R5)

私が大阪大学に入学する時に掲げたモットーは、「好きなことをとにかく全部やってみる」ということでした。

実際、私はロシアのモスクワへ1年間の交換留学をし、学生の間に10カ国以上を旅行し、ロシア人の学生をホームステイで受け入れたり、塾講師や神社の巫女さん、バレリーナの通訳など多様なアルバイトをしてみたり…と、とにかく目

の前に現れたおもしろそうなものに飛びついていました。

なかでも一番熱心に取り組んだのは、体育会フィギュアスケート部での活動です。そもそもロシア語専攻を選んだ理由の一つにロシア・バレエやフィギュアスケートが好きだということが挙げられるくらいで、フィギュア部には1年生の冬にご縁があって途中入部させていただきました。

部では主将に任命していただき、自分が先導して部活を盛り上げていくのだと意気込む一方で、どんどん上達してゆく後輩たちの指導と自身のスキルアップとのジレンマに苦しむこともありました。どうしてもジャンプが苦手だった私は、試合でもなかなか満足のいく演技ができず、



全日インカレアイスダンス選手権での様子

毎回悔しい思いをしていました。そんななか私が辿りついた答えは、大学入学時の初心にかえることでした。「跳ぶこと」よりも“滑ること”の方が好きな自分に気づき、“滑ること”に特化したアイスダンスに転向しました。その後、日々の練習の甲斐あって、祈願の全日インカレ優勝を果たすことが出来ました。

いまこうして社会に出てみて、学生時代に「好きなことをとにかくやってみた」という経験は、非常に貴重だったのだと痛感しています。だからこそ、今の学生たちにも、後先考えずに、とにかく自分が好きだと感じたことに全力で取り組んでほしいと、一卒業生として切に願っている次第です。

Messages 着任のメッセージ

大阪大学 言語文化研究科 日本語・日本文化専攻
日本語 助教

山泉 実
やまいずみみのる

2016年4月に着任しました。ここ箕面キャンパスでは外国人よりマイノリティの東京^{もん}者ですが、温かく迎えていただきました。専門は、意味論・語用論で、特に現代日本語を研究しています。授業の内容から研究のテーマを見つけ、研究したことを授業で教えるという、大学人冥利につきる生活ができています。皆様、よろしく願いいたします。



大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻
特任准教授

マリワン, ブーラナパタナー

I had worked at the Thai as a Language Program, the Faculty of Humanities and Social Sciences, Khon Kaen University since 1991 and decided to move to Osaka University, Japan in April 2016. At Khon Kaen University which is located in the Northeast of Thailand, I taught Thai language and literature for Thai students and Thai for foreigners. My research interests include teaching Thai as a foreign language, critical literacy and technology in language learning.



大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻
朝鮮語 特任講師

趙 瑜美
チョウ ユミ

本年4月に着任いたしました。専門は韓国語学、形式意味論です。自然言語において多様な形態として現れる複数イベントの意味を数理・論理的形式化を通して説明することに関心を持っており、主に韓国語の資料を研究しています。専攻語実習や韓国語学(形態論、統語論、意味論)の講義を担当しています。日本で暮らすのは初めてですが、環境と学生に恵まれたお陰で楽しく過ごしています。よろしくお願いします。



大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻
中国語特任准教授

丁 華
キカ

2016年4月着任。文学博士。北京師範大学漢語文化学院副教授、修士生導師、文化传播教育研究室主任。国家級普通話試験員。専門は国際漢語教育、第二言語としての

漢語教育の研究、文化間交流学、東洋文学である。北京師範大学の対外漢語教学に23年間従事してきた。音楽、歌舞、執筆を愛し、漢語会話、作文の教学を得意とし、「漢語第二言語教学の理論と実践」「漢語第二言語習得の研究」「文化間交流理論と実践」「西洋外国語教学の流派と方法」の修士課程科目を開設、90編近い論文を発表、専門著作2部、編著2種、共同で叢書2シリーズを編集、中学・高校作文教科書 4冊を出版している。現在、中国語文現代化学会漢語国際伝播研究分会理事、中国東方文学学会理事、世界漢語学会会員、中国語言学会会員。(原文は中国語、青野繁治教授に翻訳をお願いしました)※丁華先生からは、さらに詳細なメッセージも頂戴しておりますが、誌面に掲載できませんので、咲耶会ホームページ sakuyakai.net「教職員より」のページに掲載させていただきます。ぜひご覧ください。



大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻
トルコ語 特任准教授

アクバイ, オカン, ハルク

2015年10月に着任いたしました。専門は言語学と外国語教育です。元々は言語の数学的な美しさに惹かれてこの世界に入ったのですが、最近は言語の根底に流れる民俗学的要素にも興味を持っております。先生方や学生の皆さんのお力を借りながら、研究や教育活動に邁進したいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻
カップリング・インターンシップ・プログラム(CIS)
特任講師

大友 有
おおともなほ

CISプログラム特任講師として 2016年4月に着任いたしました。タイの法制度研究を専門とし、憲法や労働法といった公法と社会法の分野の研究をしています。CISプログラムでは、アジア各国の言語を学ぶ学生と工学系の学生との出会いを楽しみに、各専攻語の先生方のご指導ご協力を賜りながら、CISプログラムの発展のために尽力する所存です。

■平成27年度外国語学部卒業生数

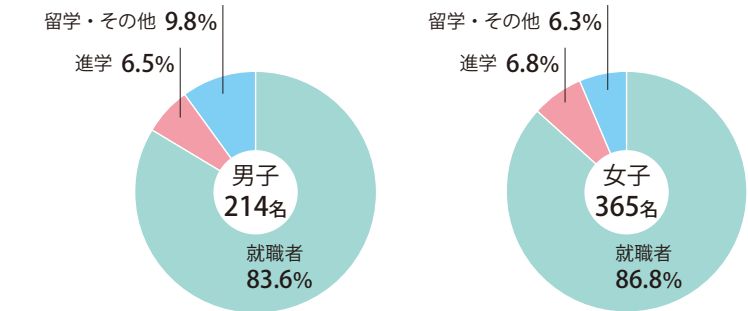
【旧課程】

専攻等	平成27年 9月25日卒業			平成28年 3月28日卒業			合計	
	男子	女子	小計	男子	女子	小計	男子	女子
地域文化学科昼間主	0	0	0	1	0	1	1	0

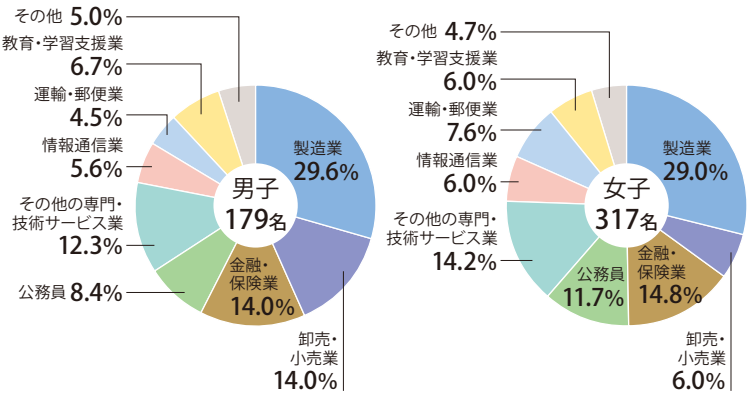
【新課程】

専攻等	平成27年 9月25日卒業			平成28年 3月28日卒業			合計	
	男子	女子	小計	男子	女子	小計	男子	女子
中国語専攻	0	1	1	20	19	39	20	20
朝鮮語専攻	0	0	0	3	12	15	3	12
モンゴル語専攻	0	0	0	6	16	22	6	16
インドネシア語専攻	0	0	0	2	15	17	2	15
フィリピン語専攻	0	0	0	7	13	20	7	13
タイ語専攻	0	0	0	3	4	7	3	4
ベトナム語専攻	0	0	0	6	11	17	6	11
ビルマ語専攻	0	0	0	5	6	11	5	6
ヒンディー語専攻	0	1	1	5	11	16	5	12
ウルドゥー語専攻	0	0	0	8	6	14	8	6
アラビア語専攻	0	0	0	9	20	29	9	20
ペルシア語専攻	0	0	0	11	8	19	11	8
トルコ語専攻	0	0	0	4	8	12	4	8
スワヒリ語専攻	0	0	0	5	8	13	5	8
ロシア語専攻	0	0	0	13	15	28	13	15
ハンガリー語専攻	0	0	0	3	15	18	3	15
デンマーク語専攻	0	0	0	6	17	23	6	17
スウェーデン語専攻	0	1	1	4	15	19	4	16
ドイツ語専攻	0	0	0	9	23	32	9	23
英語専攻	0	0	0	38	29	67	38	29
フランス語専攻	1	0	1	6	12	18	7	12
イタリア語専攻	0	0	0	5	13	18	5	13
スペイン語専攻	0	0	0	9	24	33	9	24
ポルトガル語専攻	0	0	0	16	17	33	16	17
日本語専攻	1	0	1	8	25	33	9	25
計	2	3	5	211	362	573	213	365

●平成27年度卒業生 進路・就職状況



●平成27年度卒業生 業種別就職者数



■平成28年度外国語学部入学者数

専攻等	前期日程								後期日程				海外在住 私費 外国人 留学生 特別入試	交流協会 奨学金 留学生 国費 留学生	合計		3 年次 編入学	
	一般選抜				特別入試				一般選抜						募集人員	入学者数	募集人員	入学者数
					私費 留学生		帰国生徒											
	募集人員	合格者数	入学辞退	入学者数	募集人員	入学者数	募集人員	入学者数	募集人員	合格者数	入学辞退	入学者数						
中国語専攻	30	32	1	31	若干名	若干名			10	12	0	12			40	43	10	
朝鮮語専攻	13	14	0	14					5	6	0	6	1		18	21		1
モンゴル語専攻	13	14	2	12					5	8	0	8			18	20		
インドネシア語専攻	7	8	0	8					3	4	0	4			10	12		
フィリピン語専攻	9	10	0	10					3	4	0	4			12	14		
タイ語専攻	11	12	0	12					4	5	1	4			15	16		1
ベトナム語専攻	11	12	0	12					4	5	1	4			15	16		1
ビルマ語専攻	13	14	3	11					5	9	0	9			18	20		
ヒンディー語専攻	13	14	0	14					5	7	2	5			18	19		
ウルドゥー語専攻	13	14	2	12					5	8	3	5			18	17		
アラビア語専攻	19	21	0	21					6	7	1	6			25	27		
ペルシア語専攻	13	14	0	14					5	6	0	6			18	20		
トルコ語専攻	13	14	0	14					5	6	1	5			18	19		
スワヒリ語専攻	13	14	1	13					5	7	1	6			18	19		
ロシア語専攻	19	21	0	21					6	7	2	5			25	26		
ハンガリー語専攻	11	12	0	12					4	5	0	5			15	17		
デンマーク語専攻	13	14	0	14					5	6	0	6			18	20		
スウェーデン語専攻	13	14	1	13					5	7	1	6			18	19		1
ドイツ語専攻	26	28	0	28					9	10	2	8			35	36		1
英語専攻	45	48	4	44					15	20	0	20			60	64		
フランス語専攻	19	21	1	20					6	8	2	6			25	26		2
イタリア語専攻	13	14	1	13					5	7	0	7			18	20		
スペイン語専攻	26	28	0	28					9	10	1	9			35	37		
ポルトガル語専攻	23	25	3	22					7	11	1	10			30	32		
日本語専攻	22	22	0	22	10	8		8	8	0	8	1	1	40	40			
計	421	454	19	435	10	8		0	149	193	19	174	2	1	580	620	10	7

■平成28年度外国語学部入学者数

専攻等	1 年次入学			3 年次編入学		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計
中国語専攻	17	26	43	0	0	0
朝鮮語専攻	2	19	21	0	1	1
モンゴル語専攻	9	11	20	0	0	0
インドネシア語専攻	4	8	12	0	0	0
フィリピン語専攻	2	12	14	0	0	0
タイ語専攻	3	13	16	1	0	1
ベトナム語専攻	7	9	16	0	1	1
ビルマ語専攻	4	16	20	0	0	0
ヒンディー語専攻	10	9	19	0	0	0
ウルドゥー語専攻	7	10	17	0	0	0
アラビア語専攻	13	14	27	0	0	0
ペルシア語専攻	8	12	20	0	0	0
トルコ語専攻	5	14	19	0	0	0
スワヒリ語専攻	6	13	19	0	0	0
ロシア語専攻	13	13	26	0	0	0
ハンガリー語専攻	3	14	17	0	0	0
デンマーク語専攻	9	11	20	0	0	0
スウェーデン語専攻	3	16	19	0	1	1
ドイツ語専攻	15	21	36	0	1	1
英語専攻	23	41	64	0	0	0
フランス語専攻	6	20	26	0	2	2
イタリア語専攻	8	12	20	0	0	0
スペイン語専攻	20	17	37	0	0	0
ポルトガル語専攻	11	21	32	0	0	0
日本語専攻	10	30	40	0	0	0
計	218	402	620	1	6	7

懐かしの恩師は今



東 泰介

大阪外国語大学名誉教授(国際関係講座)

平成 14年3月に大阪外大を退官してから、14年が過ぎた。改めて歳月の流れの速さに驚く。上本町の学舎から始まった4年間の非常勤講師時代を含む25年間の外大における教育・研究生活は、私の人生における貴重な資産になっている。専任着任後に開講した国際法の演習では、大量の文献を読み、議論をして、よく宿宿や旅行もした。東京外大や愛知大学、神戸市外大との国際法合同セミナーを通じた学問的・人間的な交流が長く続いた。平成5年の学科改正で設置された国際文化学科・国際関係講座に属して国際関係専攻の学生を中心に教えたが、他専攻の学生や地域文化学科の学生も国際法の講義を履修した。国際法の演習や授業で共に学んだ卒業生が、外務省や商社、銀行、大学・高校、翻訳業などを含む多くの分野で大活躍していて、本当に嬉しい。

平成26年3月に大阪学院大学を定年で退職し、6月に京都で記念パーティを開いていただいたが、外大時代の国際法演習の履修生を中心に、多数の教え子たちが北海道や東京、四国などからも馳せ参じてくれて、新たな嬉しい想い出のひとつをいただいた。昨年11月14日には、大阪大学で開催された咲耶会の総会に出席して、少徳会長や役員の方々、外大の改革を論じた先生方、旧知の卒業生にも会うことができた。懐かしく、時を忘れて過ごしたのも、昨日のような気がする。

「近況」



田中泰子

大阪外国語大学名誉教授(ロシア語)

今日私は78歳の誕生日を迎える。教え子達から祝いの席を用意したという連絡が入った。サプライズである。上野の精養軒で家族と祝った5歳の誕生日。写真の背景の森で軍事訓練をしている兵隊達が写っている。父が赤紙で大陸へ送られ、伊豆半島の小村に疎開した5年間には、「巨峰」の生みの親・大井上康先生の奥様が、早朝の農業試験場で切り取った見事なバラをお祝いにくださった。そのバラのむせ返るような香り、そして母が作ってくれた卵のだるまさん！どれも懐かしい思い出だが、今日の誕生日はひときわ嬉しい。

1991年1月わずか100部の創刊号を出したロシア児童文化研究会の雑誌『カスチョール』が来年で四半世紀になる(現在は1100部)。隣国だというのに、私達はあまりにも、ロシアのことを知らなさすぎる。そう思って始めた仕事だが、微力の限りを尽くし、来年终刊することを決めた。25年かけてやってきたことは、研究というより、多様な民族が共生するこの大国の児童文化の大雑把な紹介に過ぎなかったように思える。

それでもここ数年やってよかった、と感じる事が多かった。全国各地の大学の院生から、カスチョールから専攻テーマを選んだといった便りが届く。ささやかながらも次世代に引き継ぐことができたことを知った嬉しさに勝るものはない。前2号で「世界の文学教育」を特集した際には、デンマーク、ベトナムなど約10カ国の文学教育について阪外大の同僚達から寄稿を受けた。カスチョールの長期の活躍に対して、創刊20周年の2012年、ロシアの文化勲章プーシキン・メダルを受章したことも良い記念になった。翻訳集も合わせて全40冊、この中の優れた作品をなんとか出版できないだろうかと考えている。



楽しく過ごした映画研究会 (昭和50年～昭和53年所属)

大阪外国語大学映画研究会 **笹原敬生** (大IN27)

部室は階段の踊り場で、横の棚には火炎瓶が多数置いてあり、学生運動の名残を感じました。活動は基本、作品を決めて皆で上本町、天王寺、梅田、なんば等の映画館で映画を観て、それについて部室や喫茶店で語ることでした。外国映画、日本映画なんでも観に行きましたが、山本晋也のピンク映画まで皆で鑑賞したのが画期的だったと思います。そして、不定期ではありましたが会報を作成していました。

昭和53年には「たそがれ恋歌」他の8ミリ映画を大阪市内等でロケして撮影し、学内で上映会を行いました。また、夏には映画の撮影のために和歌山で合宿を行いました。外部では奈良女子大映研との交流会も開きました。

私が入った当時の部長は広岡裕児氏(大F27)(現在パリ在住で執筆活動をされています)でしたが、フランスに留学された為、私が2年3年と部長を務め、4年の時は松本公夫氏(大IN29)に譲りました。この時の部長の経験が後に人を纏めたり、映画の会を主宰した時に生きました。

しかし、その後、同窓会もないため、ほとんどの方の消息がわかりません。私がいた4年間に会員だった方のお名前だけでも挙げておきますのでご連絡頂ければと思っています。(私の記憶も曖昧ですが、さらに当時の資料を台風で失くしてしまったこともあり、間違っていたらごめんなさい) 広岡裕児、西敏子、村津真弓(以上F)、笹原敬生、飯田和子、的井圭子、松本公夫、増田和之、伏原健治(以上IN)、道畠伸一、井上康子(以上S)、松嶋栄、桑村智子、荻野直哉、鉦持敏朗(以上DM)、市川直子(TV)、松尾重典(M)、松永美恵子(P)、寛憲明(R)、吉田朗(IT・1年次に早稲田大学に合格)(以上敬称略)



大阪大学外国語学部合気道部

合気道部卒業生会(OB会)会長 **戸倉光明** (大IP17)

大学統合の時流の中、平成19年(2007)10月に大阪外国語大学は大阪大学の外国語学部と変わりました。大学は統合となりましたが、合気道部は統合せず「阪大外国語学部合気道部」として独自の活動を継続しています。

合気道部は1962年に発足し、1967年に同好会から大阪外国語大学・体育会合気道部に昇格しました。1977年に8代池田憲夫(現師範)と5代戸倉光明(現OB会長)等により「大阪外国語大学体育会合気道部卒業生会 和氣會」が設立となりました。同年、大阪市天王寺区上本町八丁目の旧大阪外国語大学内道場にて合気道部設立15周年記念演武会が開催されました。1979年に、学舎が大阪市内から箕面市丘陵に移転し2016年に至っています。合気道部は来年設立55周年で、OB会である和氣會は現役部員への支援と共に会員親睦の役務を務めています。

[合気道とは]について簡単な説明・紹介をします。相手といたずらに力で争いませ^{いりみ}ん。入身と転換の体捌きから生まれる技によって、切磋琢磨しお互いに技をかけ合い稽古をします。老若男女が分け隔てない稽古方法によって、心身の錬成を図ることを目的としています。他人と優劣を競わないので、試合は行いません。お互いを尊重する姿勢を貫く合気道は、いのちの大切さがうたわれる現代に相応しい武道といえるでしょう。争わない競わない武道として、公益財団法人の合気会の国内登録道場は2000箇所を超えます。武道としても平和と調和の精神にも惹かれ、海外では世界95カ国に裾野が広がっております。

現在合気道部は箕面キャンパスの武道場を中心に活動しており、毎年開催の日本武道館「全日本合気道演武大会」に現役OB共に連続して出場しています。

稽古予定は合気道部のホームページに有りますが、毎週土曜日午後の稽古には、OBや海外からの教師や留学生が参加しています。合気道部のホームページをご覧ください。

<http://oufsaiki.wixsite.com/oufsaiki>



創部 90周年のサッカー一部

大阪外国語大学サッカー一部 OB会会長 **岡野恭介** (大S23)

大阪大学との合併で一時は活動を休止したサッカー一部ですが、後輩たちの熱い思いが周囲を動かし、2008年に外国語学部サッカー一部として復活し、活動が続いています。そして昨年は、1925年の創部から90周年という節目を迎えることが出来ました。

昨年3月に開催されたOB東西対抗戦と総会には、現役、OB合わせて数十人が集まりました。90周年記念エンブレムやユニフォームも披露され、大学生協での祝賀会は大いに盛り上がりました。昨年発行された記念会報には、90年前のサッカー部創部当時、あるいは、戦後の活動復活当時の状況を知る貴重な資料も収録することが出来、「過去があつて今の自分たちがある。」ことを改めて感じた90周年記念行事でした。

OB会では、ホームページやFacebookでの情報の発信や会員間の交流を行っていますが、やはり年に何度かの集まりが不可欠です。毎年のOB東西対抗戦と総会、懇親会のほか、年に2回開催される東京外大OBとの交流試合、そして随時開催されているヤングOB達によるフットサルが交流の場として定着しています。

現役チームは復活後リーグ戦3部準優勝を成し遂げるなどの活躍を見せていますが、現在いくつか課題を抱えています。最大の問題は、2021年春に予定されている外国語学部キャンパスの移転です。移転計画では、新キャンパスにグラウンドなどスポーツ施設の設置が予定されていないようです。もちろん豊中や吹田キャンパスにグラウンドをはじめスポーツ施設はありますが、外国語学部運動部が適切に使用できるかは不明確です。

身近に活動できる施設の確保は、サッカー部だけでなく、すべての外国語学部運動部にとって大きな問題です。それぞれ伝統があり、意欲的な部員によって運営されている運動部に対しOB会として何が出来るのか、暗中模索の状況ですが、まずは紙面をお借りし、咲耶会の皆さまのご理解とご支援をお願いする次第です。



大阪大学外国語学部茶道部 「楓の会」

大阪大学外国語学部
日本語専攻 3年 **登坂ヨハネス**

私たち茶道部は箕面キャンパスの記念会館にて毎週木曜日と土曜日12時から19時までお稽古をやっています。木曜日には茶道の先生に来ていただいて、お稽古をつけていただいています。流派は大日本茶道学会という裏千家から派生した流派でお稽古をしていますが、どの流派の方でも参加できます。裏千家か表千家の経験のある部員とともにその違いと一緒に学ぶことによって茶道の知識を深めることもできます。

現在は部員が19人いて、そのほとんどが初心者ですが、みんな稽古を重ねて最終的には1人でお茶を点てられるようになります。最近では留学生が日本の伝統的な文化の一つである茶道について知りたくてたくさん茶道部に入部し、稽古をしています。お稽古では単に作法を学ぶだけではなく、その背景や歴史、おもてなしの精神やお道具を大切に^{てい}する精神など多くのことを学びながら部員一同和氣藹々と楽しんでます。

お茶会は年に一度卒業生が主催する卒業茶会を行い、また夏には箕面キャンパスで開かれる夏まつりに出店、不定期ですが部員で京都などに行ったり、和菓子作り体験に行ったりします。そして、今年は初めて外部の方のためにお茶会を開くことになって、OBOGの方々と茶道の先生の力を借りて無事に開催することができました。

今年の4月から入部してくれた部員がたくさんいて、見学に来てくれている方も今学期少し増えていて楽しい部活が続いております。秋学期からも茶道に興味のある方は大歓迎ですので、ぜひともご連絡下さい。

平成28年度総会・懇親会のご案内

日時：平成 28年 10月 22日(土) 午後 1時 30分～午後 6時

会場：大阪大学中之島センター 10F 佐治敬三メモリアルホール

大阪市北区中之島4－3－53 TEL 06－6444－2100

■京阪中之島線「中之島」駅より徒歩約5分／阪神本線「福島」駅より徒歩約9分／JR東西線「新福島」駅より徒歩約9分／JR環状線「福島」駅より徒歩約12分／地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅より徒歩約10分

●咲耶会総会：午後 1時 30分～午後 3時

●講演会：午後 3時～午後 4時 「イスラム国の野望」(仮)



講師：

高橋和夫氏(大 P22)

放送大学教授

専門分野：

国際政治学、中東研究

●懇親会：午後 4時 30分～午後 6時

楽しんでいただけるアトラクションもご用意しています。

懇親会会費：5,000円(当日会場でいただきます)

※**新卒業生会員(平成28年3月／9月卒業)・学生(学部／大学院)会員は無料です。**
未加入の学生については、参加費1,000円をいただきます。

〈お問い合わせ〉咲耶会事務局 TEL & FAX: 072-728-2327
 E-mail: sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp

●**参加ご希望の方は、同封のガキにてお申し込みください。**

※「平成27年度の総会・懇親会」のご報告については、誌面の都合で掲載することができませんでしたので、咲耶会ホームページ sakuyakai.net「委員会より」のコーナーに掲載いたします。ぜひご覧ください。

「仕事カフェ」、発展形へ？ (在学生支援委員会報告)

咲耶会事務局

在学生と若手卒業生が、仕事や将来、就職活動について自由に聞いて話せる「仕事カフェ」は、昨年12月に第4回を、今年7月に第5回を開催



しました。毎回参加者からは「外国語学部の先輩なので聞きやすかった」「企業説明会では聞けない話ができた」と好評ではあるものの、土曜日の午後という開催日時からか、在学生の参加者が増えないのが悩みの種でしたが、今後は外国語学部主催の企業説明会と日程を合わせるなど、タイミングと場所を工夫することによって、さらに「参加しやすい」会を目指したいと考えております。卒業生、在学生の皆さんともども、今後ともぜひ多数ご参加よろしく願いいたします。

「新入生 Welcome Party 2016」で外国語学部を知る！

咲耶会事務局

咲耶会では、4月に入学した新入生たちを今年も「新入生 Welcome Party 2016」で歓迎しました。

現在、外国語学部生とはいえど、1年生の間は専攻語を含むすべての授業を豊中キャンパスで受けることになっているため、外国語学部ならではの文化、2年

から通うことになる箕面キャンパスの魅力を知ってもらおうと、箕面の名店のケーキやカツサンドが賞品の国際色&箕面カラーたっぷりのクイズや、箕面キャンパスを中心に活動するサークル・クラブのアピールなど盛りだくさんの内容で「外国語学部の魅力」を紹介。終わるころには、そこに新しい会話の輪が生まれていました。今年もプロデュース&広報を担当してくださった後藤峻さん(夜F42)、松本彩香さん(人間工学部2012年卒)、増澤圭さん(大SH60)、本当にありがとうございました！



「咲耶会の古本屋さん」4年目も盛況でした！

咲耶会事務局

咲耶会では、箕面キャンパス恒例の「大阪大学夏まつり」(7月9日)に、今年も古書店の模擬店を出店、同窓生の皆さんからご寄贈いただい

た古書2,000冊あまりを無償で提供しました。降ったり止んだりのあいにくの天気でしたが、それでも在学生や留学生、地域の住民のみなさんが、熱心に本を選び、うれしそうに持ち帰ってくださいました。在学生の声で一番多かったのは「辞書はありませんか？」という質問です。マイナー言語と言われる専攻語の辞書は高価で、欲しいし必要だけれど手が出ない、という学生も多いようです。もし、ご自宅に眠ったままの辞書などがありましたら、ぜひまたご寄贈いただきますよう、お願いいたします。



大阪大学未来基金「咲耶教育研究事業(外国語学部教育研究事業)」にご協力を！

大阪大学では、学術研究や教育・人材育成を目的として、平成21年5月に「大阪大学未来基金」が創設されました。「22世紀に輝く大学」をめざす大阪大学未来戦略を財政面から支えるために重要な役割を担っています。

平成25年には、外国語学部の教育・研究の支援を目的として、未来基金の中に、「咲耶教育研究事業」が開設されました。自分と密接なつながりのある学部に寄付したいという、募金する側の心情に配慮した募金窓口であると言えます。「咲耶」の名を冠したのは、外国語学部のための募金であることを分かりやすくするため、外国語学部と咲耶会が密接な情報共有と意見交換を重ね、開設が実現しました。

「大阪大学未来基金」の名称が、大阪外国語大学の卒業生には馴染みにくい状況に配慮して、開設当初は、統合後(平成20年4月以降)に入学した学生及びその保護者を中心に募金を呼びかけてきました。平成24年3月の外国語学部1期生の卒業から4期の卒業生を送り出した昨年度には、対象を広げ、同窓会である「咲耶会」会員の皆様にも、趣旨をご理解いただき、募金をお願いすることになりました。

募金の使途については、「外国語学部で学ぶ学生に対する修学支援、課外活動の支援、就職支援等」とし、予算の執行については、咲耶会からの要望も伝え、大学との相互理解のもと、募金活動に協力しています。今後の学生支援の在

外語マガジン『sakuya』をご覧ください！

「外語の先輩に、会おう。」をテーマに掲げた“外語マガジン『sakuya』”は、外国語学部の卒業生を毎月ひとりずつ紹介していくwebマガジン&ポスターです。ポスターは箕面・豊中両キャンパス内に掲示して、現役生に見てもらえるようにしています。外国語学部同窓会を盛り上げる手助けになればと、2015年11月より大阪大学卒業生有志3名でスタートさせました(現在は4名で運営しています)。

「現役外国語学部生に、先輩たちの面白い生き方を知ってほしい！」と始めた試みでしたが、毎回のインタビューでは、まず私たちがその生き方や考え方の面白さにワクワクして、いつも新たな扉を開いてもらったような気分になるのです。「学生時代にこの生き方を知っていたなら、もっと大胆に行動できていたかもしれない！」なんて思うこともありました。自分の道をまっすぐに歩む卒業生たちからは、数々の名言が飛び出します。そのどれもが現役生に聞かせてあげたいものばかり。そして、私たち同窓生にとっても大切な意味をもつ言葉たちだと思います。「卒業生たちの言葉が、だれかの道しるべになりますように…」そんな想いで、私たちはこの“外語マガジン『sakuya』”をつくっています。

り方として、大阪大学未来基金「咲耶教育研究事業(外国語学部教育研究事業)」へと徐々に移行していく状況をご理解いただき、母校の発展のため、ご協力、何とぞよろしくお願い申し上げます。

咲耶会会長 少徳敬雄 外国語学部長 東 明彦

<募金のご案内>

「咲耶教育研究事業」へのご寄付の方法や顕彰、また「所得控除」の取り扱いなど、大阪大学未来基金に関するご質問等がございましたら、大阪大学基金事務室へお問い合わせください。

また、大阪大学未来基金のホームページもぜひご参照ください。

お問合せ先 **大阪大学基金事務室**



06-6879-8327



06-6879-4337

E-mail: kikin@office.osaka-u.ac.jp

URL: www.miraikikin.osaka-u.ac.jp

(で検索してください。)

スタートから半年以上が経ち、予想を超えるたくさんの反響をいただき、編集部一同とても嬉しく思っております。これからも素敵な卒業生が登場する予定ですので、ぜひ一度、webサイトを覗きにきてください。

URL <http://sakuyakai.net/magazine/>

Facebook で検索

Twitter @sakuya_magazine



スタッフ：

後藤 峻 2011 年卒 (南欧夜 F42)
 地域文化学科南欧地域文化専攻フランス語 / 夜間主

松本彩香 2012 年卒
 人間科学部人間科学科 対人社会心理学専攻

菊池 藍 2011 年卒 (比較文化夜 42)
 国際文化学科比較文化専攻中国語 / 夜間主

増澤 圭 2012 年卒 (大 SH60)
 地域文化学科 アフリカ地域文化専攻 スワヒリ語

第1回咲耶出版大賞に生田美智子氏 編著作『女たちの満洲』

石野伸子 (大 D22／選考委員長)



卒業生が書いた本の中から、外語精神あふれる出版物を顕彰しようと今年度からスタートした「咲耶出版大賞」。栄えある第1回受賞作に生田美智子氏(大R17、大阪大学名誉教授)が編著者となった『女たちの満洲―多民族空間を生きて』(大阪大学出版会)が選ばれた。

辺境の地・満洲には、中国人、朝鮮人、ロシア人、モンゴル人、そして移住してきた日本人、とさまざまな民族が混在して暮らしていた。重層的な社会の中で人々はどんな思いを抱えて生きたか。11人の研究者が多彩な側面から実像に迫っている。辺境の地に理想郷を求めたロシア人。そこに花開いた消費生活を享受した日本人。中国の大河ドラマになった漢人女性。これまであまり語られることのなかった人々に光を当て、多民族空間が抱えた理想・矛盾・悲劇をあぶりだしている。編著者の生田氏は、「女」というキーワードを置くことで大学、国籍、性差を超えた共同研究を可能にした。共著者には藤原克美氏(大R38、大阪大学准教授)、深尾葉子氏(大C33、大阪大学准教授)の2人の卒業生も参加している。

このほか、田原佑子氏(大R15)が訳出したサハリンの先住民族ニヴフのファンタジー長編『ケヴォングの嫁取り』(ウラジーミル・サンギ著、群像社)。植民地朝鮮における神社政策から歴史を探る青野正明氏(大K30、桃山学院大学教授)の労作『帝国神道の形成 植民地朝鮮と国家神道の論理』(岩波書店)の2冊も特別賞に決定した。選考委員は本部から委託を受けた卒業生ら4人。「改めて外語スピリッツの熱さを感じた」と話している。大賞賞金は5万円。特別賞は各1万円。授賞式は10月の総会で行われる。

2017年版「同窓生名簿」作成のお知らせ

名簿編集委員会

咲耶会では2013年に刊行された「会員名簿」を「同窓生名簿」と名を改め、2017年10月に刊行することになりました。前回同様、名簿作成の専門業者であり、プライバシーマークを取得しているデータ整備専門会社(株)サラト(兵庫県姫路市)に調査・編集・印刷・発行を業務委託して作業を進めます。

平成29年1月中旬に「調査カード」をお送りする予定です。届き次第、名簿掲載内容のご確認およびご予約にご協力くださいますようお願いいたします。併せて住所不明者の調査も行いますので、一覧表にご存知の方がおられましたら、ご本人にご確認の上、ご連絡ください。データの整備された「同窓生名簿」は、母校、同窓会の最大の財産です。より正確な名簿作成のため、何とぞご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【名簿の内容】

- 収録者：学校創立から現在までの同窓生約 51,000名
- 発行日：2017年 10月上旬
- 頒布価格：6,200円 ●賛助価格：10,000円

受賞者のご披露

- 平成28年春の叙勲 中岡省治氏(瑞宝中授章)
- 元言語文化研究科教授・スウェーデン語 清水育男先生が2015年4月にスウェーデン・アカデミー特別賞を受賞されるとともに、今年(2016年)10月にはスウェーデン北極星勲章(Commander of the Royal Order of the Polar Star)を受賞されることになりました。スウェーデン・アカデミー特別賞は、18世紀に創設されたスウェーデン・アカデミー(学士院=ノーベル文学賞を選考する機関として知られる)が、語学、文学などアカデミックな分野でスウェーデンに著しく貢献した人に与えられるもので、同賞が日本人に授与されるのは初めてのことだそうです。また、スウェーデン北極星勲章は、外国人がスウェーデン王国に科学、文学、社会貢献等の分野で顕著な功績をなしたことに對し、国王の裁可により与えられる勲章で、清水先生が「長年、日本におけるスウェーデン語研究と語学教育の発展に尽くしてきた功績」に対して贈られるもの、とのこと。
- 大阪大学 COデザインセンター教授・外国語学部(ポルトガル語専攻)林田雅至先生が、2015年4月に日本人として初のリスボン科学アカデミー外国人会員に選出されました。このアカデミーは、科学の発展と国の発展・繁栄のための教育研究機関として1779年にポルトガル・リスボンに創設された歴史あるアカデミーで、林田先生の30年以上にわたるポルトガル文献学研究やポルトガル文化・ユネスコ世界遺産研究などが評価されたものです。今年(2016年)3月15日には、旧修道院(16世紀末～17世紀)をリノベーションしたアカデミー・貴賓会場にて会員証書授与式が行われ、挨拶として日本におけるポルトガル語・文化研究 100周年を記念し、講演されました。2017年 3月も再度研究講演の予定。



OHMIZU & PARTNERS

大水綜合法律事務所

弁護士 大水 勇 (大C15 昭和42年卒)

～ビジネス上の問題、家庭の問題(相続等)お気軽にご相談ください～

〒530-0047 大阪市北区西天満5丁目9番3号 アールビル本館7階

TEL：06-6311-0577 FAX：06-6311-3978

<http://ohmizu-law.com/>

咲耶会ニュース

咲耶会行事・会議

平成 27年

11月 14日(土) 平成27年度咲耶会総会・講演会・懇親会
 (於：豊中キャンパス 大学会館)
 第6回幹事会(幹事・支部長会議)会長・副会長会議

平成 28年

1月 15日(金) 会長・副会長会議(於：中之島センター)
 1月 16日(土) 第1回「咲耶出版大賞」選考委員会
 (於：中之島センター)

2月 20日(土) 第1回幹事会 会長・副会長会議
 (於：中之島センター)

3月 7日(月) 会長・副会長会議(於：大水綜合法律事務所)
 3月 28日(月) 大阪大学卒業式・学位記授与式(於：大阪城ホール)
 入会案内を配布

4月 4日(月) 大阪大学入学式(於：大阪城ホール)
 外国語学部新入生保護者会(於：松下IMPビル)

4月 5日(火) 新入生オリエンテーションでの入会案内
 (於：箕面キャンパス)

4月 23日(土) 新入生歓迎会(於：豊中キャンパス 大学会館)
 4月 30日(土) 会長・副会長会議(於：大水綜合法律事務所)

5月 1日(日) 大阪大学いちよう祭
 ～ 2日(月)

5月 1日(日) 大阪大学ホームカミングデイ(於：豊中キャンパス)

6月 11日(土) 第2回「咲耶出版大賞」選考委員会
 (於：中之島センター)

6月 18日(土) 司馬遼太郎記念学術講演会(咲耶会協賛事業)
 (於：サンケイホールブリーゼ)

7月 9日(土) 大阪大学夏まつり(於：箕面キャンパス)
 模擬店「咲耶会の古本屋さん」出店

7月 16日(土) 「仕事カフェ」
 (於：豊中キャンパス スチューデントコモンズ)

7月 24日(日) 平成 27年度会計監査
 7月 29日(金) 会長・副会長会議(於：大水綜合法律事務所)

8月 6日(土) 第2回幹事会(於：中之島センター)
 10月 22日(土) 平成28年度咲耶会総会・講演会・懇親会
 (於：中之島センター)

第 3回幹事会(幹事・支部長会議)
 ※詳細は「咲耶会ニュース」欄をご覧ください。

11月 4日(金) 大阪大学まちなか祭(於：豊中キャンパス)
 ～ 6日(日)

11月 26日(土) 語劇祭(於：箕面キャンパス)
 ～ 27日(日)

★各委員会活動については省略しています。

平成27年度 決算報告 (平成27年 7月 1日～平成28年 6月 30日)

	通常会計		積立金会計		学生支援特別積立金会計		咲耶(同窓会会報)会計		内部消去	合計
収入	入会金収入	2,200,000	受取利息	8,832	受取利息	177	咲耶賛助金	1,932,000		
	年会費収入	3,666,000					咲耶広告収入	370,000		
	名簿及年史収入	24,000					補助金(通常会計より)	2,100,000		
	総会収入	305,000								
	積立金会計から	4,000,000								
	雑収入	240,173								
	合計(その他共計)	10,435,173	合計	8,832	合計	177	合計	4,402,000	-6,100,000	8,746,182
支出	咲耶補助金	2,100,000	通常会計へ	4,000,000	留学就職援助金	1,956,495	咲耶作成費	3,285,752		
	援助金	982,838					咲耶通信費	1,892,045		
	事業費	1,465,147					振替手数料	27,994		
	運営費	5,788,393								
	合計(その他共計)	10,336,378	合計	4,000,000	合計	1,956,495	合計	5,205,791	-6,100,000	15,398,664
収支差額		98,795		-3,991,168		-1,956,318		-803,791	0	-6,652,482

期首正味財産(前期より繰越)	1,545,089	52,133,305	2,190,081	874,541	0	56,743,016
期末正味財産(次期へ繰越)	1,643,884	48,142,137	233,763	70,750	0	50,090,534

平成28年度 予算案 (平成28年 7月 1日～平成29年 6月 30日)

	通常会計		積立金会計		学生支援特別積立金会計		咲耶(同窓会会報)会計		内部消去	合計
収入	入会金収入	2,400,000	受取利息	8,000			咲耶賛助金	2,000,000		
	年会費収入	3,800,000					咲耶広告収入	220,000		
	名簿及年史収入	12,000					補助金(通常会計より)	2,400,000		
	総会収入	400,000								
	積立金会計から	3,000,000								
	雑収入	181,000								
	合計(その他共計)	9,793,000	合計	8,000	合計	0	合計	4,620,000	-5,400,000	9,021,000
支出	咲耶補助金	2,400,000	通常会計へ	3,000,000	留学就職援助金	233,763	咲耶作成費	2,680,000		
	援助金	900,000					咲耶通信費	1,900,000		
	事業費	1,090,000					振替手数料	30,000		
	運営費	5,225,000								
	合計(その他共計)	9,615,000	合計	3,000,000	合計	233,763	合計	4,610,000	-5,400,000	12,058,763
収支差額		178,000		-2,992,000		-233,763		10,000	0	-3,037,763

期首正味財産(前期より繰越)	1,643,884	48,142,137	233,763	70,750	0	50,090,534
期末正味財産(次期へ繰越)	1,821,884	45,150,137	0	80,750	0	47,052,771

卒業して、はや48年

大西秀雄(大 E16)



古希を迎えた英語大16期卒業生は、毎年同窓会で元気を交換しています。

50数名いた同期生、その後鬼籍に入った人もおり48年後の現在は40数名健在です。以前は何かの折に数年に一度適宜大阪在住のものが中心に集まることがありましたが、定年時期を経て毎年年末に上六近くのホテル・アウィーナにて同窓会を行うようになり、食事をしながらたっぷりと数時間交友を温めています。

現在連絡を取り合っているのは30名強、出席は毎年15名ほどでお互いの仕事や近年の活動など聞くにつけ、なつかしさと新鮮さが心にしみこみます。

特筆すべきことは在学中に新聞英語をご指導いただきました笹井先生に毎年ご出席いただき親しくお話いただくことです。在学中は授業後、上六界限のパリやロンドンと言った喫茶店で学外授業を楽しく拝聴したものです。比較のお年も近くお兄さんの感覚で全員慕っており今でも我々の同窓会に元気にご参加いただいています。

同期の仲間には企業や大学などで活躍した人が多く大手企業でトップを務めた人や今も他大学で学長をしている人、年の大半を世界のゴルフ場を廻っている強者も有り多士済々です。他にも色々な分野で活躍をしている人もいていつも元気づけられます。

古希を迎えた今、次の喜寿に向かう中で健康の話題が多くなってきています。昔のようにそれぞれがその個性と味で話をするのを見るにつけ心が一瞬昔の20歳代に戻り心安らぐ気がします。これからも毎年上六で楽しいひと時を元気で健康に過ごせるように願っております。

デンマーク語専攻・語科創立50周年記念大会・同窓会を開催

荒木和夫(大 DM18) 大辺理恵(大 DM51/院前中北欧 7)



2015年10月17日(土)に大阪のホテル阪神にて、デンマーク語専攻・語科創立50周年記念大会・同窓会を開催しました。当日は200名以上の卒業生が、日本全国またはデンマークなど海外より駆けつけて下さいました。また長年デンマーク語専攻の運営に携わって来られました間瀬英夫

先生、菅原邦城先生、また現デンマーク語及びスウェーデン語研究室の先生方、さらにはこの50年間にデンマーク人教師として赴任された先生方のうち、Henrik Galberg Jacobsen先生、Anne-Mette Ipsen先生、Pia Quist先生、Bente Høilund先生、Liva Hyttel-Sørensen先生もご参加下さいました(Nina Møller Andersen先生はビデオメッセージを送って下さいました)。また光栄なことに、現駐日デンマーク大使Freddy Svane大使、また大阪大学・西尾章治郎総長をはじめとする関係部局の先生方、咲耶会の少徳会長にもご臨席を頂きました。当日は限られた時間ではありましたが、卒業生同士の再会、卒業生と恩師の再会、または卒業生同士の新たな出会いなど、終始笑顔と笑い声の絶えない時間を過ごすことができました。(この記念大会・同窓会及び前日に現役学生のために行われたシンポジウムの様子につきましては、後日デンマークの新聞でも紹介されました。)

この記念大会・同窓会に向けては、1年ほど前から実行委員会を結成し、当日の盛会を目指し準備に取り組んで参りました。咲耶会事務局そして現デンマーク語研究室の先生方からのバックアップ、そして何よりもデンマーク語とともに学んだ卒業生の皆さんからの多大な支援また寄付がなければ、このような素晴らしい記念大会・同窓会の開催はまず不可能でした。ここに改めて皆様のご協力に感謝申し上げます。そしてまた近いうちに集まる機会が持てることを楽しみにしております。

大IN語14回生 同期会

鈴木安夫(大 IN14)

今年の6月9日(木)、梅田・北新地にある「咲ら」にて、同期会を開きました。約7割にあたる11名の出席で終始大いに盛り上がり、楽しい2時間があっという間に過ぎました。



今年は卒後50年目という節目の年で、話題も多方面にわたりました。最初に“Saya senang hati bertemu degan saudara² tahun ini”と挨拶の後、物故者(23名中8名)への黙祷をささげ、配布資料の説明、近況報告、懇談へと続きました。参加者のうち7名は大阪以外の居住者でした。

特に今回はマレーシア在住の仲間が一人、本会のために帰国され、マレーシアやインドネシアの最近の様子を詳しく聞くことができ、大変有意義な会となりました。この会ではいつも資料を配布していますが、今回は咲耶会事務局の方からいただいた資料をもとに、大外大の歩み、箕面への移転後の様子、更に大阪大との統合後のインドネシア語科の現状と課題、加えて5年後の新箕面駅前へのキャンパス移転計画等、盛り沢山の話題に話が弾みました。

私達は3回生の折、スカルノ大統領失脚という激動の時代で、就職活動がむずかしい時でもありました。しかし、4割

が商社関係、3割が一般企業へと進み、残り3割は教員、銀行、外交官、土地家屋調査士、芸能会社と多岐にわたり就職することができました。今こうして分野は違っても楽しく交流できることを幸いに思っています。

司会の“Mari kita bertemu sama² tahun degan jugal”のことばの後、「ありがとう」の歌を合唱してお開きとしました。最後になりましたが、資料提供をいただきました咲耶会事務局には誌上を借りて厚くお礼申しあげます。

歴代指揮者8人が登場、世界の愛唱歌をメドレーで紡ぎます

創部90周年記念演奏会を大阪と東京で開催

グリークラブ OB合唱団大阪代表 森 滋(大 A14)



ことしはグリークラブ創部90周年の年にあたり、私たちOB合唱団は11月13日(日)に大阪外大発祥の地、上本町学舎跡地に建つ大阪国際交流センター大ホールで、1か月後の12月3日(土)に東京・かつしかシンフォニーヒルズモーツァルトホールで記念演奏会を開きます。

5年に一度の周年記念演奏会であり、特色あふれたステージを披露します。私たちの大先輩で偉大な作曲家・清水脩氏の男声合唱の名曲「月光とピエロ」と清水氏を師と仰ぐ多田武彦作曲の「柳河風俗詩」、私たちの十八番「黒人霊歌」から5曲、そして今回は90年の歴史の一端を表現すべく、1965年代以降に合唱団を指揮した歴代指揮者8人に登場してもらい、「世界の愛唱歌」8曲をメドレーで紡いでいきます。むろん外大らしくアメリカ、ドイツ、スコットランド、インドネシア、ロシアなどそれぞれのお国言葉で。

今回は永らくグリークラブ顧問、OB合唱団名誉顧問を務めていただいた山口慶四郎先生(今年1月ご逝去)の追悼演奏会でもあります。ご供養のためにもグリーOBのみなさん、全国各地からご参集くださり、演奏会を盛り上げようではありませんか。

白象会・昇龍会東京支部 開催報告

石井晴美(大 T57) 寺下知恵(阪大 T2)



タイ語科同窓会の白象会とベトナム語科同窓会の昇龍会、それぞれの同窓会の東京支部を、6月25日(土)14:00から16:00まで大手町で合同開催致しました。

白象会と昇龍会それぞれの東京支部は昨年に久方ぶりに開催されて、その合同開催の第二回目ということで、今回は20～30代の同窓生が中心となって準備を致しました。今年は特別ゲストとして元大阪外国語大学学長の赤木攻先生

と、元ベトナム語科教授の五島文雄先生をお招きし、1960年代卒～2016年卒まで幅広い世代の34名が集まりました。

当日はアジアンテイストの料理の立食パーティー形式で、自由歓談を楽しんで頂いた後、世代問わず幅広く交流してもらえるよう、タイとベトナムを題材にしたチーム対抗のクイズを実施。正解の多かったチームからタイのおつまみやベトナムコーヒーなどのおみやげが配られました。

途中、最近話題の俳優・ディーンフジオカのお父様が大阪外大卒であるという情報提供もあり盛り上がりを見せた同窓会。今後も継続して開催できるよう、幹事や各語科東京在住者名簿への登録者を募集しております。本件に関するお問い合わせは、2016年度白象会・昇龍会東京支部幹事の石井もしくは寺下までご連絡ください。

石井晴美(2009年タイ語科卒業)

harumi.ratsamee@gmail.com

寺下知恵(2013年タイ語科卒業)

temp.withdom.undbr.0530@hotmail.co.jp

追悼:林屋永吉さん

林屋さん、お嫌でしょうが少しは自慢話をお聞かせ願えませんか。

関東イスパニア語会 前田直明(大 S11)

“我々の大先輩で日本で一番スペイン語がうまい人やで”。半世紀前の外大入学の頃、居酒屋のTVを見て同級生が言った。アルゼンチン・フロンディシ大統領が、タンゴのフランシスコ・カナロが出演中の日劇の2階正面に立ち、並んで通訳的林屋さん。“巨星落つ、残念、さびしいなあ”。葬儀のとき聞こえて来たつぶやき。

在京スペイン語同窓生が立ち上げた関東イスパニア語会を引っ張って頂き、他の語科からは“スペイン語科は偉い方がトップでええなあ”と羨ましがれた。いつもユーモアのある簡潔なスピーチを頂戴した。

外交官また文人として偉大な業績を残されながら、自慢話をされない、目立つのをほんとうにものすごく嫌われた。

メキシコの大物大統領エチェベリアと構想を練られた、メキシコ人と日本人が同じキャンパスで学ぶ日本メキシコ学院設立と日本メキシコ政府交換留学生制度、晩年ノーベル文学賞を受賞したオクタビオ・パスとの奥の細道のスペイン語共訳出版、文化人類学大御所の石田英一郎から強く勧められて邦訳し、その訳を三島由紀夫が絶賛したグアテマラのマヤ神話「ポポルヴフ」の出版、コロンブスの航海誌や書簡の邦訳出版、サラマンカ大学にスペインで初めての日本語講座開講を促し実現させる、などなど。

もったいなくも、このようなお話をぼつぼつと少しずつ聞かせて頂いたが、もっともっと林屋さんの広大な世界をお聞きしたかった。林屋さん、天国から詳しいお話を、お嫌でしょうが自慢話をお聞かせ願えませんか。

関東イスパニア語会にて▶

※(咲耶会事務局より)外交官、文人として数々の業績を残し、また、長らく関東イスパニア語会の代表世話人をつとめられた、林屋永吉さん(S17)が、今年(2016年)5月18日に逝去されました。心よりご冥福をお祈りいたします。



阪大・大外大ハンガリー語専攻・語科懇親会のご案内

山口(芝下)直子(大HG47)

ハンガリー語科設立20周年祝賀同窓会で、恩師の先生方をはじめ、1～20期生までのハンガリー語科卒業生・在校生が一堂に会したのが2012年。それから早4年が経ちました。4年に一度、恩師・在学生・卒業生と語らう機会を設けることで、ハンガリーに青春をかけた者同士、親睦を深めていきたいという願いから、第2回ハンガリー語専攻・語科の集いを開催いたします。また学生たちからの絶大な人気を誇るハンガリー人の Borsos Levente 先生が、5年の任期を終えて来春ご帰国されるので、Borsos Levente 先生のお別れ会も同時に行います。

*****日時 2017年2月19日(日)15時～18時会場 クロスウェーブ梅田(JR大阪駅、各線梅田駅ちかく)会費・参加申込方法など詳細は12月頃、正式な案内状にてお知らせ致します。なお送り先不明のため案内状を送付できない場合もございますので、その際は咲耶会事務局までお問い合わせください。取り急ぎ、上記「日時と会場」をご確認いただきまして、お仕事その他を是非ともご調整ください。(同窓会幹事 大HG47芝下 / 阪大HG3三瓶)*****

ハンガリー語では同窓会のことを öregdiák találkozó といいます。öregdiák と聞いて、私は öreg じゃないと思ったあなた、まだハンガリー語を忘れていませんか。なーんとも思わなかったあなたは、ハンガリー語をすっかり忘れてしまったか、さもなくば、ネイティブなみの超上級者ということになります。Levente 先生によれば、öregdiák は一語で同窓生、öreg の本来の意味は感じられないとのこと。ハンガリー語を忘れてしまった人も、まだ覚えている人も、同窓会でお会いしましょう。(早稲田みか)

朔風会(モンゴル語科／専攻同窓会)懇親会を開催しました! 八代田幾世(大M29)

「朔風会」は、大阪外大モンゴル学科・阪大外国語学部モンゴル語専攻の同窓会です。かつては同窓会誌も発行し、大阪外大の語科同窓会の中でも活発に活動していましたが、ここ数年やや停滞気味でした。幹事団も皆働き盛りで忙



しいし、会誌までは…と言っては何も始まらない、集まれる人だけでも集まろう、と昨年(2015年)10月18日、大阪・四ツ橋のチベット料理店「スノライオン」で懇親会を開きました。

モンゴルはチベット仏教と縁の深い国。なじみのある仏像や仏画・彫刻に囲まれた雰囲気のに、橋本勝名誉教授をはじめとする 1959年卒から2013年卒までの、実に半世紀以上におよぶ卒業生20人が集合。年の差もものは、モンゴル語の勉強に苦労した話、先生方や先輩後輩の話に時間を忘れました。特に半数以上

の11人が女性だったこと、当日は来られなかったもののハガキに近況を書いて送ってくださった方が133人もおられたことはうれしい驚きで、その近況のお名前から懐かしい顔が浮かび、皆しばらくは口も開かず読みふけりました。

大阪外国語学校開学時に創設されたモンゴル語科(当時は蒙古語部)は、5年後に創科100年を迎えます。その年には盛大に「朔風会総会」を開催したいと思っていますので、モンゴル語科・専攻卒業生の皆さん、ぜひお楽しみに!また、連絡が届いていない方は八代田 MHH02460@nifty.comまでご連絡ください。

語科同窓会「アラビア語会」紹介

大阪大学言語文化研究科 准教授 アラビア語会前事務局長 藤井章吾(大 A23)

昨年までアラビア語会の事務局長を務め、現在はその任を離れていますが、アラビア語会紹介の役を仰せつかりました。

大阪外大卒業生と阪大外国語学部卒業生で構成する専攻別・語科別同窓会、いわゆる「語科同窓会」—アラビア語はストレートに「アラビア語会」と称して運営しています。アラビア語会設立の動きは統合後間もなく始まり、統合から2年後の2009年(平成21)に第1回総会を開催しました。私事にわたりますが、その頃、病を得て3ヶ月ほど入院生活を送っていたため、私自身は設立準備作業に加われず、第1回総会も欠席、次の2011年(平成23)の第2回総会から出席することになりました。

アラビア語会名誉会長は池田修先生(第4回卒、元大阪外国語大学長)。初代会長が塩尻宏氏(第15回卒、元駐リビア大使)。塩尻初代会長は2013年(平成25)の第3回総会より、現・第2代会長、高階美行先生(第19回卒、前大阪大学外国語学部長)と交代しました。事務局長は初代が高階先生、2代目が私、昨年2015年(平成27)の第4回総会から、阪大言語文化研究科の依田純和先生(第41回卒)が3代目事務局長を務めています。アラビア語会の事務局を事務局長研究室、つまり現在は阪大外国語学部内の依田研究室に事務局に置き、年会費などは一切ありません。加入ご希望の卒業生の方はお気軽にいつでも事務局にご連絡ください。

総会は「関西で2年に1度開催」が原則で、昨年、第4回総会を開き、次回は来年2017年(平成29)の開催を予定しています。文化講演を加えたり、アラビア語専攻学生のアラビア語スピーチやアラビア語語劇の一部上演を盛り込むなど、2年に1度の総会の内容にバラエティーを持たせようと工夫を凝らしてきました。口語アラビア語で「無事ご帰還、神に称えあれḥamd illa ʿa s-slāma」というと「お帰りなさい」の意味になりますが、アラビア語会ご加入いただき、総会でひとき学生時代に戻るのはいかがですか。ご参加いただければ、かつての仲間がこう言って出迎えてくれます。ハムディッラ・アッ・サラーマ。アラビア語科とアラビア語専攻に、「お帰りなさい」。



北海道支部

喜多義憲(大 M20)

初の函館総会、江差追分ライブで歓迎

6月25日(土)、函館・湯の川温泉の湯元啄木亭で第3回支部総会を開きました。道内会員は、地元函館から今西統衍さん(イスパニア語、1958年卒)ら3人と、札幌、室蘭、小樽から7人の計10人。それに少徳敬雄咲耶会会長夫妻、樽井一仁副会長、黒木一吉東北支部長夫妻、八代田幾世咲耶会事務局員が遠路駆けつけ、札幌を離れた初の地方開催に花を添えていただきました。



総会では支部長が、第3期活動計画として①交流を始動させただけのお隣、東北支部との連携活発化②道内会員間の親睦交流活動の発展③支部財政の強化④来年6月24日(土)、札幌で第4回総会開催—などを提案、承認を得ました。

総会後の懇親会で祝辞に立った少徳会長は「大阪大学との統合後、新入学生の咲耶会入会者が減少し咲耶会の持続可能な運営に困難が生じている。支部活動の拡大・活発化でサポートを」と呼びかけました。続いて、出席者が次々と立って自己紹介や外語時代の思い出を語り、函館の海の幸を中心にした料理に舌鼓を打ちました。宴席では地元函館在住の江差追分日本一(平成17年度)、播磨孝雄さんが、尺八、三味線、太鼓に乗せて自慢の喉を披露、出席者からは「さすが函館!」と称賛の声が上がりました。翌朝は自由参加の遠足があり、ジャンボハイヤーで福島町の「青函トンネル記念館」、「千代の山・千代の富士 横綱記念館」の見学を楽しみました。

東北支部

黒木一吉(II E10)

井上副会長が来仙、新キャンパス構想の概略説明

平成27年度の東北支部総会は11月7日、仙台市内のホテルで行われ、支部会員8人と本部から井上泰子副会長の臨席を得て開催した。

総会は少人数制の大学ゼミを思わせるリラックスムードの中、井上副会長が20代の現役時代に杜の都仙台を訪れて以来の訪問となり、紅葉



井上副会長を囲んでの東北支部総会

真っ盛りの市内散策の感想も披露しながら、咲耶会の現状と課題を述べた。また、会報『咲耶』の編集委員長として奮闘する苦労話や故・陳舜臣氏の追悼特集を組んだ経緯、神戸市のメリケン波止場に開館した「陳舜臣アジア文藝館」を紹介した。さらに大阪大学総長が8月に交代し、西尾新総長が「世界適塾構想」を具体化させ、外国語学部が世界に通用するグローバル人材を育成する「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」を始めたことも示した。

一方、同窓会本部も大学の入学・卒業式に積極的に関わって咲耶会をアピール。阪外大創立100周年を迎える2021年には、新キャンパスが御堂筋線延伸の新駅前に移転オープンする予定で母校の発展を共に見守りたいと強調した。

この後、記念講演に移り、東京商工リサーチ東北地区本部長(兼東北支社長)の清水記行氏(大IT38、イタリア語1990年卒)が「東北地方の企業動向と震災後の復興見通し」と題し、特に被災3県の企業活動の動静を予測した。なお、昭和40年に発見された「イケヤ・セキ彗星」の発見命名者、関勉氏(高知市在住)は清水氏の岳父であり、「アマチュア天文家の星空愛」として日経10月30日付に掲載された。

引き続き、出席者による意見交換があり、ロシア出張で言葉が分からず苦労したエピソードや、海外協力隊員としてネパールに渡航する同窓生の話題、新店舗開設準備で多忙な金融機関の支店長など、社会で活躍するメンバーが近況報告した。第4回支部総会は2016年11月5日午後3時からJR仙台駅ビル1階「中嘉屋」で開催し、東北大学名誉教授の箱木眞澄氏(大E7、昭和34年卒)が「上杉鷹山公の産業政策～その現代的意義～」と題し記念講演する。

復興応援ありがとうございます!

負けたらあかん! (関西)、負けでたまっか! (東北) 負けんばい! (九州)

咲耶会東北支部／支部長 黒木一吉 (II E 10)

TEL / FAX : 0229-52-6285 / PC メール : Kuroki@o-bb.net

東京支部

青野光裕 (大 F8)

東京オリンピック、パラリンピックは後ジャスト4年、いよいよと言う時に東京都は恥づかしいことに…でも咲耶会東京支部は、若者は勿論、それに刺激を受け、中高齢層もますます元気に。特に、月例会は世界の政治経済、地域・思想・体制間などの幾多の紛争(宗教間と言いかけ、早まるな！)、一方では時に文化面も含め各方面の卒業生専門家や同窓の権威から毎月ご講話をいただき、我らの勉学博識度は一般のレベルを超えて来ております。(皆さん年を忘れて学ばんとする真摯な姿勢はすごい。一度見に来てみなはれ。議題・内容は東京支部便り43号の「月例会年表」に詳述)。今後もう少し広範な経済動向、文化・文芸評論、人生展開の達人などにもご登場をと考えるが、人は無尽、個別の例となるとそれなら俺の方が！と線引きも難しい。月例会は、虎ノ門の阪大オフィス借用となって便利となり、部屋はやや狭いがぎっしり30名強。それだけに話しやすく、議論も活発になってきた。



ところで10月29日は年次総会(於；学士会館)。アジアの有力大学間の評価で日本の国際性はやや評価低下もあるが、この面で阪大をリードされてきた前総長の平野俊夫氏に講演をお願いする。さて、どうおっしゃるか？聞きに来なはれよ！

咲耶会東京支部ビアパーティー 樽井一仁 (大 R23)



咲耶会東京支部恒例のビアパーティーを7月23日(土)に上野で開きました。参加人数は95名で、内訳は男性59名・女性36名、昭和卒業生47名・平成卒業生48名でした。

1月の新年会、秋の東京支部総会と比べて女性の割合が高い、若者の参加が多いのが特徴となっています。これは2010年より、ビアパーティーの企画から運営のほとんど全てを若手幹事と若手のボランティアに任せるようにした結果です。私たちロートルは、受付・写真係・道案内などを裏で手伝っています。会場も従来のホテル宴会場から、恵比寿のビアホールや勝どきのパーベキュー・テラス等若者向けの場所に変更し、今年は上野駅近くのシェアスペース「いいオフィス」で実施しました。ここは、レストランではなく場所を借りて、手作りでアットホームなパーティーを目指し、真面のまつりを彷彿させる懐かしい雰囲気を意図したそうです。今年は、オランダからの一時帰国を捉えての参加、いつも楽しそうなビアパーティーの写真を眺めて是非参加したいと熱望、広島から参加された方もおられました。

来年の夏もまた新しい企画で、多くの方々に楽しんでいただけのビアパーティーを実施したいと考えています。

名古屋支部

白岩 修 (大 D19)

平成 27～28年度咲耶会名古屋支部活動状況

当支部では恒例の月例会「三水会」(毎月第三水曜日正午から約2時間の昼食懇談会 於アパホテル・名古屋錦 Tel.052-953-5111 日本料理「伊勢」)を開催しており、毎回活発な意見交換に花咲き楽しい会となっております。毎回6～9名の参加を得て、政治問題、外交問題、宗教問題、趣味、孫その他諸々の話題で楽しい会となっています。是非、ご参加ください。お待ちしております。なお、8月と12月の「三水会」は休会です。



平成27年12月12日(土)には総会(忘年親睦会)を開催し27名の参加がありました。本会ではゲストスピーカーとして玉木功一様(大R4 集合写真前列左から3人目)をお迎えし「ロシアのプーチンについて」と題し、1956年卒業後長らく外務省に勤務しサンクトペテルブルグ総領事も勤められたご経験に基づく、大変興味深い講演をしていただき参加者一同大変感銘を受けました。

平成28年1月20日(水)夕刻には新年会を開催し、14名の参加を得ました。日本料理「伊勢」の美味しい料理と飲み放題の為、歌も出たりして非常に盛り上がり、会員間に尚一層強い絆が生まれました。

本年12月10日(土)には昨年同様「アパホテル・名古屋錦 11Fビルゴ」で総会(忘年親睦会12:00～14:00)を開催する予定です。ゲストスピーカーとして吉田春生様(大D18)をお迎えし「観光立国の現在——観光マーケティングの視点から」と題し講演をしていただきます。会報『咲耶』誌に「名古屋支部総会のご案内」のチラシを同封しましたので奮ってご参加ください。名古屋支部会員の親睦を更に深めましょう！

平成29年1月18日(水)には今年同様「アパホテル・名古屋錦 5F 日本料理 伊勢」で新年会(17:30～20:00)を開催する予定です。こちらもご参加をお待ちしています。

お問い合わせはTel/Fax:052-806-7873 E-mail: shiraiwa1123@yahoo.co.jp 白岩 修(名古屋支部幹事)まで。

※長年名古屋支部長ならびに咲耶会幹事をお務めいただいた、佐藤文隆さん(大 S10)は、本年(平成28年)7月9日に急逝されました。そのご功績をしのび、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

岐阜支部

安田哲司 (大 IN30)

平成28年6月18日(土)に岐阜支部総会をじゅうろくプラザの欧風料理ラ・ローゼプロバンスにて実施いたしました。今年度の参加者は4名でした。



日比志郎(大S6)さんと丹羽宏造(大IN7)さんは、入学が1年違いでお互い高槻の校舎で学んでいたとのことで、日比さんが、食堂のおじちゃんが岐阜

県の自分の隣村の出身と切り出すと、丹羽さんも昔の記憶がよみがえり学生時代の話に花が咲いていました。

また、松尾充哲(大IN9)さんは、会社員時代インドネシアの駐在が長く、丁度帰任した2005年にインドネシア投資調整庁が名古屋に事務所を開設した際、当時トーマン名古屋支店長をされていた西脇孜さん(大IN8)のお誘いを受けて、そのお手伝いをする事になり、東海地区のインドネシア進出企業の相談などをされていますが、丹羽さんは同窓会で松尾さんと知り合い、松尾さんの紹介で自分の経営する会社恵那眼鏡工業にインドネシア人実習生を新たに12名雇い入れることができ大変良かったとのこと。この夏にはもう3名雇い入れるということで、インドネシア人実習生は仕事をしながら、日本語能力試験(世界中で60万人強が受験)をうけるため日本語を熱心に勉強しているとのことでした。

時間がたつのも忘れ楽しいひと時を過ごしました。

石川支部

吉田孝子 (大 IT37)

これまで支部がなかった石川県に咲耶会支部がまもなく誕生する。平成27年9月27日に咲耶会本支部連携委員長 樽井一仁氏の呼びかけで、石川支部設立準備会がANAクラウンプラザホテル金沢にて開かれた。参加したのは樽井氏を入れて12名。その後、平成28年4月に咲耶会石川支部設立のための事務局の立ち上げとその準備の話し合いが行われた。

最初に支部設立を希望した吉田孝子(イタリア語1989年卒)を事務局長(仮)として、賛同者が事務局を支え、楠根重和(ドイツ語院1977年卒)金沢大学名誉教授が取り纏め役として、樽井支部連携委員長と緊密に連絡を取る形で動き出す。7月に開催される最後の石川支部設立準備会では言語、世代、男女の割合に配慮しながら役員や大体の陣容を決める。

10月に開催の咲耶会石川支部設立総会・講演会・懇親会で正式に石川支部の組織の全容、会則その他を発表することになる。母校のブランド力を高め、同窓会の相互の連携を深めることに寄与することを喜びとしている。

(仮)支部長 楠根重和(院 D7) (仮)事務局連絡先 吉田孝子(大 IT37)
〒 921-8171 金沢市富樫 1-10-4-601
メールアドレス taka5yomako@gmail.com

福井支部

山下裕己 (大 S23)

大阪外大同窓会咲耶会福井支部総会



平成27年度福井支部総会は8月29日(土)午後5時から「福井セントラルホテル」で開催されました。参加者6人(男性4人、女性2人)と少なめの総会でした

が、1年ぶりに再会を果たし互いの旧交を温めました。

初めにこの1年間の活動報告並びに会計報告があった後、欠席者から届いた通信文(約30通)が紹介されました。引き



続き、森茂前支部長の乾杯の発声で酒食を囲みながら懇談に入りました。参加者は現在の仕事の状況や趣味の話題、家庭でのエピソードなどの近況を語り合い、和やかな2時間を過ごしました。出席者は次のみなさん。森茂(大E4)、水嶋俊光(大F34)、高間一郎(大D→福井大)、中島敏子(大A22)、平井=旧姓松浦=彩子(大 IT58)、山下裕己(大 S23)。

また今回は支部総会の案内状を郵便往復葉書でなく、咲耶会の名簿を管理する(株)サラトの協力で郵便後納制度を利用しました。返信があった分だけ料金が発生するため割安になる、宛名作成の手間が省ける—などの利点があります。一方で受取人不在の場合、再配達の手配や郵便局で受け取るなど面倒もあります。ただし要領が分かればサラト利用・郵便後納の方が便利で、次回からも同方式で行うつもりです。なお今回の案内状送付で引越越し・転勤などの新住所や結婚による改姓など7件が判明しました。

奈良支部

平成28年度奈良支部年次総会報告

～山之内重美さん(大 R19)を迎えて～ 平成28年度奈良支部では、6月4日に年次総会を、最近頃にバラ園で有名な奈良市郊外にある「霊山寺・聚楽殿」で開催しました。

今回の総会には支部会員の嶋田一郎氏(大R1)によるお骨折りを通じて、山之内重美さんを迎えて、特別企画「歌とトークショー」を実現することが出来ました。支部会員・家族の他、京都・大阪・更には東京よりの友人をあわせ、総数45名の参加を得ました。

山之内さんの特別ショーは、その素晴らしい美声に加え、ロシアの「うた＝ピースニャ」の背景となる歴史・文化への深い造詣に参加者全員が魅了され、予定の一時分半はアツと言う間に過ぎ、余韻を残してお開きとなりました。



ところで、奈良支部では、恒例の「第1月例会」を東大寺・華厳寮で午後2時より、継続開催しております。

今後、写経、謡曲初歩などをこの時間に行う計画です。なお、7月より「毎月土曜日」に変更しますが、詳しい日取りは、幹事にお問い合わせ願います。

他に、英語読書会では月に一回、時々のベストセラー(米英)を楽しむこと、これは熱心な女性メンバーに依り続行、また中国語卒業生による勉強会を紹介していますが、これは4～5名の中国語ベテランに依って10年以上継続の本格的勉強会で、他語科のOBも加わって、10名前後の出席で活発です。月に2回です。

奈良支部、役員の5人は84、83、82、78、75歳ですが、夢多く積極的に生きています。若い方々の参加を期待するや切であります。

播但支部

岩田正美(大R28)

姫路城のニューオープンに伴い、多くの外国人が行き来する大手前通り、再開発により見違えるようにおしゃれになった姫路駅周辺。咲耶会播但支部は、姫路を中心に播州、但馬地方にわたる約600名の会員から成っています。

播但支部は、釜谷支部長のリーダーシップの下、50年近くの輝かしい歴史を持っています。毎年開催される支部総会・役員会では30人近い会員が集い、高槻校舎、上八校舎で学んだ時代の懐かしい話や、外大出身らしい世界を舞台にした話題豊富な体験談など、世代間を超えた交流をしています。昨年10月の当総会(会場:東天紅姫路店)では、高階・元学部長をお迎えし、「変わったこと変わらないこと～阪大外国語学部の最新ニュース～」について講演いただきました。統合後、大阪大学で交換留学生が拡充されたこと、総合大学としてのステイタス(特に国からの予算)において、現在では、阪大外国語学部がライバルの東京外大を超えつつある、などの興味深いお話でした。少徳・咲耶会会長からは咲耶会の現状や眞面新キャンパスについてお話いただきました。

高階先生が、アラビア語が専攻とあって、アラビア語出身の方も多く来られ、なかにはイエメンのご主人ともども

夫婦で来られた方もおられます。今回はじめて来られた方も多く、「このような身近な会合があるとは」と感動の声もありました。

最近、若い会員の大阪、東京方面への流出も多いのですが、咲耶会本部とも協力しながら、まずは会員の皆様により的確な情報をお送りできるよう、支部長とも協力して支部が盛り上がるよう工夫していきたいと思います。



丹波市支部

梅垣 誠(大E31)

最近市内のあちこちで熊の目撃情報が相次いでいる丹波市からのご報告です(ついでながら鹿はたくさんいますし、イノシシはもちろん丹波の名物です)。昨年11月20日に総会をフランス料理店で開催いたしました。熊が出るような田舎にフランス料理店があるのかと思われるかもしれませんが…あるのです。

今年のご報告は丹生(旧姓:浅井)裕子さん(大E42)が代表を務める「県立柏原病院の小児科を守る会」。2007年に地域医療の中核を担う県立柏原病院の小児科が存亡の危機にさらされました。当時すでに小児科の先生が減少して2人になっていたところに、一人が県の人事で院長に、もう一人が「これ以上の負担に耐えられない」と退職の意向を示されたのです。

この危機を救ったのが「県立柏原病院の小児科を守る会」。『コンビニ受診をひかえよう』『かかりつけ医を持とう』『お医者さんに感謝の気持ちを伝えよう』というスローガンのもと、小さな子どもを持つ多くのお母さん方が一丸となって市民を巻き込んで活動され、その活動は本やテレビドラマになったりもしました。

それから約10年。昨年、その二人の先生のうちの一人が開業のためにご退職、院長をお務めになったもう一人も今春退職されました。激動の時代が終わったという感じです。こうして小児科が消滅したのではなくお二人共に「我が後は大丈夫」と退職されたのです。いまはもうすっかりと落ち着いた病院となっており、数年後には新病院に生まれ変わります。その立役者が外大卒業生だというのはやっぱり「いいね!」ですね。

香川支部

小野 博(大E5)

平成27年度の香川支部総会は、8月22日(土)午後5時より、栗林公園北門近くの「ルポール讃岐」で行われました。本部から少徳敬雄・咲耶会会長をお迎えするという光栄に恵まれました。支部会員の出席は11名(男子10名、女子1名)。まず写真撮影。次に、先輩物故者の霊に黙祷。

少徳会長から、丁寧な資料を添えて次のような母校の近

況説明があった。(要約)①咲耶会年会費および、会報『咲耶』賛助金納入者数が増えつつある。②2021年4月までに新キャンパスに移転の計画である。新キャンパスは、新駅(建設予定)に近く、他の学部・諸施設等へのアクセスも良い。

次に、支部会員・大西駿二(大E10)について:NHKの「ニュースウォッチ9」のキャスターを担当している河野憲治氏が、高校の同窓会新聞に「私の原点は高校時代の教室」と述べ、大西駿二先生の英語の授業のお陰でNHK入局後も、ワシントン支局長、報道局国際部長の道が開かれたと述べている。またM高校のT校長も、J.F.Kennedyの大統領就任演説を流暢な英語で話されたこと、副教材を使用されても必ずテストをしていたとのこと。大西氏は防衛大学教授を定年退官し、現在悠々自適の日々を過ごされている。ご著書には「英国文豪の思想」、「国際化時代の英語教育」などがある。

最後に、香川県在住の大阪外大・阪大外国語学部卒業生にお知らせいたします。香川支部総会は、毎年、8月の最後から2番目の土曜日におこなっています。前もって小野までご連絡の上、ぜひおいでください。



(後列左より) 三谷(大E9)・森本(大S15)・大鷲(大P15)・廣瀬(大S10)・高井(大E13)・岡田(大R14)・谷(大IP9)・小野(大E5)・小林(大C8)・少徳会長・大西(R25)・黒田(大E14)

徳島支部

小田敏治(大IN21)

平成27年11月8日(日)正午よりホテルグランドパレス徳島にて徳島支部会を開催いたしました。

今回は久しぶりの方(黒下さん)や滋賀に転勤されましたが出張を兼ねてご出席の方(山田さん)と次の徳島市長選挙にチャレンジされる小松さん等6名の方に参加いただきました。本部より副会長の大水さんにご参加いただき大学並びに学部の近況並びに移転に關した話をさせていただきました。



左側より敬称略)小田、平井、黒下、田尻、小松、山田／粹内、大水

咲耶会支部会は例年11月第一日曜日を開催予定としております(H28年は11月6日予定)。また大阪大学全学部同窓会徳島支部総会も平成27年10月4日に開催されましたが初参加者を含め3名の参加をいただきました。女性参加者の少ない中でのご参加いただいた美馬さん(大PH56)、英語と韓国語にて自己紹介をされた正見さん(大K34)と楽しく親交を温めました。こちらも県内の交友を広めるいい機会ですから是非ご参加ください。

咲耶会並びに大阪大学支部総会のご案内を別途差し上げますので万障お繰り合わせのうえご出席くださいますようお願いいたします。

宮崎支部

近藤哲二(II S10)

宮崎支部は毎年、同窓会を本部の総会の前後に開催しています。本年(平成28年)は、7月1日に幹事会を開き、今年と同窓会開催の時期などを協議し、日程を決めました。

2年前より、同窓会の案内状の送付に「名簿会社 サラト」を利用しています。このことは私たち役員にとっても大変助かっています。具体的には、案内状の文面をサラトの担当者へ送付し、あとは作成された案内状の原稿内容のチェックをすれば、送付された会員からの返信が届きます。また、名簿の管理も大変楽になりました。

昨年は、他の行事と重なり欠席の返信もありました。また、両親の介護などで参加の難しい方もおられました。今年は総会の時期が早まったので、昨年以上の参加があることを期待しているところです。

この会の特徴は、老若男女の幅広い世代が集うこと。2時間あまりですが、それぞれが近況を語り、また、それを聞くことにより、みんな元気がいいな。さあ、私も明日から頑張ろう、という気持ちを起こさせてくれるところにあるのではないかと思います。

今年と同窓会は、初の試みですが、隣県の熊本県と大分県と鹿児島県の会員の方にも会報『咲耶』を通して声をかける企画をしています。一人でも多くの方が参加されるよう、しっかり取り組んでまいります。



平成27年11月21日の同窓会出席者(12名)です。参加者名は以下のとおりです。黒木國益(大IP14)・弓場照美(大F19)・松井宏益(大S24)・菅原敬生(大IN27)・米田健一(II S22)・前田陽一郎(中南大PB55)・竹前望美(大IN42)・有澤恭子(中南米夜S29)・宮田泰雄(大P13)・木崎宣博(大PB42)・木崎さんのお嬢さん・近藤哲二(II S10)

沖縄支部

尾形希和子 (大 IT30)

支部同窓会総会と事務局交替のお知らせ

沖縄支部では同窓会総会をオリンピック・イヤーに開催することになっております。前回はロンドン・オリンピックの2012年11月16日に開催され、若手を含む8名の参加がありました。今年は11月5日(土)に総会と懇親会を予定しております。是非多くの方々にご参加いただきたく、今からカレンダーに印をつけ、その日をあけておいていただければと思います。沖縄支部では参加者の高齢化が進んでおり、是非とも若い皆様のご参加をお待ちしております。場所や時間などの詳細が決まりましたら皆様に改めてお知らせするつもりです。

支部事務局の方で把握している同窓生の連絡先も更新したく、沖縄在住の同窓生の情報をお持ちの方、お知らせいただけますようお願いいたします。

事務局が森康夫氏より尾形希和子に替わりました。連絡は次のメールアドレスをお願いいたします。

k-ogata@okigei.ac.jp／ tel: 098-882-5095

(不在の際は留守電になります)。

マニラ支部

吉永伸子

(言語夜 38／国際文化学科 言語情報専攻 ロシア語 2007年卒)

「Mabuhay! (乾杯!)」

咲耶会マニラ支部は、現役大学生を含む、卒業年も職業、専攻語もフィリピン歴もバラバラの10～20人が集まる。まずは、この「乾杯!」から始まり、お互いの近況を話したり、大学時代の話に花を咲かせたりと毎回大変な盛り上がりを見せる。

私は約1年前にフィリピンに『現地採用』として5年間東京で勤めた会社を去り、転職でフィリピンにやってきた。BGCや中心街はめまぐるしい建設ラッシュ、最新トレンドなレストランが軒を連ね高級コンドがひしめきあい若者はスタバでお茶をする風景は、GDP6-7%のフィリピンの「今」を象徴している。



そんなエリアから100メートルも離れていないところにスラム街が隣接する姿はまさに貧困と富がごっちゃになっているハロハロなフィリピンならではの。この国で圧倒されながら働く私にとって、咲耶会は最新情報を交換でき懐か

しい大学時代の思い出を共有できる、私の貴重な情報源であり、心のエネルギーチャージの場所である。

ドゥテルテ新大統領を迎え、これからどのように経済成長をみせるか楽しみなフィリピンで咲耶会マニラ支部メンバーが増えるのを願いつつ、益々の咲耶会の発展を祈って、活動報告とさせていただきます。

UC生歓迎交流会 - 阪大北米の会

久保井亮一

北米同窓会日本支部担当理事

恒例ともなっている北米同窓会日本支部主催の「大阪北米の会」は、今回は米国独立記念日240年の7月4日の佳節に、UC各校から本学への夏季研修生70名余の歓迎の意味も込めて、豊中キャンパス【宙】で、20名余のボランティア学生スタッフ主導で賑やかに開催されました。共催のUC/UCEAP大阪オフィスや咲耶会様の広報協力もあって、UC・OUのみならず一般の留学生・北米同窓生・教職員らも含めて100名を超える参加者で賑わいました。



UC・OUを代表して、チャンドラー教授・竹村教授のユーモアのある挨拶、UC大阪オフィス主催“Case Based Critical Thinking”の名物特別講義を担当されているイノUCSF名誉教授の素晴らしい乾杯挨拶、ワールドカフェスタイルでの相互交流・連絡先交換、学生ダンスサークルによるベリーダンス演技など盛りだくさんの内容でしたが、外国語学部3年生の男女ペアが見事な英語で司会をして盛り上げてくれ、また学生の中にはプロ並みの音響スタッフもいて、多くの文系・理系学部の学生スタッフたちと共に、会場設営・受付準備から撤収まで含め最後まで大活躍で、無事盛会裏に終えることができました。

記念撮影、近藤教授による中締めの挨拶の後、夏季日本語プログラム等に参加し箕面キャンパスで学ぶUC各校からの学生たちも、箕面キャンパスに向かう最終バスの時間ぎりぎりまで、交流イベントを楽しみ、名残を惜しんで帰っていきました。

9月10日北米シリコンバレーで開催されます、北米同窓会10周年記念総会・講演会でも、(天皇陛下・オバマ大統領の通訳も努められた)咲耶会のランプキン朋子様に講演いただけるとのことで、西尾総長・星野国際担当副学長はじめ、実行委員一同も大変喜んでおります。

香港支部

小林敏子 (東アジア大 C57)

恒例になりつつある咲耶会香港支部の慰安旅行、今年もメーデーの連休を使ってシンガポールに行ってまいりました。

今回の旅行は、ユーラシア最南端のタンジュンピアイに行く!というテーマで行われました。安く贅沢に!そして現地の咲耶会との交流も持てた有意義なものになりました。

4月30日、香港からシンガポールまでは約4時間、時間を有効的に使いたい我がメンバーは深夜便で夜中1時に出発し、シンガポールに到着したのは5時過ぎ。まだ目も覚めない時間ですが、その疲れを吹っ飛ばすように用意された出迎えの車両はなんとストレッチリムジン!!みんなでギャーギャー騒ぎながらホテルまで行くのかと思いきや、横になって寝ています。スペースが広いのでみんな横になれますw

ホテルは世界の名門・シャングリラ。時間がちょっと早かったので、チェックインができる8時までは朝食を食べることに。レストランに着くや否や、さっきの眠気はどこへ行ったのか、みんな料理を取りに四方八方へ、改めて外大生の行動力に驚かされました(笑)

チェックインしたのち、深夜便の疲れを癒すべくホテル内のスパへ。心地よく一眠り。夕食はシンガポール名物のチリクラブを堪能! 5月1日は車をチャーターしてマレーシアにあるユーラシア最南端の地へ!シンガポールも連休ということで、渋滞とイミグレに時間がかかってやっと到着かと思いきやモニュメントは改装中…見えるのは無残な鉄の塊だけ…でも、この地に來たという証明書はいただけたのでよしとする(笑)

シンガポールに戻ってからはイルカと泳ぐ隊と散策隊と分かれてそれぞれ楽しみ、夜は咲耶会シンガポール支部との会食。地元味の濃いインド料理でした。その後は、フラートンホテルのバーにて歓談。やはり外大生は話題が尽きない。また新たに仲間の輪が広がりました。



5月2日、昼間のフライトで、それまでにお土産を買う時間がなかったため早めに空港に行ってお土産タイム。帰りはみんな疲れて機内で爆睡w

やっぱり外大はいい、と思った旅でした。

2016年10月以降、2017年9月までの、支部活動の予定: また旅行に行く予定ですが、咲耶会支部のあるところを目的地とし、全世界の支部交流制覇を目指す(笑)

バンコク支部

阪本法子 (開発・環境大 47/タイ語)

咲耶会バンコク支部では、2013年より会長を務めていただいた福田和弘氏が日本に帰国され、川村芳範氏(大TV24)が新会長に就任されました。川村新会長は、大阪外国語大学タイ語学科卒業で、タイ駐在期間も長く、現在は、アース製薬株式会社の常務取締役、及びArs Chemical (Thailand) Co., Ltd.の社長として、日本とタイを行き来しながら活躍になっています。以下に、川村新会長からの挨拶文を掲載させていただきます。

***** 私、川村は1980年から1997年までBKKに駐在しておりました。現在は、日本とタイを毎月行き来しております。

駐在時代1980年には、大阪外大のOBの同窓会を活性化させたく、当時の大先輩と話をしまして、走り回ったのを覚えています。また、東京外大との懸け橋ともなり、当時の東京外大の大先輩もよく存じております。

大阪外大の幹事としてずっとやってきました私が、当地の咲耶会バンコク支部の会長としてご用命いただいたのは、感慨深いものがあります。やはり、たくさんの先輩、後輩がタイで仕事をされているわけですから、出来る限り多くの同窓生に集まっていただき、仲よく仕事、趣味の話が出来るような会にしたいと思っています。

皆様方のご指導、ご鞭撻を宜しく願います。

***** さらに、今年は工藤博氏(Techno Resign Co., Ltd.)と私、阪本(Baker & McKenzie)が副会長として、咲耶会バンコク支部の皆様をサポートさせていただくことになりました。

現在、咲耶会バンコク支部には、70名ほどの会員が名前を連ねています。イスパニア語、イタリア語、英語、タイ語、中国語、フランス語、ペルシア語などさまざまな語科出身の方が参加され、楽しい時間をすごしています。また、最近では、当地の大学への留学生や、日本語教師としてボランティア活動をしている在学生も参加し、世代や専門言語を超えた交流が続いています。

東京外大とのクリスマスパーティーやゴルフコンペ外大戦、関西七大学戦など定例活動に加え、会員同士の交流を深めるためのお食事会もほぼ数カ月に1回開催しております。タイらしく、どなたでも気軽に楽しんでいただける雰囲気的活動をしておりますので、ご興味のある方はosakagaidaibkk@yahoo.co.jp にご連絡ください。

玉村文郎 (旧教員)	
おかげさまで元気にしています。10月末からしばらく大連外国語大学に招かれて、シンポの基調講演などを担当します。諸兄姉のご健康を念じあげます。	
三藤 勝 (C12)	
100才になり、歩行も困難で外出も容易ではありません。	
杉谷好一 (C19)	
同学の8割方が世を去り淋しくなりました。手持ちの旅券も2年弱で期限を迎えますが、「更新」するのか将又出来るのか果たして如何にー。咲耶 26号拝読、深致重謝。	
近藤 魁 (C21)	
2015年8月29日上六新歌舞伎座を杖をつきながら訪ねる。10年ぶりになろうか。相撲部1時間入部、あとは映研部で大阪新歌舞伎座は当時、小映画館があった。映研では恐い先輩に強制的に古い仏、独、邦画を見る事をすすめられた。食堂 2階広間である。	
福井一夫 (C21)	
現在満91才10カ月存命中です。謝々。沖のカモメと外語の生徒は波のいづこで果てるやらのキンキラ節に歌われた烈士の如き愛の言葉で世界平和に貢献出来る人材の入学を切望致します。	
向井義明 (C21)	
奈良春日山の奥山暮らし身につき元気でいます。	
塩出亮治 (M21)	
年には勝てず足腰が弱り遠出ができなくなりました。	
寺田 傳 (S21)	
東京オリンピックを、又パラリンピックを控えて我々のcommunicationの能力を、もっと向上させねばならない。	
若住 昇 (C22)	
市電走る上本町学舎なつかしい者多いと思う。正門わきに本屋、産婦人科医あり、南口に運動場あり部活室をおく。花園ラグビー場横にグラウンドあり、一度あんな場所で同窓会!?ムリかな…。	
秋山吉之助 (M22)	
もう3ヶ月で満92才となる。	
藤井 浩 (IP22)	
孫インドへ出張しました。小生未だに行っていないのにね、91才です。"夫婦して散らず揺れる枯すすき"	
鈴置信有 (E22)	
高齢のため歩行困難、介護の世話になっています。	
寺澤健治 (D23)	
戦後、高槻の学舎で和田教授(フランス語)指揮の下でコーラスを練習致しました。次男は外務省済洲総領事館の総領事を勤めています。	
木村明生 (R23)	
90歳を迎えましたが、元気で一人暮らしをこなしています。	
井本利一 (A24)	
40年間兵庫県の教員を続けられたことに感謝しています。	
今井精紀 (A25)	
年相応の半健康状態を保っております。	
今井辰行 (A25)	
東京勤務を終えて京都へ戻って10年。漸く古都の風物にじっくり親しめるようになってきました。お陰様で頭は兎に角足腰の方は今の処丈夫です。	
岸田正昭 (E26)	
シャンソンを歌っていて遠くはパリ・リッツホテル、近くは西宮芸術文化センターなどでも歌いました。	

小原偕滋(A27)

現在85才。孫の一人が阪大(工)大学院2回生で来春卒業予定。世代差をつくづく感じています。

宮本一心(大 C1)

家の中に居て読書三昧が生活の大部分です(すでに87才の馬齢ですから)。

井尻益次郎(大 E1)

週2回英語(学校)の個人指導をしています、元気でやっています。

片山 黎(大 E1)

同期の集いも打ち上げ2年目の今は咲耶誌を楽しむに頼もしく拝読。

佐々木俊一(大 E1)

元氣です。

武田暢樹(大 E1)

体調不良のため、週3回を高齢者介護施設の利用、月2回程度病院通いに当て、毎土曜日の体調やや良好の場合は茨木図書館の利用に当てています。

松永和泰(大 S2)

最近中南米関係の友人との交流が増え喜んでいます。年なりに元気でです。

戸川 啓(大 R2)

昨年8月に大腿骨骨折のため手術・リハビリを含め長期入院していた事をご報告します。

原 勇(大 F2)

地域の老人クラブ会長(在職10年)の雑事に結構忙しい日々ですが、"健康長寿"と"ニュース英語"だけには、留意して過ごしております。

下神洋造(大 C3)

我々大C3の大阪組は田中長一郎君のお世話で毎年春秋の二回集って旧交を温め合っております。

磯田良一(大 IN3)

現役として毎日元気に働いております。又、週4日位、近くのプールで水泳を楽しんで居ります。

前川清一郎(大 TV3)

年2回タイ語科の友人に会うことを続けています。お世話下さる方々のご健康をお祈りします。ますますの会の発展を願っています。

玉利 虹(大 S3)

毎年『咲耶』を読むのを楽しみにしています。26号では留学体験記&キャリアレポートに興味をそそられました。平成27年入学者数でデンマーク語が全員女性には驚きました。

園田成起(大 C4)

80才を過ぎましたが、東京キンキラゴルフ会には最高齢で出場続けています。同期の諸兄とはよく交信しています。

林 治郎(大 C4)

80才を越えましたが、何とか元気でおります。感謝

奥出良吉(大 E4)

元氣です。

金澤輝彦(大 E4)

なんとか元気に過しています。母校の発展を祈ります。

神谷忠雄(大 E4)

若い会員が居ないのが淋しいです！アマゾン社から次々面白い英書を推薦してくれるので、毎日楽しんでいます。

堀江幸夫(大 E4)

今年は鎌倉・江の島、金沢と遠出のサイクリングを試みています。

竹中清蔵(大 F4)

「大阪大学 NEWS LETTER」を送付頂いているので、後輩達が外国語関連分野で優位性を発揮されているようですが、適塾精神に燃え、総合大学で多くを学び、日本一の外交官になってやるという「変人」が現れる気配(?)はなさそうですね。

並川正江(大 F4)

御存知と思いますが、奈良は神谷忠雄さんが頑張って咲耶会を盛り立てて下さって居ります。年1回の総会以外に毎月1回の例会もずっとつづいて居ります。場所はアレコレと移りましたが只今は東大寺さんの一隅をお借りして下さっています。

富永邦夫(大 C5)

鉄を熱いうちに打てなかったのだなと思い出したのは84才も間近になった最近です。職場の後任がきまるまで責任を果たした分だけ中国語が身につかず先生方にご迷惑をかけてしまいました。60才になっても生活は安定せず、右独眼流自転車リュックダンボール積み完全歩合制セールスを書籍行脚とうそぶいて、東大駒場近くに借家してまで、韓国・中国書を販売して廻りました。その頃のお 2人の恩師のさりげないやささが蘇ってきます。苦ければ苦いほど苦ければ苦しいほど甘味に熟成した有難いえも言われぬ喜びが胸にこみあげてきます。

野田健史(大 F5)

急性心筋梗塞の発作を起して3年半、なかなか一人暮らしに馴れません。自転車での散歩兼、食品の仕入と読書の毎日です(81才)。

杉谷保憲(大 R5)

リハビリにあげくれ、友人間の連絡も途絶えています。

中島章夫(大 C6)

外大卒の後、さらに東大を卒して、文部省勤めが長かったため、主たる活動範囲が関東となりました。

野口亮造(大 C6)

陳先生の記事、面白く読んでいます。

保田武司(大 D6)

傘寿も過ぎ一日一生の想いで余生を楽しんでいます。

安井祥祐(大 R6)

皆様お元気で。

北脇邦彦(大 C7)

毎回、短信の中のC7を探します。見つからなくても、C7前後の中国語卒や他語卒の人で私の知っている人が見つかるとなつかしくなります。とても楽しみです。

前田正一(大 IN7)

相変わらず町内会、自治会の世話役や横浜でのボラ活動など元気にしています。

岸田 洋(大 E7)

体力の方は衰えてきますが、永年の趣味である「将棋」に時間を使っています。

芳賀直美(大 E7)

日本人男性の平均寿命を超えたので生きる責任は果たしました。これからは気ままに過します。

酒井 斌(大 F7)

F7と称して卒業以来毎年ほぼ3～4回は集まっています。卒業してから56年、メンバーの平均年令は80才、最近は出席者も減って若干淋しくはなりましたが、相変わらず古い高槻学舎時代の話題に入り込んでいます。

友金 守(大 IP8)

咲耶会の更なる発展を祈念申し上げます。東京外語会との共盛発展をいつも考えています。海外支部との関係も！

菊井忠雄(大 E8)

来年、傘寿を迎えます。毎日散歩三昧で過ごしています。毎週(土)の午後A.C.Cで英文購読の講座を受けています。

井田憲之(大 F8)

フランス語科卒業後、シンガポール、ナイジェリア、ロンドンと海外に長く駐在し、今は東京でおちついた生活です。

平岡 豊(大 C9)

傘寿となりましたが、はるかな昔を思い外大時代の思い出が懐かしくて楽しいものばかりになりつつあります。一応は世代的には恵まれていたのだと感じています。

谷 昌宏(大 IP9)

編集後記の欄が小さくなって残念です。広告協賛はありがたいことではあるが、編集者の声をもっと聞かせてほしい。以前のスペースを確保できないものか頑張ってください。

鈴木庄太郎(大 D9)

スポーツクラブのゴルフ部会長、キンキラ会東京ゴルフ会長 etc. 色々と役をこなして元気に過しています。

八木清夫(大 R9)

元気でやってます。

八木忠司(大 E10)

都内の合唱団に所属(13年間)パッハの「ロ短調ミサ」「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」などを歌ってきました。我孫子市の短歌会で詠草を楽しんでいます(3年半)。

西林武仁(大 F10)

老兵は死なず健康で消え去り、次世代に期待しましょう。

山口勝三(大 S10)

NPO法人キャリアデザイン研究所理事、企業顧問、エグゼクティブコーチとして後進の育成にあたっています。

小原一浩(大 IN11)

市議会議員(大阪狭山市)二期目。一期目より少し忙しくなりました。後期高齢者の市議ですが、生涯現役の心意気！

堀田 実(大 IN11)

体力も落ちてきましたが、屋外スポーツを楽しんでいます。

岩崎彦彦(大 IP11)

母校の繁栄をお祈りします。

小貫千鶴子(大 M11)

高校の英語教師を39年間しました。今はヴァイオリン・俳句・ダンス等楽しく暮らしています。今年、認定心理カウンセラーの資格をとりました。

西村泰作(大 E11)

マスターズ水泳で今年はメダル9個取れました。まだ頑張るつもり。南紀にいらっしゃる節は御一報下さい。

千田 享(大 F11)

対外協力の NGO活動を続けています。国連 OBとして、日本人幹部候補養成のための制度設立を政府に提案しています。外大、阪大卒業生の皆さんの挑戦を期待します。

庵原専三(大 S11)

大S11同窓会「SS38会」の平成27年例会は、11月15～16日「伊豆・駿河フェリーの旅」で泊まりは西伊豆・土肥でした。参加者は19名となり、真に盛会で楽しいことでした。

新出武雄(大 S11)

横浜入国管理局のご依頼で不法滞在者のスペイン語通訳をやっています(年に3～4回程度)。

藤田博之(大 S11)

記憶力の衰えを感じながらも聖徳大学(松戸市)の公開講座に通って、元気に日々過しています。

田中邑美(大 E12)

在学4年間の想い出は人生での宝物です。咲耶会の長い存続を、そして、役員の皆様のご努力(ご尽力)を感謝申し上げます。

野口一治(大 F12)

幸いにも元気でおります。

川原一行(大 C13)

大阪外大の上八がやはりなつかしい。今は、国際交流センターとなっていてたまに学会の関係で行く機会ある。近くの公園は昔のオモカゲを残しているが、上六～上八の様子はすっかり変っている。1961年入学だから、54年も昔のことだ。懇親会で色んな方々に会うのが楽しみです。

田川成士(大 E13)

孫と一緒に過ごすのが一番の楽しみとなるような年になりました。

辻 斌(大 E13)

同期の皆さん、サッカー部の皆さん、参加お待ちしております。私は何もかも全て現役で頑張ってます。

舟橋定保(大 C14)

同学3人と一緒に月1回「聊斎志異」を読んでいます。

井上久生(大 IN14)

今年、公務を全て離れ、正に悠々自適の生活を満喫しています。

井上哲朗(大 B14)

本年(平成27年4月)より特定社労士として井上労務管理コンサルティングを開業しました。宜しくお願い致します。

黒田好子(大 E14)

香川支部同窓会を毎夏、高松で楽しくなごやかにやっております。皆様どうぞお越し下さい。

松永秀夫(大 D14)

相変わらず、畑仕事、庭木・果樹の世話、薪ストーブ用の薪作りetc. 精を出しているが、さすが最近は年を感じる。プール通い、たまのゴルフで体力維持に努め、海外旅行にも備えています。

久保義昭(大 S14)

同期が今年 2人亡くなり、残念です。

佐々木康治(大 E15)

2015年は海外放浪227日、累計も3000日を越え、彷徨するのが病みつきになっています。

橘 勲(大 M16)

平成25年7月肺ガンで手術をしその年の10月仕事に復帰しました。今は異常もなく、元気で人生を過せて喜びを実感し、毎日を謳歌しています。

吉川昌宏(大 D16)

阪大の隣に住んでいますので、キャンパスでの総会開催は大歓迎です。

戸倉光明(大 IP17)

大阪上八学舎での学生でした。卒業後も在学していました。合気道部のOB会長として、現役生と交流をさせてもらっています。外大から阪大外語に移った後の学生は、おしゃれの点で少々ダサくなったと感じています。外大生のユニークなセンスがなつかしい！？です。

井上(阪本) 史(大 D17)

良いお仲間を得てドイツ語の勉強を細々ながら続けています。外大時代の同級生が皆さん長年の勤務を終えて、集まって楽しい時間を過ごせるようになったのが嬉しいことです。

中川裕二(大 S17)

阪大外国語学部になっても女性の方が多いのですね。比率は50%位が良いと思います。男性にも魅力のある学部にする必要があると思います。我々の時代は10～15:1男女の比率でしたが。

岩永靖正(大 E18)

昨年、初めて東京で開催された咲耶会の総会・懇親会に参加しました。阪外大が阪大と合併した近年の状況等、遠い学生時代の遠い思い出が蘇って来ました。関係者の皆さん、ご苦勞様です。**神崎康彦**(大 F19)

年令相応に生きています。

諏訪忠泰(大 S19)

介護、マンション管理組合の活動に時々ゴルフを楽しみ、結構忙しい毎日です。

伊東正晴(大 IT20)

日々是好日です。

畑山康幸(大 K21)

退職してから朝鮮文化の探究を目標にかかげ日々努力しています。10月には辛夕汀文学館(韓国)で日本の中学校教科書に掲載された辛夕汀の詩『登高』を主題に朝鮮語で講演をする予定です。『登高』は私を朝鮮語に導いた詩です。

山口仁朗(大 IN21)

43年の会社人生を終え、年金生活です。ボランティア等しています。

神田 長(大 E21)

今月、10月末で会社員を卒業します。名古屋の「東海テレビ放送」に40年以上勤務、来月からはフリー、再度、語学の勉強をしたいと今から楽しみです。ちなみに"ノルウェー語"を学びたいと思っています。

杉本重雄(大 S21)

京都「先斗町」地名研究の決定版として、『先斗町地名考 ポントの謎を解く』を上梓しました。

井上清昭(大 M22)

経営する貿易会社も来年で15年目に入ります。米国、EU、中東から食品・化粧品を輸入しています。世界経済の荒波に翻弄される毎日ですが、難破船とならず何とか航海できているのは奇跡です。近々、イランとモンゴルとの取引も始まります。

白根晶吉(大 A22)

現在、行政書士として海外の方々とのコンタクトを保っております。

寺野聖一(大 E22)

本年 9月末で完全リタイヤとなりました。

荊木顕治(大 TV23)

2月にトヨタを退職し沖縄那覇へ移住します。沖縄へ来られる時は、お立ち寄り下さい。

樋口正次(大 E23)

大阪市天王寺区の興国高校で進学特別顧問をしています。

石川知草(大 S23)

偉大な先輩・後輩のご活躍を知るにつけ、誇りに思うと同時に、一介の主婦に甘んじ非生産的な我が身の体たらく恥じ入ること然り。母校のますますのご発展をお祈りいたします。

田島和也(大 S23)

直近の機関紙に寄稿致しました。サラマンカ大学内にある日本・スペイン文化センターにて、10カ月勤務しました。標準語が話されるサラマンカで貴重な体験でした。

谷 晃(大 D24)

登山とテニス、そして合唱で楽しんでいます。合唱は「浜松フロイデ合唱団」にて「第九」をドイツ語で12月24日に浜松市アクト大ホールにて唄います。

小森絹子(大 S25)

スペイン語大辞典記念出版の監修の先生方のお名前を見て、在学中に授業を受けることができたこと、誇らしく存じました。

堀内秀規(大 IP26)

2015年5月16日に第1回大阪大学外国語学部・大阪外大バスケットボール部OBOG会を開催し、約150名の参加があり、盛況でした。1960年代卒から現役部員までつながることができた。来年は東京で開催予定。

秦野一宏(大 R26)

昨年、『宮沢賢治とは何かー子ども・無意識・再生』(朝文社)を出版。本年度、宮沢賢治賞奨励賞を受賞しました。

林 尚之(大 DM26)
文化庁芸術祭(演劇)の選考委員となり、10月11月は劇場通いの毎日です。

味岡保雄(大 E27)
現在、神戸芸術工科大学で英語を教えています。

大橋章子(大 E27)
姉の孫(7才、5才、0才)の成長を楽しみにしています。

河井洋子(大 R27)
ロシア語を使って、どうしてももうひと働きたいと考えています。

宮森(谷口) 和美(大 TV28)
みんなに会いたいです、少し身体わるくて…

片山信英(大 IN28)
2015年10月に12日間バンドンとタンゲランでコミュニティ学習センターの利用者やスタッフを対象にアンケートとインタビュー調査をしました。現在、働きながら神戸大学国際文化学研究科に在学中です。

中南文生(大 IP28)
2017年1月末定年です。再雇用で65才まで働くつもりですが2010年からはじめたウォーキングで2千万歩達成したかと思うと捻挫になり、全治 1 カ月。会社までの往復が大変です。

横山博史(大 A28)
単身赴任先の東京と自宅の池田市を週末に往復しています。会社ではセミナー講師として忙しい毎日です。

安間一雄(大 E28)
在学中に薫陶を受けた崎山理先生の言語学の授業を目指して、獨協大学にて次世代の学生のために刺激的な教育に努めています。今般学外研修で阪大にお世話になります。

平山正子(大 E28)
いつもなつかしく拝見しています。平成27年5月16日に外大バスケ部OBOG会を盛大に開き、120人余りの方々と再会し楽しい時を過ごしました。来年(平成28年)は東京開催の予定で今から楽しみです。

上杉和哉(大 TV30)
ANA羽田空港で勤務しています。

奈良岡(松田) 明子(大 DM30)
間瀬先生、菅原先生、お元気でなにより！同期の若いこと！

日高宏子(大 C32)
毎回送付して頂きます、"咲耶会"会報を楽しみに拝読させて頂いております。まだ"咲耶会"関係行事に参加させて頂く機会を得ておりませんが、ゆっくり参加させて頂ける日を楽しみにしています。

小笠原純二(大 D32)
ドイツへ赴任中です。

蓬萊 淳(大 S32)
卒業以来友とは市内で会っても大学へは一度も行っておらず、SNS等ですさまじく変貌を遂げた写真には驚いています。

牧本成俊(大 S32)
次男が関西大学外国語学部2年でアメリカ留学中です。

松野世央子(大 DM32)
10月17日のデンマーク語科設立50周年記念大会に出席しました。30年以上経ての特に客員教授の方々と再会は感激ひとしおでした。咲耶会からの協力にも感謝いたします。

岡 伸彦(大 IP34)
今春、息子が東京大学理科一類に合格した。受験直前には、小生が英文法の疑問点を解決してやった。外大の英語力は、東大を越えているので、皆さん大いに自信をもとう！?

島田郁子(大 A35)
お世話になった恩師が引退されても自分の中には血気盛んな先生方のお姿しか浮かばない…こうやって自分も年を重ねていくのでしょうか。お元気で！

高木秀樹(大 C36)
残念ながら何年も大阪を訪れる機会に恵まれませんが。真面の紅葉の天ぷらとお猿は健在でっしゃろか!?

篠崎裕二(大 IN37)
外大は無くなっても、卒業生の活躍とその足跡は輝き続けています。

原 誠司(大 R40)
モスクワ大学語学留学とモスクワ勤務で通算4年間の現地滞在を終え、東京本社で国際報道デスクをしています。機会があれば、在東京の皆様と交流させていただければと思っております。

眞下英彦(大 M41)
地域活動として、防災に力を注いでいます。資格もいくつか取得しました。もし防災で相談等ありましたら呼んでください。遠隔地でなければお伺いします。

森 博美(大 A43)
田舎に暮らしながら、世界とつながる会社で働き、アメリカ、中国、台湾、香港、デンマーク、サウジアラビアなど各地からのお客様を迎え、国際的にロボットを売り込む仕事をしています。外大で学んだ語学を生かせる日が訪れるとは、不思議な縁です。

岡野涼子(大**東アジア大 C47**)
最近は後輩の活躍を目にすることも多くなり励まされるこの頃です。

瀧嶋(岩沢) 純枝(ロシア・東欧大 R48)
卒業して15年たった今年、初めて北海道支部の同窓会に出席しました。今後も外大の事を忘れないよう、関心をもっていきたいと思います。

阿達登貴子(中・北欧大 SD48)
デンマーク語科50周年おめでとうございます!!私事としましては、2週間後に第2子の出産を控えています(H27.10月現在)。

吉田麻衣子(中・北欧大 DM49)
元気で働いています。

北川美玲(大**東アジア大 C51**)
世界平和の潮流とグローバル化は遅々としていますが、久遠に変わらずです。貴会の益々の発展を祈念します。

泉谷晴香(大**東アジア大 C52**)
箕面間谷のキャンパス移転のニュースをきき、少しさみしい思いがしています。

大門 碧(大**アフリカ大 SH53**)
学部で"アフリカ"と出会い、そのままはなれることなく今に至ります。外大時代の学びがあったから、今もなんとか生きていられるのだと思います。

高橋 明(大 R53)
来年より看護師として病院勤務になります。国際看護に携われるよう頑張っていきます。

川口瑛司(大 SH55)
現在、インド生活 4年経てのドバイ赴任中です。ドバイを拠点にアフリカに出張します。スワヒリ語が役に立ちそうです(代筆母より)。

山瀬晴弘(大 SH56)
外国語学部のキャンパスがまた移転するようだが、どうせ移転するなら大阪市内に移転した方がよかったんじゃないのか??新箕面の近くも、かなり大阪の外のほうになってしまう気がしてならない。

富永 陽(南欧大 S56)
産業翻訳の業界に身を置いています、中南米や東南アジア、南アジア、中東、アフリカの言語の需要が高まってきています。一方で機械翻訳やアプリの台頭も目を見はるものがあります。難易度の高い案件はまだまだ「人」の力が必要です。若い学生さんにもこの業界に来てほしいと思うこのごろです。

佐武節寛(短 S2)
2015年3月マチュピチュ遺跡へ行行って来ました。卒業後50余年経過しており言葉に自信がなかったのでNHKの「まいにちスペイン語」の講座で学習してから行きました。

甚野松次郎(短 E3)
高齢の為、体調思わしくなく悩んでいます。

富谷美香(南欧夜 S29)
一人息子が幼稚園の年中になりました。

堀越(藤原) 綾子(言語夜 38)
子供が産まれた為、保険会社を退職し、現在は専業主婦です。

堤 真佐美(中・北欧夜 E39)
リトアニア語の冬期講習を受けて以来の憧れの地、バルト三国旅行に行きます。あの頃とは通貨も変わり、時代の流れを感じます。

大北義郎(II R4)
大阪市の高校教員を定年退職して10年を経ました。曲折あって専門は工業系です。大阪万博の頃、日ソ協会学生班長だった私はバスでソ連館に通いました。外大に係わる唯一の思い出です。

笠鬼徹郎(II E9)
大阪府庁定年退職後の嘱託員生活も5年の65歳。何故かこの頃毎日、「日本の事象 英文説明300選」を毎日 1 選暗唱しています。

西羅こづえ(II E12)
在宅ワーク看病中です。趣味の創作活動に励んでいます。さをり織りの勉強を終えて詩歌創作中です。世界平和と自由を希望します。同窓生・師事いたしました先生方の御健康と御多幸をいのりペンをおきます。

大島幹雄(II F14)
現在、阪大アメフト部OB会の役員をしています。豊中・吹田には行きますが、箕面にはあまり行かないです。箕面がなくなるのはさみしいです。

西尾圭司(II E17)
いつもありがとうございます。元気でやっています。

近藤孝一(II S17)
箕面学舎がなくなるのはつらいです。

吉田英雄(II C19)
現在、67才ですが昨年8月「秋田大学大学院国際資源開発コース(1年制)」を半年間で単位を取得し、来年3月に修了証をもらいに秋田大へ行ってきます。

荒川貴佳子(II S19)
相変わらず仕事と家事に追われています。

杉山寿弥(II E23)
外大生であったことを誇りに思っており、これからも多文化とふれあっていこうと思います。

森田文枝(II S23)
支倉常長生誕祭へ参加しました。先人の偉業に、今、これからの睦みについて考えました。西和大辞典のご案内もありありがとうございました。

吉永 尚(院 J26)
現在、大学教員をしながら将来の為に楽しそうな趣味をさがしています。同窓会にも行きたいと思っています。

物故者

平成27年8月から平成28年6月までに連絡いただき、確認がとれた方々のお名前を掲載いたしました。慎んでご冥福をお祈りいたします。

語 科	氏 名	語 科	氏 名	語 科	氏 名	語 科	氏 名
旧教員	服部正一	IP23	大江(児玉) 哲	大E7	河井 宏	大S4	高橋陽一
C18	三宅高志	IP25	沢西 修	大E9	宇田定三	大S4	田阪保男
C19	中島武男	IP26	山本輝世	大E10	大森幸三	大S4	服部英樹
C19	吉田幸夫	大IP1	金森 博	大E11	東 正弘	大S5	小松千加弘(陽之助)
C21	田宮秀雄	大IP3	松永正三	大E11	細野耕介	大S6	畑部和男
C24	川村昭二	大IP5	橘 一志	大E12	佐藤正明	大S7	八田節也
C24	畠 良左久	大IP9	村中良朗	大E16	大志茂和敏	大S10	大嶽勝則
C24	山本順造	大IP19	辻 哲男	大E22	水川弘之	大S12	松島幸弘
大C1	伊藤 務	大IP23	下村(久保田) 和子	大E30	美根耕二	大S13	石井雅裕
大C1	橋川 潤	大TV1	佐藤一朗	D19	中尾次郎	大S14	合原美治
大C3	奥 浩二	大TV5	市田孝徳	D21	南(鍛冶) 友三	大S25	横井(安川) 恵子
大C5	森本 優	大TV30	上杉(綱中) 賀子	F23	中川彪三	大S32	増田聖三
大C6	田中(井尻) 隆久	B27	宮本 彰	F24	宮本英男	R14	古田道麗(晉)
大C12	谷井 亘	大B8	岩野高士	F25	山本為雄	R19	市野重之
大C16	蓑 彰	大B18	西田 透	F26	城内福男	R21	山口慶四郎
大C20	今村 彰	A23	松井榮一	F26	松岡 喬	R23	小木曾照行
大M1	浅野道根	A26	田村一男	大F2	高瀬純造	R23	菅野正雄
IN16	公文章二郎	A27	椿本恭三	大F3	早原 瑛	R26	古川(立身) 安生
IN18	廣田長三郎	大A16	唐島久三	大F6	永吉賢二	R26	西村博史
IN18	藤原 剛	E13	西 和世	大F10	竹内弘明	大R5	水野俊彦
IN20	小川嘉直	E15	鷺見豊三郎	大F17	京谷康雄	大R6	蜂谷啓雄
IN26	奥田忠志	E25	田村雅宣	大F26	中野(中野) 真由里	大R12	奥井茂之
IN26	原 勝利	E26	亀井 旭	S17	金澤礦太郎	大R14	鎗木(今井) 洋子
大IN1	小原義男	大E1	藤田政信	S17	林屋永吉	大R32	加来 徹
大IN4	西村耕二	大E2	石川 明	S19	西山菊翁	短E1	岡崎 猛
大IN10	田中祥介	大E5	安藤(島貫) 詢子	S19	根本惟明	II R26	中川和弘
大IN12	本城丈夫	大E5	原田 博	大S3	疋田文雄	言語夜33	阪崎 渉
IP17	河合 勇	大E5	正木恒夫	大S4	熊田拳三		

化学薬品・食品添加物

磯田商事株式会社

代表取締役 **磯 田 良 一**（大 IN3 / 昭和30年卒）

〒336-0936 埼玉県さいたま市緑区太田窪3 -15-14

TEL：048-887-2943

畏友 早原瑛さんを偲ぶ

磯田良一

(大 IN3／咲耶会相談役)

私と早原さんは、共に昭和30年卒ですが、語科(私はインドネシア語、早原さんはフランス語)も違い、クラブ(私は陸上競技部、早原さんはグリークラブ)も違うので、面識はなく、卒業後も、私は昭和42年より東京支部の常任幹事、更に東京支部長・本部常任幹事と同窓会活動に邁進したのに対し同氏は同窓会活動には無縁でしたが、平成2年11月の本部総会にて、前任の山口博恭氏(D8)の懇請を受けて3代目咲耶会会長に、私は副会長に就任致しました。そして相談役を除いて、全役員が新制大学卒となったのです。

新執行部で行った一番大きな仕事は、従来は同窓生有志に対して有料で配布していた会報『咲耶』を、本部で掌握する全卒業生へ配布することにしたこと、今日のように見易く綺麗なカラー刷りにしたことです。そうして、学校の現状を少しでも多くの卒業生に知ってもらうように努めました。平成4年11月に会長を辞任し、会長在任期間は1期2年でしたが、その間の功績は実に多大で、今日の『咲耶』へ引き継がれて居ります。会長辞任後も、専門学校協会の理事長を歴任して居られたので、よく東京へお見えになり、東京支部の総会や東京フランス会でしばしばお目に掛けて居りました。一番最近では2009年、2012年、2013年東京フランス会(北青山レストラン)でお目に掛ったのが最後でした。その後は同じ熟柿会(古美術愛好会)のメンバーである友金守氏より、同氏が癌にて闘病中と聞いて居りましたが、昨年12月28日に御逝去されました。

千里会館で2月27日に行われたお別れ会に私は出席できませんでしたが、その1週間前、咲耶会幹事会の当日朝早く大阪のホテルを出て、箕面にある同氏のご自宅を弔問し、奥様と約2時間に及んで懇談いたしました。同氏の一生は天王寺学園の発展と共にあり、一代で町の予備校から専門学校を創り、全日制の高校を創り、更に大学設立が彼の夢でした。しかしながら国立大学でも統廃合する少子化の時代でもあり、大学設立はかなわぬ夢となってしまいましたが、80歳まで夢を追いつける姿はとても素晴らしいことだと思います。60年に及ぶ教育界での彼の功績に対し、1995年紫綬褒章、2005年瑞宝双光章を受章されました。安らかな旅立ちを心からお祈りいたします。合掌。

山口慶四郎先生を偲んで

森 滋

(大 A14／グリークラブ OB合唱団(大阪)代表)

私たちグリークラブOB合唱団の名誉顧問だった山口慶四郎先生(R21)が1月、亡くなられた。91歳でした。ことしはグリークラブ創部90周年。私たちは11月に開く記念演奏会に向けて本格的な練習を始めた矢先の訃報でした。先生のご尽力で思い出深い外大跡地に建つ大阪国際交流センター大ホールを演奏会会場として借りることができたのに、先生のお姿が拝見できないとは…。誠に痛恨の極みであります。

山口先生は1975年春からグリークラブの顧問に就任し、退官するまで顧問を続けられましたが、最後の定期演奏会でこう挨拶されています。「私はグリークラブが大好きでした。新入歓迎、演奏会打ち上げ、追いつしコンパ、すべて出席しましたが、外大では希少価値に類する男っぼい世界で、敬老精神に富むメンバーに囲まれ、私なりに青春の灯をともし続けることができたのは諸君のおかげでした」と。

グリークラブが休部になり、2003年にOB合唱団が結成されると、山口先生は名誉顧問に就任され、私たちに数多くの演奏の場をプロデュースしてくださいました。司馬遼太郎氏と同期だったというご縁や幅広い人脈を生かされ「佐原真さん追悼演奏会」(2004年)「菜の花コンサート」(2005年と2010年)「姫路文学館コンサート」(2007年と2011年)「さようならわれらが大阪外国語大学」(2007年)を次々と企画されました。周年記念演奏会とは別のこうした発表の場は私たちの大きな励みとなり、合唱団活動を続けていく力強い支えとなりました。

「(家族から)放し飼いを許された不良長寿」と自ら名乗り、気さくでおおらかでユーモアに富んだお人柄はグリークラブの人気者で、先生とのお付き合い、交流は終生続きました。「君らの若さを吸い取るため、いつもの店で待つ」。練習後、私たちの酒席に現れ、団員との談笑を楽しんでいたのはつい最近の出来事でしたのに…。

山口先生。ご葬儀では全国から駆け付けた団員約40人で先生の大好きな「Gaigo will shine」「月光とピエロ」など4曲を歌いお見送りさせていただきました。伝統のハーモニーを消さぬよう、私たちはこれからも歌い続けます。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

年会費支払者・賛助金寄付者一覧

C
17 生澤英太郎
20 長崎正二
20 吉川 績
21 向井義朗
22 武村俊雄
22 若住 昇
23 周藤道生
23 矢木英晴
26 込茶三郎
26 佐野博持
27 春日乙次
大 C

1 芦田茂幸
1 伊藤 務
1 橋本 敬
1 宮本一心
2 山根矩昭
3 尾崎泰雄
3 下神洋造
3 中井 隆
4 井戸太喜男
4 前川 奨
5 富永(磯部) 邦夫
5 岡田 進
5 薩美智行
5 増田栄三
6 田中(井尻) 隆久
6 中島章夫
7 待場(一瀬) 裕子
7 杉本達夫
7 平野拓也
8 小林 立
8 中空善彦
8 山口 卓
8 山田敬三
8 山本勝司
9 平岡 豊
9 平田宗広
9 平野忠彦
10 石田敏夫
10 加来洋二郎
11 青木俊一郎
11 長谷正義
11 藤山陽三
11 村岡 穆
12 上垣邦夫
12 片桐淳二
12 斎藤彰一
12 澤野井 啓司
12 塚本靖夫
12 玉山(西山) 順彦
12 南 賢
13 伊藤 宏
13 川原一行
13 樹下嘉之
13 児玉範惣
13 坂野勝彦
13 住山 毅
13 竹下晃治
13 田村(塚原) 節子
13 丹羽邦夫
13 松井正雄
14 西村成雄
14 舟橋定保
14 吉見典生
15 吉村(池田) 澄代
15 森本(石川) 美佐子
15 伊藤彰一
15 大水 勇
15 西原(土川) 萌美
15 成瀬龍夫
15 守屋 求
15 若林道朗
16 河田悌一
16 高城丈夫
16 中土浩治
16 堀井(新保) 秋典
17 河原 清
17 斉藤 誠

大 C
17 中村忠之
17 野口忠夫
17 山口建治
17 山本恒人
18 浜名義雄
19 白銀 洋
19 中土(長尾) 成子
19 春名 肇
20 小林和能
20 服部健治
21 巽(小林) 良生
21 筒井英則
21 山田昭一
22 呂(王) 英成
22 北畑(山本) 千晶
23 朝倉潤真
23 中川(雨堤) 千枝子
23 遠藤(伊賀) 良枝
23 川口 洋
23 杉村(幸田) 美智子
24 岡田(塩野) 光子
25 安藤嘉孝
25 笠井孝之
25 徳永敏夫
25 西川孝次
26 井上俊治
26 清水和彦
26 杉田欣二
26 井上(松林) 由喜子
27 繁本孝一
28 勝股高志
28 堀内宗隆
29 武田(田平) 和子
31 井上(高橋) 順子
32 高倉洋一
32 竹中俊徳
34 濱田麻里
34 森下圭造
35 二河(井上) ゆかり
35 満原(上野) 逸子
35 多門美穂
35 西邑一美
35 稲子(馬場) 寿恵
36 熊谷(小野) 晃子
36 加藤敬介
36 川角 力
37 河本尚枝
38 矢田(大木) 尚子
38 竹内(山本) 伸子
39 安藤誠志
39 池山良太郎
39 浜田(伊藤) 伸子
39 棚田(原田) 由紀子
40 島村(河野) 多鶴子
40 三村章子
42 阿古智子
43 星野(小笠) 有紀
44 重岡智子
大 K

16 前田征信
21 畑山康幸
24 三村浩一
25 渡部宏文
30 植村 茂
31 向頭達夫
31 淡路(町井) 伸子
38 森川広貢
40 山根泰延
41 徳丸明子
M
21 塩出亮治
22 近藤常太郎
25 小林一隆
大 M
9 中元寺俊幸
11 小貫(野間) 千鶴子
11 平尾貞三
13 橋本 勝
14 井本満昭

大 M
16 三村(正田) サカエ
16 橘 勲
16 林 卓也
17 伊津野武晴
18 戸川 浩
20 喜多義憲
20 山下尚志
21 射場純一
21 吉本幸吉
22 井上清昭
29 中山(志水) 道子
29 鈴木麻里子
32 田淵敦也
37 川岡美智恵
39 鶴羽(岡) 祐美子
39 加来貞仁
41 小林悠子
IN

21 寺山(田代) 義弘
21 東郷芳温
21 浜田広一
22 森本悦次
25 石川欣也
26 長谷泰行
26 吉田勝博
26 脇田昭二
大 IN
2 河野石根
3 池田英彦
3 石井義人
3 磯田良一
3 梶谷敬二
4 長谷謙雄
4 榎谷昌博
6 寺嶋正直
6 中村 徹
7 小黑 一
7 丹羽宏造
8 喜多山寛爾
8 滝本佳一
8 西田達雄
8 浜野圭市
9 木下 一
9 松尾充哲
10 石川恵二
10 松木 優
11 大田中実
11 小原一浩
11 堀田 実
11 前田比佐夫
12 内原正司
12 澤井佳一
12 辻(湯川) 修司
13 有井 晟
13 宮崎衛夫
14 鈴木安夫
14 井上(宮下) 久生
14 山下勝男
14 頼田 隆
15 朝倉俊雄
15 石川幸寛
17 本田正伸
18 長尾善伸
18 柳沢長四郎
19 野崎淳一
19 林 昭男
21 小田敏治
21 山口(藤田) 仁朗
21 三好勝春
21 米田洋一
23 勝原(藤沢) 紀美代
24 廣澤義幸
25 大角幸彦
26 中村隆雄
27 神野(杉野) 弘美
27 須田(坂元) 和
28 赤橋(井上) 由美
29 南野忠之
34 西川(今井) まさき
34 墨 史朗

大 IN
36 岡崎雅彦
37 篠崎裕二
42 竹前(小林) 望美
44 三隅理恵
IP
16 江洲紀郎
22 藤井 浩
25 松永通温
26 阪本輝雄
26 中島宏二
27 奥村義寛
27 竹内玉蔵
32 田嶋敦也
大 IP

1 金森 博
3 石垣 隆
3 小枝 博
3 小林富蔵
4 福井義男
5 高畑 渥
6 炭谷陽吉
6 中川博行
6 中島朝子
6 森西良俊
7 櫻村 肇
7 高村充一
8 友金 守
8 藤本清志
8 増田次郎
9 岩木邦安
9 金子義和
9 田中 勝
9 谷 昌宏
10 木内民二郎
10 久保泰三
11 大湊幹郎
11 中本 登
11 西森雅史
12 新井俊一
12 中村長生
12 松田(春川) 和子
13 奥平龍二
13 坂口嘉一
13 中村佳永
13 日比敏夫
13 溝上富夫
14 池田(伊藤) 正夫
14 坂口捷男
15 大重昭子
14 須田悦生
14 常村一則
14 西川 勝
15 竹内俊一
15 別所宏昭
15 山下一夫
16 稲岡俊一
16 黒田 進
17 家城義男
17 戸倉光明
17 森田啓司
18 上者義孝
18 宮崎(奥村) 真知子
18 畔柳和夫
18 林 信夫
19 生田慎吉
19 四方陽司
20 三宅(佐伯) 幸子
20 横山節夫
22 小野俊一
23 下村(久保田) 和子
24 小幡良介
25 三戸(清野) 由美子
26 店田淳一
26 角田栄一
26 中村隆雄
27 神野(杉野) 弘美
28 片山 真
28 竹村(鈴木) 康子
30 圓山 望
31 豊田(小田) 美津子
31 竹内(佐々木) 厚子

大 IP
34 辻裕紀夫
34 中江加津彦
38 佐々木雅彦
38 高尾 誠
38 高尾(藤林) 節子
40 高瀬静子
40 垣生千春
大 TV
3 前川清一郎
5 市田孝徳
8 高橋滋次
13 敦賀絳隆
15 請田裕史
17 土森道雄
17 敷庄治郎
18 田口 進
19 児玉伸之祐
20 榎 崇
25 小野 隆
28 池田衆一
28 宮森(谷口) 和美
28 西村俊一
29 大木 守
30 上杉(綱中) 賀子
30 上杉和哉
30 田中美穂子
33 田島啓行
33 村岡貴子
36 寺田 章
36 寺田(本多) 美貴子
36 村上忠良
36 安井久子
37 廣島輝夫
B

27 朝倉 裕
大 B
2 和田 達
6 美濃部親良
8 石堂知宏
8 蔭山 豪
8 小坂寿幸
8 藤原史和
10 辻本幸夫
12 藤山(中野) 幹司
12 慶澤義典
14 井上哲朗
15 大重昭子
15 藪 司郎
16 龍村季男
18 南田(井上) みどり
19 森 英昭
22 南 信夫
24 勝原尚実
25 中川晴吾
26 館山英昌
27 村端(田部) 佳子
27 谷口雅俊
29 山西(道本) 結子(祐子)
30 花蘭 誠
31 永末(三浦) 成美子
34 山本(山本) 和子
34 柳井(山本) 由香
36 本田頼子
37 澤下くる美
37 瀬尾あかね
38 倉本和寛
A
21 水谷 博
23 片岸嘉造
24 松村 平
25 今井精紀
25 今井辰行
27 岡村 一
大 A
4 池田 修
8 竹内良知
10 森野欣一
12 軸丸則男
13 海東 泰

大 A
14 菅原邦城
14 森 滋
15 塩尻 宏
15 塩尻(中村) 和子
15 吉崎史明
16 梅野順義
16 中元康裕
17 小林良三
17 篠崎由紀子
19 高階美行
21 岡崎友美
21 野中正晴
26 山崎(田葉井) 章代
27 三木正夫
27 三木(山本) 昌枝
28 後藤(木村) 泉
28 松原 浩
28 横山博史
32 及川英一
32 LEROUX(後藤) 尚美
33 家村(前出) ふゆ実
33 工藤(光井) 律子
33 安井弘之
34 川口(一番ヶ瀬) 洋子
35 島田郁子
35 桐山(高木) 美緒里
40 濱口(北川) 美佳子
40 長谷川(山本) 厚子
42 小林(野手) 香緒利
43 BLAKE(四宮) 聖子
43 森 博美
44 前川(今元) 裕美子
大 P

13 河村 宏
15 大島俊彦
15 羽田亨一
16 香川英明
16 中浦泰彦
18 奥田素子
20 長塚 匠
22 石田義博
22 泉 四郎
24 遠藤比登志
26 宮原武文
28 吉田(大見) 多恵子
29 志茂(小方) 智子
33 野垣(清松) 和美
38 正井(吉田) 優子
41 安永(本田) 由美子
41 山川 静
E
16 在田一雄
20 飯田一生
25 川口 修
25 中江三郎
26 金井 清
26 亀井 旭
27 森田啓司
27 茂山(李) 一雄
大 E
1 井尻益次郎
1 東條(太田) 喜代子
1 岡本晴三
1 片山 黎
1 笹井常三
1 佐々木俊一
1 正保富三
1 柴田千蔭
1 玉城勝也
1 西田重造
1 福本太一
1 武田(藤岡) 暢樹
1 細川安則
1 眞鍋 雄
2 加田吉晴
2 釜谷研造
3 伊藤保一
3 奥村和巳
3 金山弥寿雄

年会費支払者・賛助金寄付者一覧

大 E	大 E	大 D
3 好田 實	15 村山久二子	6 保田武司
3 齋藤 尚	16 今城 (小田) 八洲子	7 瀬戸優和
4 浅原敬一	16 小林正受	7 富田省吾
4 岩垣健治	17 長谷川和久	7 安田正宏
4 内山正克	17 松見芳男	8 大塚 享
4 神谷忠雄	18 井上晶二	8 永瀨秀夫
4 田川弘雄	18 岩永靖正	8 早川忠久
4 堀江幸夫	18 坂本俊弘	8 望月敬三
4 宮前通康	18 松田 武	8 渡辺彰子
4 森 茂	18 八木 一	9 大西 宏
5 大久保孝博	18 吉田久夫	9 鈴木庄太郎
5 小野 博	19 岡嶋正雄	10 尾子 明
5 馬場弘行	19 松見 (田中) 淳子	11 田舎庸男
6 日下寛治	19 谷岡 諭	11 森下修一郎
6 田渕弘通	19 船戸誠一郎	12 花田正男
6 六藤隆夫	19 山口弘務	13 田村 樹
7 荒木義弘	20 小泉 (稲山) 明紀子	14 松永秀夫
7 伊藤豹一郎	20 永田雅治	15 内藤 丘
7 赤垣 (岡野) 睦雄	20 平井 (太尾) 佳代子	16 平野 直
7 河盛龍三	21 上野隆男	17 春名幹男
7 岸田 洋	21 垣見 (前原) 益子	18 高岡寛治郎
7 芳賀直美	22 藤岡 (上田) 和代	18 津田真人
7 箱木眞澄	22 谷渕初枝	19 大塚敏雄
7 藤田欣吾	22 倉吉 (秀島) 知恵子	19 白岩 修
8 浅野 弘	22 福満雅子	19 三木輝美
8 石井純一	25 高井知二	21 分林寛三
8 井上善二	25 山口貴士	22 石野 (高竹) 伸子
8 小笠原 (大川) 成子	26 讃岐 (小倉) 紀久子	22 清水 (西井) 正子
8 菊井忠雄	26 平田 (金田) 廣子	24 岡田 (川勝) 真美子
8 阿部 (佐々木) 祢子	26 堀 勝博	25 遠藤 裕
8 清水正治	27 味岡保雄	25 中山敏朗
8 松尾尚治	27 大橋章子	26 橋本芳樹
8 屋敷 潔	27 小卷 (能勢) 靖子	27 小山 (川淵) 真由美
9 網本保榮	27 橋本 (松林) かほる	29 木村真也
9 氏家重幸	27 吉川靖弘	30 STANKIEWICZ (大村) 雅子
9 大石義之	28 安間一雄	30 津田治彦
9 江住 漢	28 小林信彦	30 橋本圭司
9 高木成佳	28 横田 (竹内) 優子	30 山本直光
9 三谷正芳	29 豊田 (安宅) 直美	31 中西雅代
9 安田晃久	29 尾崎 拡	31 平井博英
9 横関静雄	30 中野新一	33 勝部由紀夫
9 孝橋 (吉田) 明子	31 朝戸理恵子	34 安藤いづみ
10 大倉明治	31 伊丹 豪	37 津村 (岩崎) 綾子
10 小川眞一	31 河邊昭浩	42 東方 (川西) 玲子
10 加後 清	31 坂井 (森) 由美子	44 山口 壮
10 片岡利昭	32 池本 (小栗) 淳子	大 DM
10 丹野哲男	32 中路 亨	18 荒木和夫
10 荒木 (新田) 泰子	33 成田 (石井) 純子	18 福島義明
10 西村茂忠	33 秋田 (泉) 佳子	20 藤嶋照夫
10 八木忠司	33 畠岡 (中川) 栄子	21 岩瀬正一
11 板橋宏昌	33 吉田克巳	24 中島裕司
11 栗本博夫	34 多田昌美	26 津金倫明
11 坂口正行	34 檜垣 (山本) 美保	30 奈良岡 (松田) 明子
11 佐治洋一	36 FIR (相澤) みちわ	32 松野 (於勢) 世央子
11 少徳敬雄	36 百留秀宗	33 中川聡美
11 柴山幸彦	37 浅野 (白井) 元子	35 高橋真理
11 中右 実	38 金野 (岩井) 千春	36 田邊 欧
11 仲地弘善	39 吉本恵司	38 山下直幸
11 西村泰作	40 村田 (木津) 育子	40 伊藤晴彦
12 浅井正博	41 井川 (中村) 千穂	40 岩佐朗郎
12 山邊 (上田) 利正	43 小林知博	41 石黒 暢
12 岡崎邦夫	D	41 奥寺 (山口) 友子
12 中村明人	14 山本 耐	41 桜井 (渡辺) 史子
12 長谷川清	21 堀 秀光	42 北嶋 (尾崎) 三喜子
13 高井 忠	22 山家 毅	43 井形 (原田) 真理子
13 田川成士	23 寺澤健治	F
13 辻 斌	23 山尾昭一郎	21 福田玲三
13 横山憲次	26 金加行雄	22 斎藤 裕
14 奥西保彦	大 D	26 弦川 功
14 常深建雄	1 塩路 稔	27 岩崎義親
14 黒田 (真屋) 好子	3 高岸芳郎	大 F
14 渡辺 (山田) 麗子	4 藤田英二	1 玉村文郎
15 佐々木康治	5 畦地敏則	1 日台 (中村) 松子
15 井上 (富田) 泰子	5 市間 博	1 村井茂昭
15 長尾和壽	5 西 彰	2 杉山 毅
15 足立 (西本) 幸枝	5 羽田尚史	2 高輪 琢
15 萩原正浩	6 北尾利夫	2 原 勇
15 穂積健次	6 清水大三	3 原 瑛
15 松木 博	6 西川 統	3 原田 武

※は年会費と賛助金の両方を納入いただいた方です。ご協力ありがとうございました。

大 F	大 IT	大 S
4 竹中清蔵	35 大桑景子	12 三浦 鴻
4 安田正雄	35 小澤(藤村) 祥	12 山下 勇
5 野田健史	37 吉田(林) 孝子	13 石井雅裕
6 荒尾 守	37 土方(堀) 裕子	13 石川善夫
6 廣岡幹雄	41 清野(坂根) 弘美	13 市川英二
7 小川丈治	S	13 大倉(上島) 美和子
7 酒井 斌	21 寺田 傳	13 酒井(鬼頭) 礼子
7 千布正人	23 岡田 肇	13 細 英機
7 長山泰利	27 小柴 茂	14 柴田 進
8 青野光裕	27 並河秀夫	14 満谷康治
8 井田憲之	27 西村貞夫	14 三好準之助
8 川岸 清	27 石井(平松) 幸子	14 久保(吉川) 義昭
8 鈴木謙輔	大 S	15 西原 宏
8 堂本三代子	1 吉田秀太郎	15 渡辺(林) 道雄
9 兼崎勝行	2 中居篤也	15 森本(宮崎) 勝幸
9 岸 悦三	2 中原孝三	16 大釜心一
9 鈴木敬治郎	2 松永和泰	16 川越茂雄
9 高倉信雄	3 竹内 信	16 鈴木丈郎
9 長縄正治	3 玉利 虹	16 鈴木惟司
10 高井光子	3 中山康雄	16 西野 誠
10 西林武仁	3 長谷川匡則	16 林 浩
11 大西 弘	3 丸木正登	16 土屋(久谷) 育子
11 千田 享	4 竹原順三郎	16 宮下正明
12 岩瀨清淨	4 西村(多田) 啓介	17 板村哲也
12 丸山一朗	4 服部英樹	17 中川裕二
13 藤 太	4 本多祥二	18 上脇武子
13 古畑 功	4 三宅正澄	18 田中正明
14 富山政明	5 川上武男	18 藤岡慎弥
15 猪口敦行	5 首藤正登	18 藤田佑郎
15 門田海婦子	6 稲永丈夫	18 小林(堀井) 房子
15 成願紘一	6 今西統行	18 吉府敏雄
15 松本俊史	6 宇野弘司	19 亀井廉幸
15 山崎寿雄	6 下野文雄	19 河嶋正之
16 朝妻(乾) 和子	6 高橋一三	19 小林士郎
16 高畑千秋	6 内藤秀彦	19 根田 忠
16 仲本(山本) 邦子	7 中野正治	19 諏訪忠孝
17 楠田和子	7 森 幸彦	20 芦田正裕
17 西村揩司	8 石原正紀	20 瀬山(小山) 博子
19 神崎康彦	8 広武善登	20 瀬山雅博
20 杉本和恵	8 清水忠彦	21 石田新一
20 宮川文子	8 多田 脩	21 杉本重雄
21 坂口(谷口) 善子	8 中澤芳弘	22 足立明洋
22 藤田 明	8 三宅 敬	22 亀田陽一
24 安部誠治	8 和田 衛	22 下村孝夫
25 大橋(宮本) 泰子	9 辻田義尚	23 井上 明
26 奥田一夫	9 原 秀雄	23 石川(内田) 知草
26 大亀(富田) 恵子	9 平島彬伸	23 竹田晴仁
27 西尾啓子	9 平岡 茂	23 長野 稔
27 堀田宜嗣	9 松木正顕	23 山下裕己
27 峯崎 力	9 丸林 眸	24 東雄二郎
28 井出(樽井) 直美	9 山本紘八郎	24 三谷(江崎) 真樹子
29 坂垣(大川) 公子	10 吾郷健二	24 岡本隆宏
30 山内清之	10 今川(一見) 彰男	25 上崎雅也
33 藤本(池田) 純子	10 鈴木宏吉	25 小森絹子
34 井辻敦雄	10 中村邦雄	26 入久玲子
34 長尾達造	10 西川 進	26 尾藤(長谷川) とよ子
35 今村(橋本) 祐子	10 東谷頼人	28 上田恭子
37 松尾孝治	10 広瀬彰彦	28 佐藤(松永) 美子
37 藤野(松村) 富美	10 八木三木男	29 加来由美子
37 脇坂敏和	10 山口勝三	29 岡本(宮崎) 晶子
40 藤原智子	11 庵原専三	30 梅澤美香子
40 宮里綾子	11 岡本耕蔵	31 稲田(稲村) 美由紀
41 相馬千名津	11 小畑克之	32 佐々木貴明
43 奥井(岡本) 純子	11 小上馬昭雄	32 東村誠司
43 矢加部桜	11 佐々木博昭	32 牧本成俊
45 吉開秀勝	11 新出武雄	33 久保田(我孫子) 昌栄
大 IT	11 杉山 晃	36 松田(大槻) 晶子
18 北浦(中村) 玲子	11 高島陸雄	36 若尾(小谷) 浩子
20 小谷俊文	11 中村義彰	36 鈴木正士
21 金子研二	11 中山弘之	36 林 洋
21 小南重治	11 藤田博之	37 大田(飯田) 祐子
21 永田一恵	11 船木芳雄	37 石倉 博
21 松木(横手) 美知子	11 堀田正次	37 佐伯(大江) ますみ
22 栗野修司	11 前田直明	37 大谷(柏原) 由実
23 平井隆次	11 三神 徹	40 伊東(大谷) ゆかり
25 西村(小松原) 秀也	12 辻 辰彦	43 苗村(谷岡) 伸子
28 松宮良衛	12 萩原準子	44 加藤(杉山) 真紀
30 尾形希和子	12 奥村(福田) 功	大 PB
32 山之内(神原) 恵里	12 古川タク	32 高岡 尚

「デンマーク語専攻・語科創立50周年記念大会・同窓会」様より、30,000円の賛助金をご寄付いただきました。ありがとうございました。

大 PB	大 J	大 HG
33 今村俊昭	41 松山祥子	46 服部(堀) 貴子
38 伊藤淳一	41 横山(宮) 早苗	47 山口(芝下) 直子
41 三井(岡崎) 裕美	言語大	49 中野雅博
42 軽込 郁	45 織田淑子	55 村上(分銅) 朝美
R	50 西村幸起	57 松本陽大
25 大西 晏	55 津田幸乃	大 DM
27 大西良平	57 井川(渡部) 亜希子	62 綾 晴香
27 森山 宗	日本語大	大 SD
大 R	48 瀬島(岡村) 京子	49 吉田麻衣子
1 嶋田(岩井) 一郎	49 坂西(栗木) 真由美	大 D
1 山下 慎	52 五十嵐小優粒	45 牧野喜弘
2 戸川 啓	53 勝間真由美	47 富田(河村) 陽子
2 和田政雄	55 中島(岩瀬) 優希	55 鴨居美歩
4 天野和男	55 段木健太	56 奥村直敏
4 舟橋弘美	58 若井(今出) 夏唯	57 永尾真美
5 橘高(井元) 絹子	比較大	中北欧大 E
5 杉谷保恵	50 吉田(北川) 理恵	46 長谷川江奈
6 安井祥祐	50 角南圭祐	52 中川裕美子
8 手島清之助	52 箭内(藤田) 愛	56 松井(青木) 奈津子
9 坂田 愼	57 有國めぐみ	中北欧大 E
10 坂下善亮	国際大	59 深谷沙緒梨
10 松村孝一	48 青木(高畑) あいこ	大 F
11 笹井明夫	48 八木(高見澤) 恵美	45 浦本 華
11 野木英樹	51 本田友子	46 岡 隆之
11 濱田(古海) ケイコ	54 田端篤史	48 渡邊(太田) 美和
11 馬野喜夫	54 野上(藤江) 智美	大 IT
11 横井弘昌	開発大	46 佃(神戸) 真奈
12 藤川昌良	46 宮脇(大谷) 恵子	46 高橋花歩
12 藤本和貴夫	47 金行抄穂	南欧大 S
13 柴田重徳	48 林田(常住) 里恵	48 中村聖史
14 岡田尚三	58 真砂周子	56 富永 陽
14 田中(前川) 富子	大 C	60 平松めぐみ
15 岩浅武久	45 海老名健司	北米大 E
15 渡辺 昭	45 中内亜紀	47 木村憲治
17 浅井 徹	46 青木里菜	47 森川(前田) 晃江
18 大東健治	46 川越宗一	48 曾根田(谷口) 愛子
18 坂本和子	46 濱島千裕	58 川本哲也
19 松原繁生	47 岡野涼子	中南米大 S
20 三枝 仁	47 高田(栗沢) 真紀子	48 中村 健
20 吉岡伸一	47 木田(田村) 智子	50 谷口(福島) 由樹子
20 吉嶺恵助	50 佐野(黒竹) 淑子	63 西中聖大
21 中村友則	50 榎本(吉村) 佳	中南米 PB
22 堀川桂子	51 北川美鈴	56 大路明子
23 舟木三千男	51 寺坂洋希	57 海住知里
23 樽井(前田) 一仁	52 泉谷晴香	阪大 C
24 上田哲也	53 田中(川口) 味香	1 武智直矢
24 桜井(渡辺) 護	57 島本浩平	4 齊藤寛乃
25 馬塩憲一郎	57 大川(玉城) 佐和子	阪大 K
27 井出 清	58 吉岡康代	2 土居沙希子
27 河井(小川) 洋子	大 K	阪大 M
28 岩崎公徳	45 酒井(福田) さおり	4 熊見昌寛
28 鶴飼(郡) 聖子	大 M	阪大 PH
28 土居本稔	45 森矢栄子	3 吉田瑞希
29 川辺 亮	54 島村(今嶺) 悠水	阪大 V
30 江川(石田) 有子	57 佐藤友香	2 大西正也
30 市川 浩	大 V	阪大 B
30 森本園子	48 松尾年展	4 前中梨沙
31 中本(川崎) 浩美	55 高山(三木) 春香	阪大 U
32 中松基史	大 H	2 内藤佑介
32 白井(福井) 元子	46 明石(荒川) 尚子	3 有年孝将
33 西村(後藤) 加代	大 U	阪大 SH
33 島田英明	46 多喜大祐	4 坂野清香
34 宮崎(河島) 乃里子	大 A	阪大 DM
34 谷(重田) 真理	46 堀尾明子	4 畔柳祥子
34 誓山祥子	55 佐藤 航	阪大 SD
34 金岡(吉岡) 路子	大 P	3 菊地 灯
35 生駒尚美	48 深澤(澤田) 育子	阪大 D
35 崔 泰秀	大 TR	1 門脇 愛
35 高尾 潤	50 岡本純典	1 能勢尚子
36 松尾美喜	大 SH	2 畑林真帆
37 米田(辻本) かおり	50 香川(深谷) 香奈	阪大 E
38 風間 斉	56 山瀬靖弘	2 市毛奈都美
40 堀内(齊内) 明子	58 西脇大史	2 笠崎祐志
40 原 誠司	59 片山夏紀	3 梅田奈未子
43 和田雅代	61 土井真美	3 吉中真優
44 小木(吉田) 有希	大 R	5 黒田絢香
大 J	48 瀧嶋(岩沢) 純枝	阪大 F
29 嶋田かをり	54 植原邦雄	3 北村 彩
41 大下(植月) 佐和子		4 谷岡 彩

阪大 S	II D	院 R
4 岩井美香	2 高橋善介	12 岩本憲子
4 鳥生知美	5 柏原 豊	20 須佐多恵
阪大 PB	7 六瀬一夫	22 上原順一
2 鈴木友規	12 石黒真一	院 J
短 C	23 福島宗史	22 脇田里子
1 泉 清二	24 吉武(尾崎) 千穂	28 橋本佳美
2 刈谷 清	II F	院前東ア
3 矢野純雄	1 井上洋治	11 井口年子
短 E	1 細江伸典	院前東南ア
1 北川一昭	3 杉田(水本) 奈津枝	8 矢元貴美
1 水本敞司	12 小澤文彦	院前中北欧
2 堀内(桜島) 佳久	19 遠藤(鈴木) 正子	7 大迫理恵
2 平野隆司	22 永田(棚橋) 杉子	8 久保田勝己
2 棚田展江	25 楚本昌孝	院前日本
3 佐々木淳子	27 野本久美子	7 ミグリアーチ(下園) 慶子
3 峯 達也	II S	院後言語
5 佐野仁紀	2 藤谷(貫洞) 康代	9 須藤 潤
5 シュミット(田中) 澄子	6 桃井(北川) みち子	◆大 J
5 田中淑子	7 諫山和可	丸山ゆき穂
短 D	10 近藤哲二	◆大 C
2 古賀昭良	12 浅井延亮	尾崎圭朗
4 久國宣弥	15 仲谷喜代子	玉置真奈
6 正田 武	23 森田(北尾) 文枝	近藤伶奈
短 F	25 芳賀(田村) 慈	奥 詩織
2 乾 昭	27 菊本孝一	◆大 K
3 河野幸平	28 古川月子	岡田早里奈
5 豊田英男	II R	◆大 M
7 福島(堀下) 財	1 西村明子	中山裕貴
短 S	4 岩永喬輔	野本悠紀子
2 佐竹節寛	4 大北義郎	岸田直昂
2 観月浩慈	8 出口(山地) 聖子	高野真央
5 梅田 勲	11 森田昌行	森山賢美
5 大下勝巳	13 湯浅加代子	◆大 P H
短 R	25 井上亜希子	久留須健一郎
5 林(岩田) 省治	言語夜	◆大 T
5 眞鍋廣近	28 山下(岩浅) 麻利子	北野成美
7 大嶋(板並) 厚子	30 日野文子	◆大 V
7 陣内直樹	比較夜	中野聡美
II C	30 山田眞介	◆大 H
1 幸 英隆	35 坪根公平	武井洋陽
2 津谷省三郎	国際夜	◆大 A
2 福島勝彦	29 池内信也	今中里佳子
5 河崎恵一	40 大場章晴	中村朱里
5 三次召尚	40 岸川真琴	柴 秀喜
13 田中秀治	夜 C	◆大 P
13 三村 勝	28 北野(廣田) 祐子	増永 舞
14 西村誠志	32 岩永浩一(潤)	加納千聖
15 田村博一	32 堀澤良充	◆大 T R
16 村上大洋	夜 R	川瀬耕平
20 古川季靖	30 大日南(堀) 苗香	山本有真
21 小島(中尾) 紀代子	32 楠(平井) 晶	◆大 S H
22 広川由美	夜 D	稲田秀樹
23 小島洋子	29 錦織光司	◆大 R
27 瀧本文治	中北欧夜 E	土方直人
28 常 義宏	30 富永(鄭) 真己	平野真由
29 堂山綾子	39 堤真佐美	小幡修司
II E	43 内田智之	◆大 H G
1 古澤英一	南欧夜 S	宮地愛美
2 野村信二	29 金森暁世	◆大 S D
3 杉下達也	36 宇谷直樹	宮石利紗子
3 茂木(土屋) 文子	43 吉村卓也	◆大 D
3 西出恵子	北米夜 E	小林友明
4 中川哲雄	37 大山之夫	牛島千恵
8 西田達昭	院 C	◆大 F
10 金村義夫	15 谷川 毅	香山桃子
10 黒木一吉	院 K	山本裕香
10 斉藤雄司	27 高橋 学	◆大 E
11 大橋祥克	院 A	濱田祐輔
12 西羅こづえ	22 竹村景子	小橋真帆
16 丹治(三次) 由美子	院 P	灰谷瞳花
18 庄山和利	27 竹原 新	瀧口将司
23 楠(坂東) たか子	院 E	◆大 S
24 仲宗根充修	3 山本 進	木村涼介
26 早川貞子	5 樋上 勲	土肥慎吾
27 興津純子	院 D	森葉太郎
28 中村 泉	7 楠根重和	◆大 P B
28 村岸好昭	27 吉澤早苗	奥野仁美
II D	院 F	渡辺 格
2 飯代恒彦	15 安慶名操	

※卒回の前の「◆」は、在学生です。

咲耶会（同窓会）本部・支部一覧表

本 部	会 長	連絡先		E-mail or TEL/FAX
	少徳敬雄 (大E11)	事務局	〒562-8558 箕面市粟生間谷東8-1-1 大阪大学外国語学部内	TEL&FAX (072)728-2327 sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp
支 部	支部長名			
北海道	喜多義憲 (大M20)		〒062-0901 札幌市豊平区豊平一条3-1-33-1003	yokok@22351@gmail.com
東 北	黒木一吉 (II E10)			kukoki@o-bb.net
		中村勝彦 (大M34)	〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-5-28 あおぞら銀行名古屋支店支店長	k.nakamura@aozorabank.co.jp
東 京	青野光裕 (大F8)	樽井一仁 (大R23)	〒114-0003 東京都北区豊島5-2-20-1603	taru2742@yahoo.co.jp
静 岡	下石京子 (日本語大45)			loverswalk1975@hotmail.com
名古屋	塚崎義弘 (大R8)	白岩 修 (大D19)	〒465-0066 名古屋市名東区梅森坂西1-801-107	shiraiwa1123@yahoo.co.jp
岐 阜	安田哲司 (大IN30)		〒501-6241 羽島市竹鼻町2980-13	changer_lavie_cpta@nifty.com
石 川（仮）	楠根重和 (院D7)	吉田孝子 (大IT37)	〒921-8171 金沢市富樫1-10-4-601	taka5yomako@gmail.com
福 井	山下裕己 (大S23)	森 茂 (大E4)	〒910-0002 福井市町屋3-25-23	irom@biscuit.ocn.ne.jp
京 都	宮川督三 (大S16)	西尾 齊 (大E11)	〒606-8404 京都市左京区浄土寺下南田町70	dkals108@kyoto.zaq.ne.jp
奈 良	神谷忠雄 (大E4)		〒630-8424 奈良市古市町31-32	mahoroba-nara-kamitani@iris.conet.ne.jp
大 阪	金村義夫 (II E10)		〒540-0012大阪市中央区谷町1丁目7番3号 天満橋千代田ビル	ykanemun@forest.ocn.ne.jp
神 戸				
播 但	釜谷研造 (大E2)	岩田正美 (大R28)	〒675-0053 加古川市米田町船頭401-54	masayoshi_iwata@pref.hyogo.lg.jp
丹波市	岸田 功 (大IN15)		〒669-3309 丹波市柏原町柏原47	rskq59484@zeus.eonet.ne.jp
香 川	小林 立 (大C8) 代行	小野 博 (大E5)	〒760-0004 高松市西宝町2-3-14	TEL&FAX (087)862-0836
徳 島		小田敏治 (大IN21)	〒770-0003 徳島市北田宮3丁目2-34	tom_oda@emn.ne.jp
愛 媛	上田 稔 (大K19)			cogwayueda@yahoo.co.jp
		岡井真知子 (大D45)	〒791-8025 松山市衣山1-238-4	tenderlovedragon@gmail.com
高 知		周藤健史 (大S30)	〒780-0024 高知市前里335-7	tkmrn1917825@me.pikara.ne.jp
岡 山	廣江彰正 (大IP19)		〒703-8278 岡山市古京町1-4-32	ak98ms01@yahoo.co.jp
広 島	楠見昭二 (C25)	山岡 哲 (大IT20)	〒733-0814 広島市西区己斐西町19-37	yamaoka@tosc.co.jp
鳥 取	八嶋武夫 (IP25)	長本喜夫 (大R4)	〒680-0013 鳥取市江崎町47	TEL&FAX (0857)22-5771
福 岡	吾郷健二 (大S10)	中尾史子 (大IN27)	〒815-0083 福岡市南区高宮2-18-12-501	hirako@lisa.co.jp
熊 本	かじえいせい (大S21)		〒860-0844 熊本市中央区水道町2-7-203	dreamincountry@gmail.com
宮 崎	近藤哲二 (II S10)		〒880-1101 宮崎県東諸県郡国富町大字本庄1702-2	tkondo53@yahoo.co.jp
沖 縄	仲地弘善 (大E11)	尾形希和子 (大IT30)	〒903-0812 那覇市首里当の蔵町1-4 沖縄県立芸術大学 芸術学専攻	k-ogata@okigei.ac.jp
北 京	中嶋清治 (大C21)	斉藤惠美 (大C44)	(送付物宛先) 100044 中国北京市海淀区首体南路6号 北京新世紀日航飯店写字楼1256室 北京首旅日航国際 酒店管理有限公司 佐藤理恵	doragonpekin@yahoo.co.jp
上 海	渡邊 洋 (大C29)	河野由香 (大C55)	200030 中華人民共和国 上海市斜土路2897弄50号 南3B-2, 書楽工業園内	you_xiang78@yahoo.co.jp
香 港	太田明雄 (大IT26)	小林敏子 (東アジア大C57)	(送付物宛先) Flat 15G, Tower 6, Harbour Place, 8 Oi King Street, Hung Hom, Kowloon Hong Kong	4styles.enterprise@gmail.com
ソウル	渡邊浩一 (大K35)		Daiwa Securities Capital Markets Korea Co., Ltd 20 Fl.&21Fl., OneIFC, 10 Gukjegeumyung-Ro, Yeongdeungpo-Gu, Seoul, Korea	kwatanabe@kr.daiwacm.com
ジャカルタ	内原正司 (大IN12)		JL. Senjaya 4, No. 2, Kebayoran Baru, Jakarta Selatan Indonesia	uchihara@sgl.co.id
マニラ	テンマタイ柴垣都喜代 (大E25)		# 16 Waling-waling St., Tahanan Village, Paranaque City, Metro Manila Philippines 1720	tsukiyotenmatay@gmail.com
	川村芳範 (大TV24)			kawamura-yoshinori@earth-chem.co.jp
バンコク		工藤 博 (大TV30)		kudo@technoresin.com
		阪本法子 (開発・環境大47)	Ms.Noriko Sakamoto #2007 Cape House Serviced Apartments, 43 Soi Langsuan, Ploenchit, Road, Lumpini, Pathumwan, Bangkok 10330 Thailand	osakagaidaibkk@yahoo.co.jp
ヤンゴン外語会		松島勇治 (大B27)	Kubota Corporation Yangon Branch No(25), Room-307, 3rd floor, Bldg(4), Yuzana Business Tower, Dhama Zedi Road, Myanigong, Sanchaung Townships, Yangon, Myanmar	centro318@gmail.com
ニューヨーク		石田佳子 (大D29)	230 East 44th Street # 3C New York, NY 10017 USA	yishida@rcn.com
ロサンゼルス	望月一郎 (大E25)		951 Kingsley Drive Arcadia, CA91007 USA	ichimochizuki@yahoo.co.jp
		西川ノーマン裕子 (大TV36)	4060 Alla Road, Los Angeles, CA 90066 USA	hirokonauermann@gmail.com
サンパウロ	平野 茂 (大S20)		Av.Amgelica, 727 Apto.72 Bairro Higienopolis, Sao Paulo-SP, Brasil CEP 01227-000	hiradesco@hotmail.com
		草薙綾子 (中南米大PB48)	Alameda Santos, 705-cj. 17-Cesar Sao Paulo-SP- Brasil-01419-902	wec@wecbrazil.com
ロンドン				
デュッセルドルフ	片岡 惇 (大S4)	小玉亜衣 (大D52)	Grenzstr. 33 40670 Meerbusch Germany	sakuyakai_dus@yahoo.co.jp
パ リ	松本隆男 (大F4)		c/o Mr. Takao MATSUMOTO 11 Rue Delabordere 92200 Neuilly / Seine France	matsumototakao@netntt.fr
ミラノ				
モスクワ	岩本 茂 (大R18)		c/o JAPAN TOOL SERVICE 119049 Ul.Korovij Val dom7, kv168 Moscow	iwamoto@jtools.biz
シドニー外語会		河原一夫 (大DM40)	45 Moree Street Gordon, 2072 NSW Australian	kawahara345@oki.com



MOTORIX INTERNATIONAL, INC.

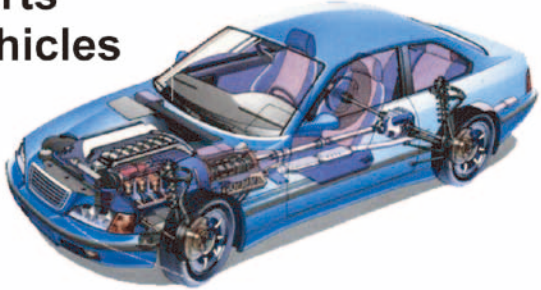
（モトリックス商事株式会社）

Worldwide distribution of auto parts
for Japanese vehicles

Web: http://www.motorix.co.jp

UMEDA/Isao （短S5/昭和40年卒）

YOGO/Tomoki （南欧大S49/平成13年卒）



平成28年度 咲耶会役員名簿

名 誉 会 長 東 明彦 院 S11

幹 事 三次 召尚 II C5

幹 事 五十畑浩平 夜 F37

会 長 少徳 敬雄 大 E11

” 西村 朋也 大 TV22

” 山瀬 靖弘 大 SH56

副 会 長 宮崎 衛夫 大 IN13

” 青野 繁治 院 C12

” 松藤 泰代 阪大 E 1

” 大水 勇 大 C15

” 笹原 敬生 大 IN27

大 学 役 員 長谷川信弥 院 S19

” 井上 泰子 大 E15

” 河井 洋子 大 R27

” 竹村 景子 院 A22

” 樽井 一仁 大 R23

” 金村 義夫 II E10

会 計 監 査 役 荒木 和夫 大 DM18

幹 事 加来洋二郎 大 C10

” 村上 忠良 大 TV36

” 亀井 廉幸 大 S19

” 荒木 泰子 大 E10

” 上原 順一 院 R22

相 談 役 磯田 良一 大 IN3

” 藤本和貴夫 大 R12

” 松本 健二 院 S24

” 池田 修 大 A4

” 白岩 修 大 D19

” 大辺 理恵 院前中北欧 7

『咲耶』編集委員会 委員長 井上泰子／委員 荒木泰子・上原順一・松本健二・大辺理恵／事務局 八代田幾世・西田貞子・大熊美紀

◆ 個人情報の取扱いについて

咲耶会は個人情報保護法遵守の立場から会員個人情報については適切に扱うことが重要であると考えています。

○ 登録の個人情報は、下記の目的に利用します。

- 会員のデータ管理
- 総会・同窓会活動各種案内
- 会報『咲耶』の送付
- 各支部からの申請に基づき、当該地域のデータ提供
- 語科・同期会責任者からの申請に基づき、データ提供
- その他会則に基づく活動

○ 自己情報の提供は任意です。

○ 個人データの本人からの請求があった場合には、開示、訂正、追加、利用停止、削除を行います。

○ 同窓生情報のお問合せは、相手方会員の了解があった場合のみのご案内といたします。

○ 登録の個人情報は委託先も含め、機密保持に万全を尽くします。

編集
後記

『咲耶』27号をお届けします。

咲耶会が協賛している「司馬遼太郎記念学術講演会」が19回を迎えました。司馬氏没後の歳月に思いを致し、講演会を軸に特集を組みました。母校にとっても大きな転換点となったこの20年ですが、毎回、知的好奇心を駆り立てるテーマと講師陣の多様性に、企画運営に携わってきた関係者の矜持と熱意を感じます。これを機に、若い世代にも司馬氏とその作品を身近に感じてほしいと思います。

「私の留学体験記」も3回目となりました。国により、時代により、留学事情がかくも違うものかと驚き、改めて戦後の歴史を顧みるこ

ととなりました。グローバル化が進み、海外渡航は容易になりましたが、現代ならではのリスクも高まっています。それでも、果敢に未知の世界へ飛び立ちたいという「外語魂」は今も昔も変わりはないようです。

創立100周年と新学舎移転を5年後に控えた今、私たちにできることは、母校の歴史と伝統、文化を次世代に伝えること、同窓会としてのアイデンティティを確立することであると思います。世代を超えて、同窓の絆を強め、どの世代にとっても、懐かしい青春の思い出となるよう、『咲耶』を通じて母校への求心力を高めたいと願っています。
 （編集委員会）

発 行 平成28年9月

発行者 咲耶会（大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会）

〒562-8558 箕面市粟生間谷東8-1-1 大阪大学外国語学部内 E棟1F

TEL & FAX: 072(728)2327 E-mail: sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp

ホームページ: sakuyakai.net

フェイスブックページ: www.facebook.com/SAKUYAKAI

郵便払込口座番号: 00910-7-21536 加入者名: 咲耶会

咲耶

会報 No.27 (2016)



咲耶会 メールアドレスおよび
連絡先 QR コード



咲耶会 facebook
QR コード